2026 年度

教　育　要　項

（シラバス）

第６学年

岩手医科大学歯学部

目　　次

教育要項の利用の仕方 …… 5
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） …… 6
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） …… 8
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） …… 9
評価方針（アセスメント・ポリシー） …… 10
岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー …… 12
2026 年度歯学部カリキュラム×コンピテンス･コンピテンシーマトリックス表 …… 15
2026 年度履修系統図 …… 17
2026 年度第 6 学年カリキュラム …… 18
2026 年度第 6 学年授業時間割 …… 19
歯学部歯学科教育課程ナンバリング表 …… 22
2026 年度第 6 学年カリキュラム履修科目一覧 …… 24
矢巾キャンパス教場平面図 …… 25
歯学部教場平面図 …… 31

授業科目

総合講義（Ⅱ） …… 37
解剖学 …… 40
組織学・発生学 …… 49
生理学 …… 55
生化学 …… 59
微生物学・免疫学 …… 64
薬理学 …… 69
病理学 …… 72
歯科理工学 …… 77
法歯科医学・災害歯科医学 …… 83
歯内療法学 …… 86
保存修復学 …… 93
歯周病学 …… 98
冠橋義歯学・口腔インプラント学 …… 107
有床義歯補綴学 …… 115

摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学 …… 123
口腔外科学 …… 127
歯科麻酔学 …… 140
歯科放射線学 …… 147
歯科矯正学 …… 155
小児歯科学 …… 162
障害者歯科学 …… 175
関連医学・内科学 …… 178
衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学 …… 181
4 学部合同セミナー …… 192

自由科目

海外英語演習 …… 195
地域医療課題解決演習 …… 197

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則 …… 201
岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程 …… 219
岩手医科大学歯学部における人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程 …… 221
学生心得 …… 223
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程 …… 230
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領 …… 231
岩手医科大学歯学部試験規程 …… 232
岩手医科大学歯学部試験規程の取扱内規 …… 235
進級・卒業に関する申し合わせ事項 …… 237
成績評価に対する異議申し立てに関する内規 …… 238
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程 …… 242
歯学部歯学科カリキュラムマップ …… 246
GPA・CAP 制度 …… 247
大学における単位の考え方と授業外学修について …… 248
岩手医科大学生命倫理規範 …… 249

岩手医科大学における人体標本取扱指針 ………………………………………………… 250
教育成果物の利用に関して ………………………………………………………… 250
学生健康診断規程 …………………………………………………………… 251
2026 年度学生健康診断等実施要領 ……………………………………………… 253
オフィスアワー …………………………………………………………… 255

教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学歯学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における歯学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

授業計画、授業内容について

科目ごとに 学修方針、教育成果*1、到達目標*2 を掲げています。

＊1 教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識･技能･態度が将来どのように利用されるかが分かります。

＊2 到達目標 —— 行動目標ともいわれ、学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

また、授業ごとに 内容、到達目標 を記載してありますので、各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを予め確認し、日々の予習復習に役立ててください。

教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自購入してください。

成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「歯学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

(方　式)

1．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

2．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

スモールグループチュートリアル（SG）について

スモールグループチュートリアル（SG）は、チューター1 人が 5～10 名の学生を担当し、随時、学生と接することにより学生の学業・生活面などについて把握し、その長所を伸ばすとともに問題点を改善する方策などをアドバイスするものです。

歯学部教務委員会

岩手医科大学　歯学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、充分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。歯学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

歯学部では、次のような人材を求めています。

1. 全人的な立場で周囲と交流できる協調性のある人
2. 明確な目的意識を持って、積極的に社会貢献のできる人
3. 科学的な思考のもとに周囲の現象を捉えることができる人
4. 医学や歯学を生涯学習の対象として捉え、意欲的に勉学のできる人
5. 国際社会における医療や研究活動に、積極的に参加する意欲のある人

多様な人材を募るために、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、医学部入学試験利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学者選抜により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価し、入学者を選抜します。

一般選抜、医学部入学試験利用選抜では、高等学校で履修する３教科（理科、数学、英語）についての筆記試験と面接試験により、入学後の修学に必要な学力を有しているかを確認します。筆記試験では、歯科医学を修得するために必要とされる生命現象を理論的に捉える力を評価するため、理科の試験を課します。また、歯科医療の現場で必要とされる医療統計の理解に必要な基礎学力や、国際的コミュニケーション能力の修得に資する基礎学力を確認するために、「数学」、「英語」の試験を課します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確かめるとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの結果をもとに、「外国語（英語）」、「国語、数学のいずれか１科目」、「理科、地歴公民、情報のいずれか１科目」について、基本的な学力を有するかを判定します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確認するとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

これらの試験を通して、歯科医師にふさわしい資質とバランスの取れた人格とを備えているかの総合的な判断をおこないます。

学校推薦型選抜では、志望理由書や調査書に基づいて学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、歯科医療の実践に必要とされる問題発見力とその問題解決に必要な思考力を有しているかを小論文にて評価します。面接試験では、歯科医療の現場で必要とされる自己の考えを人にわかりやすく説明する力や人の意見を聞きそれについて議論する力を評価するとともに、高校在籍時における学修態度、課外活動などを調査書により評価します。

総合型選抜では、志望理由書や調査書に基づき、学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、模擬授業で得た知識をもとに思考・表現する力を、理解度確認テストによって評価します。また、自己推薦書では、本学の建学の精神や教育理念に対する理解、地域医療への貢献意欲、多職種との協働姿勢などを確認し、面接と併せて、歯科医師としての適性・意欲・学力を多面的に評価します。

編入学者選抜は、高い目的意識をもつ他分野の履修者や社会経験者を受け入れ、それまでの経験を生かしながら歯科医師としての知識・態度・技能を修得することを目的に実施しています。選抜は小論文と面接とでおこない、歯科医師を志す熱意に加え、基礎知識や一般常識を確認し、学修に必要な資質を備えているかを総合的に判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

岩手医科大学　歯学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる歯科医師として以下の各資質を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学士（歯学）の学位を授与します。

1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。（プロフェッショナリズム）
2. 患者･家族や他職種と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。加えて ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルを身につけていること。（コミュニケーション能力）
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。（チーム医療の実践能力）
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。（包括的歯科医療の実践能力）
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取組む態度・技能が備わっていること。（地域保健・医療の実践能力）
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。（高水準の診療能力）
7. 国際的な保健・医療活動に貢献するための態度と基本的な語学能力を有すること。（国際貢献への資質）
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。（研究マインドの保持）
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。生涯学習のための ICT スキルを含む情報リテラシーを有していること。（生涯学習の実践）

以上の教育成果を達成することができるように六年一貫でカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第２条に定める期間を在学し、かつ第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得しなければなりません。その上で、各学年および卒業時に定められた成果評価試験（筆記式の試験、客観的臨床技能試験、態度評価）に合格したものを卒業とし、学士（歯学）の学位を授与します。

岩手医科大学歯学部教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

学士（歯学）の学位授与の方針を実現するために、汎用的な共通教育科目と、幅広い分野にわたる基礎専門科目、より専門的な臨床専門科目による教育課程を整備し、体系的な歯学の履修を可能にします。

1. 歯科医師の社会的責任を自覚し、初年時から継続的なプロフェッショナリズム教育を行います。（プロフェッショナリズムの育成）
2. 患者やその家族および他職種とのコミュニケーション能力を高めるため、医療面接を理解し体験する科目、チーム医療に関する科目を設置します。それらの科目のなかで、ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルについても学修します。（コミュニケーション能力の向上）
3. 地域の医療施設ならびに居宅、福祉施設等で多職種と協働して適切な保健・医療を提供するためには地域保健・医療の問題点の疫学的把握方法、職種間の相互理解と円滑なコミュニケーションが必要です。そのために社会歯科学系科目に加え、演習によるシミュレーション、現場実習等を行う科目を初年次から 6 年次までに設置します。（地域保健・医療、チーム医療の実践能力の育成）
4. 科学的根拠に基づいた診断と歯科診療の計画立案ならびに実践のために、基礎、臨床科目を統合した、包括的臨床科目教育を実施します。（包括的臨床歯科医学教育）
5. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で獲得するために、スチューデントクリニシャンシステムを導入し、自験を充実させた診療参加型実習を行います。（高水準の基本的診療能力の獲得）
6. 国際的な歯科医療活動に参加するための基本的な英語能力を身につけるために、歯科医療に関連する英単語から英会話を学修する歯科専門英語の科目を設置します。さらに培った語学力を実践する国際的体験コースを設置します（選択制）。（国際貢献の資質の育成）
7. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究マインドを涵養するために実際に課題に対する研究を行う科目を設置します。（研究マインドの涵養）
8. 生涯にわたる自己研鑽を継続するために必要な問題発見・解決能力を身につけるため、プレゼンテーション、PBL などの能動的学修機会を各科目に設けます。これらの中で生涯学習に必要な ICT スキルを含む情報リテラシーを学修する機会を設けます。（能動的学修の習慣化）

歯学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

【大学】
本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医療人として必要な資質を備えているかを、多面的な評価方法で判定します。

【歯学部】
本学歯学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定め、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得するためのカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

１．講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケ-ション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
２．知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的技能・行動表と業務現場評価法、および自己進達度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
３．筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
４．評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
５．歯学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの統括評価（進級判定あるいは卒業判定）を行います。
６．科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定に用いる統括評価に加え、形成的評価を随時行うことで到達目標に至る道程を明らかにします。
７．卒業に拘わる試験を除く各学年での統括試験では、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行います。また、何らかの事情で試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります（獲得した点数の 9 割に減じられたのが、最終評価になります)。
８．第 5 学年次で臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と統括試験で判定します。
９．科目履修は出席することが前提です。各学年次の講義・演習・実習を 1/3 以上欠席した場合、第 5 学年次の臨床実習を 1/5 以上欠席または学外連携プログラムを欠席した場合は、原則として評価対象から外れます。統括評価に出席状況は加えられません。
10．各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。

11. 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
12. 被評価者からの照会に応じる体制を整備します(統括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等)。

注

- 大学入学者選抜時のアセスメント・ポリシーは、アドミッション・ポリシーに含めます。
- 本学学生としての資質に欠けると思われる行動をとった場合は、他に定める処罰規定によって、処分します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

用語説明

- 判定;合否で表すものとして用いる、査定;連続変数で表すものに用いる、評価;判定・査定を包括した用語
- 段階的技能・行動表;ルーブリック、業務現場評価法;ワーク・プレイス・アセスメント WBAと言われるもので、代表的なものはMini-CEX (mini-clinical evaluation exercise)

岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー

Ⅰ　プロフェッショナリズム

関連コンピテンシー

1．医療倫理

医療は個人の尊厳・福利のためのものであることを理解し、歯科医療を行う上で、常に個人の尊厳が冒されるようなことのない方法を選択できる。

2．研究倫理

基礎医学研究、疫学研究、人を対象とした研究の計画において、倫理的かつ道義的な問題点を指摘することができる。

3．法と制度に則った歯科医療の提供

歯科医療に係わる法ならびに社会保障制度を理解し、法と制度に則った適正な歯科保健・医療サービスについて概説することができる。

4. 情報リテラシー

医学情報の適切な収集と理解および利用に関し高度な情報リテラシーを有し、患者情報の保護を実践できる。

Ⅱ　コミュニケーション能力

関連コンピテンシー

1．医療面接

歯科保健医療の提供のため、医学的に必要な情報を患者・家族から得ることができる。

2．インフォームドコンセント

検査を含む全ての診療行為の前に患者からの同意を得る態度が身についており、必要に応じて書面でのインフォームドコンセントを取得するための説明を行うことができる。

3．コミュニケーションスキル

基本的なコミュニケーションスキルを医療面接において適用できる。

4．プレゼンテーション能力

患者・家族や他職種に歯科専門職からの情報提供を行うための適切な説明またはプレゼンテーションを行うことができる。

5. ICT スキル

ICT を用いた遠隔コミュニケーションを円滑に行うことが出来る。

Ⅲ　チーム医療

関連コンピテンシー

1．他職種への理解

歯科保健医療に係わる職種を列挙し、チーム医療におけるそれらの役割を説明することができる。

2．コンサルテーション能力

他職種または専門医、上級医の専門性を理解し、コンサルテーションが必要な時機とコンサルテーション相手を判断することができる。

3．人間関係の構築

チーム医療を行うための良好な人間関係を構築するのに適切な態度をとることができる。

4．地域包括ケアシステムへの理解

地域包括ケアシステムの制度、構造と実践でのチーム医療の重要性を理解し、歯科医師としてシステム内で機能するための方法を列挙できる。

Ⅳ　包括的・継続的歯科医療

関連コンピテンシー

1．歯科医学的知識

疾患の病因、病態、治療法などを基礎歯科医学的知識に基づいて説明することができる。

2．歯科医学的診断能力

診察結果や検査値または画像検査結果から疾病の診断ならびにリスクの把握をすることができる。

3．EBM の実践能力

診療ガイドライン等による最新の根拠を参照し、適切かつ効率的な診療・予防計画策定を立案しようと努め、患者等の価値観を考慮した計画を策定することができる。

4．包括的・継続的歯科保健医療計画

歯科保健医療の包括性と継続性の重要性を説明でき、患者等の QOL の維持・向上のための予防、リハビリテーションを含めた長期的視点に立った歯科保健医療計画を策定することができる。

5．ライフステージに応じた歯科保健医療の提供

周術期ケア、終末期の食支援等を含めた様々なライフステージに応じた歯科保健医療を提案することができる。

6．健康教育

保健・医療への患者等の積極的参加の重要性を理解し、適切な行動変容を生じさせるための基本的行動科学理論を概説できる。

7．患者等への配慮

全ての局面で患者・家族等の苦痛や不安に配慮した診療を行うことができる。

Ⅴ　地域保健・医療

関連コンピテンシー

1．健康課題の疫学的把握

集団、地域の健康課題を把握するための統計指標を列挙し、与えられた資料から、集団、地域の健康課題を統計学的に分析することができる。

2．健康課題への公衆衛生的介入

集団、地域に認められる健康課題に対して公衆衛生的介入方法を提案することができる。

3．健康課題の変化への対応

地域、時代によって変化する健康課題を把握することができる。

4．医療連携

医療施設の種類を列挙し、それぞれの役割と連携方法を概説できる。

5．訪問歯科診療

訪問歯科診療の特殊性を理解し、生活の場における歯科医療の現場に参加できる。

Ⅵ　高水準の基本的診療能力の獲得

関連コンピテンシー

1．基本的治療の習得

高頻度に接する代表的歯科疾患（う蝕、歯周病など)、外傷（打撲、裂傷など）に対する検査、診断、基本的治療ができる。

2．高度技能習得への準備

高度な知識、技能を要する検査、治療の原理と手順を理解してそれらに対する介助ができる。

3．医療安全

歯科診療に必要な医療安全管理、感染対策を講じることができる。

Ⅶ　歯科医師としての可能性の追究

関連コンピテンシー

1．国際貢献

国際的な歯科保健・医療・研究活動に参加するための基本的な英会話ができる。また、国際社会の一員として文化、社会的背景の差違を考慮した国際交流を行うことができる。

2．研究（リサーチ）マインド

歯科医学に関わる疑問点に対する最新の情報を収集し、その内容を説明することができる。また、自ら研究計画を立案し、その研究を行うために必要な研究環境について説明できる。

3．生涯学習

生涯にわたる自己研鑽を継続するために自己の問題を発見することができ、問題解決のための方略を策定することができる。

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない
（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが
単位認定の要件である

レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが
単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である
（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

卒業時コンピテンス	関連コンピテンシー	全体選択数					第1学年 教養科目																																									第1学年 専門科目						第2学年 教養科目 ↓
		レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	医療倫理学	法学	心理学	医療における社会・行動科学	医療面接の基礎	データサイエンス	情報リテラシー	物理学	物理学実習	専門課程への化学	化学実習	エッセンシャル生物	専門課程への生物学	生物学実習	ERW Ⅰ	ERW Ⅱ	ESL Ⅰ	ESL Ⅱ	健康運動科学	ベーシック生物	スタンダード生物	アドバンスト生物	自然・文化人類学	ベーシック化学	ベーシック物理	解析学入門	医療とスポーツ	医療とコミュニケーション	道徳のしくみ	ベーシック数学	アドバンスト数学	アドバンスト化学	文学の世界	実践英語	医療と福祉	科学英語	医療と物語	人間関係論	パーソナリティ心理学	哲学の世界	医療と法律	歯科医学概論	解剖学Ⅰ	組織学基礎	生理学Ⅰ	生化学Ⅰ	臨床歯科学入門	医学統計学
Ⅰ プロフェッショナリズム	医療倫理																																																						
	研究倫理																																																						
	法と制度に則った歯科医療の提供																																																					
	情報リテラシー																																																					
Ⅱ コミュニケーション能力	医療面接																																																					
	インフォームドコンセント																																																					
	コミュニケーションスキル																																																					
	プレゼンテーション能力																																																					
	ICTスキル																																																					
Ⅲ チーム医療	他職種への理解																																																					
	コンサルテーション能力																																																					
	人間関係の構築																																																					
	地域包括ケアシステムへの理解																																																					
Ⅳ 包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																					
	歯科医学的診断能力																																																					
	EBMの実践能力																																																					
	包括的・継続的歯科保健医療計画																																																					
	ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																					
	健康教育																																																					
	患者等への配慮																																																					
Ⅴ 地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																				
	健康課題への公衆衛生的介入																																																				
	健康課題の変化への対応																																																				
	医療連携																																																					
	訪問歯科診療																																																					
Ⅵ 高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																				
	高度技能習得への準備																																																				
	医療安全																																																					
Ⅶ 歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																				
	研究（リサーチ）マインド																																																				
	生涯学習																																																					

公開準備中

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない
（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが
単位認定の要件である

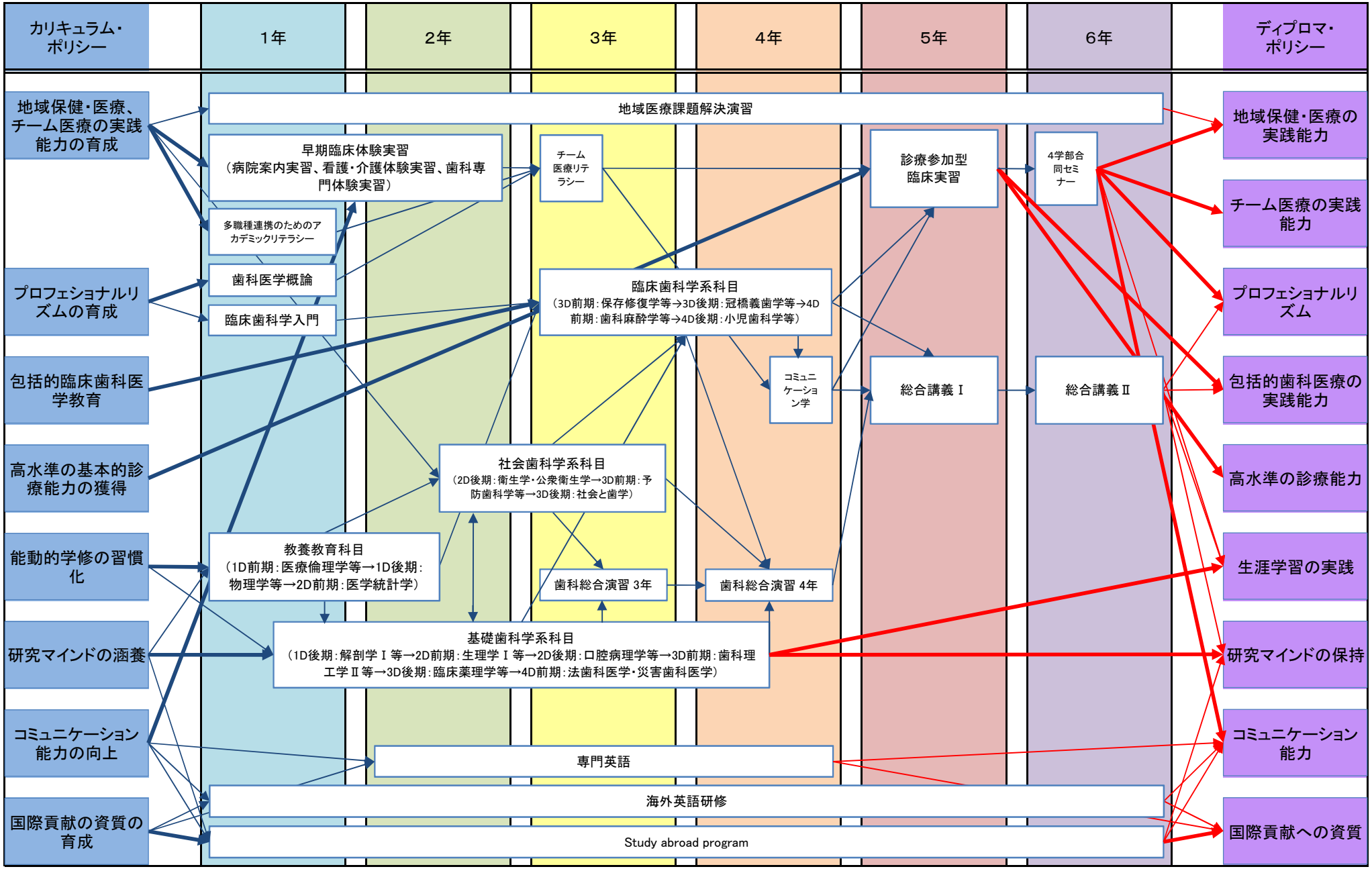
レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが
単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である
（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

		全体選択数					第2学年 専門科目											第3学年 専門科目																			第4学年 専門科目														5D 専門		6D 専門		自由科目	
		レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	解剖学Ⅱ	組織学・発生学	生理学Ⅱ	生化学Ⅱ	微生物学・免疫学Ⅰ	歯科理工学Ⅰ	薬理学Ⅰ	病理学総論	衛生学・公衆衛生学	歯科専門体験実習	専門英語（2年）	微生物学・免疫学Ⅱ	歯科理工学Ⅱ	薬理学Ⅱ	口腔病理学	予防歯科学	保存修復学	補綴学総論	歯科放射線学	医科学（3年）	歯周病学	臨床薬理学	社会と歯学	歯内療法学	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	冠橋義歯学	基礎科学演習	医療リベラルアーツ	歯科総合演習（3年）	チーム医療リテラシー	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	部分床義歯補綴学	口腔インプラント学	歯科麻酔学	法歯科医学・災害歯科医学	医科学（4年）	口腔外科学	歯科矯正学	小児歯科学	障害者歯科学	高齢者歯科医学	歯科総合演習（4年）	専門英語（4年）	コミュニケーション学	総合講義（Ⅰ）	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	総合講義（Ⅱ）	4学部合同セミナー	海外英語演習	地域医療課題解決演習
卒業時コンピテンス	関連コンピテンシー																																																							
Ⅰ プロフェッショナリズム	医療倫理																																																							
	研究倫理																																																							
	法と制度に則った歯科医療の提供																																																							
	情報リテラシー																																																							
Ⅱ コミュニケーション能力	医療面接																																																							
	インフォームドコンセント																																																							
	コミュニケーションスキル																																																							
	プレゼンテーション能力																																																							
	ICTスキル																																																							
Ⅲ チーム医療	他職種への理解																																																							
	コンサルテーション能力																																																							
	人間関係の構築																																																							
	地域包括ケアシステムへの理解																																																							
Ⅳ 包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																							
	歯科医学的診断能力																																																							
	EBMの実践能力																																																							
	包括的・継続的歯科保健医療計画																																																							
	ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																							
	健康教育																																																							
	患者等への配慮																																																							
Ⅴ 地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																							
	健康課題への公衆衛生的介入																																																							
	健康課題の変化への対応																																																							
	医療連携																																																							
	訪問歯科診療																																																							
Ⅵ 高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																							
	高度技能習得への準備																																																							
	医療安全																																																							
Ⅶ 歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																							
	研究（リサーチ）マインド																																																							
	生涯学習																																																							

公開準備中

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの関連（2026年度）



2026年度　第6学年　カリキュラム

学期区分	期　　間	週　数
オリエンテーション	2026年 3月27日（金）	
国試解説講義	3月30日（月）～ 4月 4日（土）	1週
実力確認試験	4月 6日（月）～ 4月 7日（火）	
総合講義Ａ①	4月 8日（水）～ 8月 6日（木）	17週
選抜講義前期	5月18日（月）～ 6月30日（火）	7週
業者模試①	6月12日（金）	
到達度評価試験	7月13日（月）～ 7月14日（火）	
夏季休業	8月 7日（金）～ 8月17日（月）	2週
総合講義Ａ②	8月18日（火）～ 8月26日（水）	2週
総合試験①	8月27日（木）～ 8月28日（金）	
同上解説講義	8月31日（月）～ 9月 3日（木）	1週
総合講義Ｂ	9月 7日（月）～ 11月 4日（水）	9週
選抜講義後期	9月 7日（月）～ 12月 7日（月）	13週
業者模試②	9月10日（木）～ 9月11日（金）	
業者模試③	10月29日（木）～10月30日（金）	
総合講義Ｃ	11月 5日（木）～ 12月 7日（月）	4週
総合試験②	12月10日（木）～ 12月11日（金）	
同上解説講義	12月14日（月）～ 12月17日（木）	1週
冬期休業	12月25日（金）～ 2027年 1月 4日（月）	2週
卒業判定Ⅰ	1月 6日（水）	
卒業判定保留解除試験	1月12日（火）	
知識統合講義	1月13日（水）～ 1月27日（水）	2週
卒業判定Ⅱ	1月15日（金）	
備考	授業 37週 試験・業者模試 2週 休み 4週	

2026年度　第6学年　前期　授業時間割

月					火					水					木					金					土				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10
3/23					3/24					3/25					3/26					3/27					3/28				
春季休業					春季休業					春季休業					春季休業					オリエンテーション	×	×	×		×	×			
3/30					3/31					4/1					4/2					4/3					4/4				
×	生理	微生	生化	*	*	麻酔	歯内	法災	*	*	歯周	冠イン	放射	*	*	予防	*	矯正	口外	*	小児	有床	病理	*	*	*				
×	解剖	薬理	*	*	*	障害	修復	組織	*	*	歯周	冠イン	理工	*	*	予防	*	矯正	口外	*	小児	嚥訪高	内科	*	*	*				
国試解説講義の時間割 → 4限 14:40 ～ 16:10 、5限 16:20 ～ 17:50 （上段:前半45分/下段:後半45分）																													
4/6					4/7					4/8					4/9					4/10									
実力確認試験(2日間)					実力確認試験(2日間)					組織	組織	薬理		復試	生化	生化	*		復試	病理	病理	薬理		復試						
4/13					4/14					4/15					4/16					4/17					4/18				
生理	生理	生理		復試	理工	理工	予防		復試	組織	組織	薬理		復試	生化	生化	*		復試	微生	微生	微生		復試	4学部合同セミナー				
4/20					4/21					4/22					4/23					4/24					4/25				
生理	生理	生理		復試	理工	理工	微生		復試	組織	組織	薬理		復試	×	×	健康診断	×		生理	生理	薬理		復試	×	×				
4/27					4/28					4/29					4/30					5/1					5/2				
*	*	予防		復試	予防	予防	予防		復試	昭和の日					微生	微生	*		復試	*	*	薬理		復試	*	*				
5/4					5/5					5/6					5/7					5/8					5/9				
みどりの日					こどもの日					振替休日					GW休暇					GW休暇					GW休暇				
5/11					5/12					5/13					5/14					5/15									
解剖	解剖	予防		復試	理工	理工	病理		復試	組織	組織	薬理		復試	生化	生化	*		復試	*	*	薬理		復試						
5/18					5/19					5/20					5/21					5/22					5/23				
*	*	*	*	×	理工	理工	有床	*	復試	障害	障害	麻酔	組織	復試	生化	生化	*	*	復試	口外	口外	口外	病理	復試	×	×				
5/25					5/26					5/27					5/28					5/29									
予防	予防	病理	*	復試	予防	予防	嚥下	嚥下	復試	小児	小児	麻酔	薬理	復試	矯正	矯正	矯正	矯正	復試	口外	口外	*	口外	復試						
6/1					6/2					6/3					6/4					6/5					6/6				
歯周	歯周	修復	歯周	復試	予防	予防	有床	予防	復試	小児	小児	麻酔	麻酔	復試	矯正	矯正	放射	生化	復試	口外	口外	麻酔	口外	復試	*	*				
6/8					6/9					6/10					6/11					6/12									
予防	予防	修復	予防	復試	歯周	歯周	有床	有床	復試	小児	小児	麻酔	小児	復試	矯正	矯正	放射	放射	復試	第1回全国模試(麻布基礎)									
6/15					6/16					6/17					6/18					6/19									
解剖	解剖	病理	*	復試	歯周	歯周	有床	有床	復試	小児	小児	麻酔	冠イ	復試	矯正	矯正	修復	矯正	復試	口外	口外	麻酔	微生	復試						
6/22					6/23					6/24					6/25					6/26					6/27				
予防	予防	歯内	解剖	復試	有床	有床	理工	理工	復試	冠イ	冠イ	障害	冠イ	復試	矯正	矯正	修復	修復	復試	口外	口外	麻酔	*	復試	×	×				
6/29					6/30					7/1					7/2					7/3					7/4				
有床	有床	歯内	歯内	復試	予防	予防	理工	生理	復試	冠イ	冠イ	法災		復試	矯正	矯正	修復		復試	口外	口外	麻酔		復試	*	*				
7/6					7/7					7/8					7/9					7/10									
解剖	解剖	*		復試	嚥下	麻酔	理工		復試	小児	小児	法災		復試	矯正	矯正	*		復試	有床	有床	有床		復試						
7/13					7/14					7/15					7/16					7/17									
到達度評価試験(2日間)					到達度評価試験(2日間)					冠イ	冠イ	内科		復試	放射	放射	歯内		復試	口外	口外	口外		復試						
7/20					7/21					7/22					7/23					7/24					7/25				
海の日					放射	放射	理工		復試	冠イ	冠イ	*		復試	放射	放射	歯内		復試	口外	口外	口外		復試	×	×				
7/27					7/28					7/29					7/30					7/31					8/1				
嚥下	嚥下	病理		復試	予防	予防	理工		復試	冠イ	冠イ	内科		復試	放射	放射	歯内		復試	口外	口外	病理		復試	*	*				
8/3					8/4					8/5					8/6					8/7									
解剖	解剖	病理		復試	嚥下	理工	内科		復試	冠イ	冠イ	内科		復試	微生	微生	*		復試	夏季休業					夏季休業				
8/10					8/11					8/12					8/13					8/14									
夏季休業/山の日					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業				
8/17					8/18					8/19					8/20					8/21					8/22				
夏季休業					予防	予防	予防		復試	冠イ	冠イ	内科		復試	*	*	*		×	口外	口外	病理		復試	×	×				
8/24					8/25					8/26					8/27					8/28									
*	*	*		×	*	*	*		×	*	*	*		×	第1回総合試験(2日間)					第1回総合試験(2日間)									
8/31					9/1					9/2					9/3					9/4					9/5				
解説講義					解説講義					解説講義					解説講義					試験等予備日					×	×			

→ 国家試験解説講義　→ 基盤形成講義Ⅱ　→ 選抜講義

2026年度　第6学年　後期　授業時間割

月					火					水					木					金					土				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～15:40	16:40～17:10
9/7					9/8					9/9					9/10					9/11									
修復	修復	嚥下	*	復試	歯周	歯周	嚥下	組織	復試	小児	麻酔	*	麻酔	復試	第2回全国模試(DES120-1)					第2回全国模試(DES120-1)									
9/14					9/15					9/16					9/17					9/18									
修復	修復	修復	修復	復試	歯周	歯周	嚥下	生化	復試	麻酔	麻酔	小児	小児	復試	放射	矯正	矯正	矯正	復試	口外	口外	口外	薬理	復試					
9/21					9/22					9/23					9/24					9/25					9/26				
敬老の日					国民の休日					秋分の日					矯正	矯正	矯正	矯正	復試	予備校講義/有志模試					×	×			
9/28					9/29					9/30					10/1					10/2					10/3				
放射	修復	修復	修復	復試	歯周	歯周	歯周	生理	復試	冠イ	冠イ	小児	小児	復試	矯正	矯正	歯内	微生	復試	口外	口外	口外	病理	復試	口外	口外			
10/5					10/6					10/7					10/8					10/9									
矯正	矯正	矯正	*	復試	歯周	歯周	歯周	歯周	復試	冠イ	冠イ	*	歯周	復試	歯内	歯内	歯内	歯内	復試	口外	口外	口外	病理	復試					
10/12					10/13					10/14					10/15					10/16									
スポーツの日					有床	有床	有床	インフル予防接種		小児	冠イ	冠イ	冠イ	復試	歯内	歯内	歯内	歯内	復試	予備校講義/有志模試									
10/19					10/20					10/21					10/22					10/23					10/24				
矯正	矯正	有床	解剖	復試	有床	有床	有床	有床	復試	小児	冠イ	冠イ	冠イ	復試	口外	口外	口外	口外	復試	口外	口外	口外	口外	復試	×	×			
10/26					10/27					10/28					10/29					10/30									
矯正	矯正	有床	有床	復試	有床	有床	有床	理工	復試	小児	冠イ	冠イ	冠イ	復試	全国模試(麻布120-2)					全国模試(麻布120-2)									
11/2					11/3					11/4					11/5					11/6					11/7				
*	*	*	*	×	文化の日					小児	小児	放射	放射	復試	口外	口外	口外	口外	復試	予備校講義/有志模試					×	×			
11/9					11/10					11/11					11/12					11/13									
予防	予防	予防	予防	復試	歯周	歯周	微生	嚥下	復試	麻酔	薬理	*	麻酔	復試	歯内	歯内	*	*	復試	予備校講義/有志模試									
11/16					11/17					11/18					11/19					11/20									
予防	予防	病理	予防	復試	組織	理工	理工	理工	復試	放射	法歯	内科	法歯	復試	矯正	矯正	生化	*	復試	予備校講義/有志模試									
11/23					11/24					11/25					11/26					11/27					11/28				
勤労感謝の日					嚥下	嚥下	生理	嚥下	復試	小児	小児	障害	障害	復試	修復	修復	*	*	復試	予備校講義/有志模試					×	×			
11/30					12/1					12/2					12/3					12/4					12/5				
*	解剖	病理	予防	復試	有床	有床	*	有床	復試	冠イ	冠イ	*	放射	復試	予備校講義/有志模試					予備校講義/有志模試					×	×			
12/7					12/8					12/9					12/10					12/11									
*	*	*	*	×	予備校講義/有志模試					予備校講義/有志模試					第2回総合試験(2日間)					第2回総合試験(2日間)									
12/14					12/15					12/16					12/17					12/18									
解説講義					解説講義					解説講義					解説講義					試験等予備日									
12/21					12/22					12/23					12/24					12/25					12/26				
オーダー講義/予備校講義/有志模試					オーダー講義/予備校講義/有志模試					オーダー講義/予備校講義/有志模試					オーダー講義/予備校講義/有志模試					冬季休業					冬季休業				
12/28					12/29					12/30					12/31					1/1									
冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業				
1/4					1/5					1/6					1/7					1/8									
冬季休業					*					卒業判定Ⅰ					*					*									
1/11					1/12					1/13					1/14					1/15									
成人の日					卒業判定保留解除試験					*					*					卒業判定Ⅱ									
1/18					1/19					1/20					1/21					1/22					1/23				
*					*					*					*					*					×	×			
1/25					1/26					1/27					1/28					1/29					1/30				
*					*					*					*					*									

→ 臨床実地問題特化講義　→ 必修問題特化講義　→ 選抜講義

2026年度 第6学年 総合試験解説講義日程

8・9月

第1回総合試験解説講義

27	木	第1回総合試験
28	金	
31	月	日程調整中（後程お知らせします）
1	火	
2	水	
3	木	

12月

第2回総合試験解説講義

10	木	第2回総合試験
11	金	
14	月	日程調整中（後程お知らせします）
15	火	
16	水	
17	木	

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	01	D1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
				Z:教養	01	D1-L1-Z01	医療倫理学
					02	D1-L1-Z02	法学
					03	D1-L1-Z03	心理学
					04	D1-L1-Z04	医療における社会・行動科学
					05	D1-L1-Z05	医療面接の基礎
					06	D1-L1-Z06	データサイエンス
					07	D1-L1-Z07	情報リテラシー
					08	D1-L1-Z08	物理学
					09	D1-L1-Z09	物理学実習
					10	D1-L1-Z10	専門課程への化学
					11	D1-L1-Z11	化学実習
					12	D1-L1-Z12	エッセンシャル生物
					13	D1-L1-Z13	専門課程への生物学
					14	D1-L1-Z14	生物学実習
					15	D1-L1-Z15	English Reading & WritingⅠ
					16	D1-L1-Z16	English Reading & WritingⅡ
					17	D1-L1-Z17	English Speaking & ListeningⅠ
					18	D1-L1-Z18	English Speaking & ListeningⅡ
					19	D1-L1-Z19	健康運動科学
			2:選択必修	Z:教養	20	D1-L2-Z20	ベーシック生物
					21	D1-L2-Z21	スタンダード生物
					22	D1-L2-Z22	アドバンスト生物
					23	D1-L2-Z23	自然・文化人類学
					24	D1-L2-Z24	ベーシック化学
					25	D1-L2-Z25	ベーシック物理
					26	D1-L2-Z26	解析学入門
					27	D1-L2-Z27	医療とスポーツ
					28	D1-L2-Z28	医療とコミュニケーション
					29	D1-L2-Z29	道徳のしくみ
					30	D1-L2-Z30	ベーシック数学
					31	D1-L2-Z31	アドバンスト数学
					32	D1-L2-Z32	アドバンスト化学
					33	D1-L2-Z33	文学の世界
					34	D1-L2-Z34	実践英語
					35	D1-L2-Z35	医療と福祉
					36	D1-L2-Z36	科学英語
					37	D1-L2-Z37	医療と物語
					38	D1-L2-Z38	人間関係論
					39	D1-L2-Z39	パーソナリティ心理学
					40	D1-L2-Z40	哲学の世界
					41	D1-L2-Z41	医療と法律
		S:専門	1:必修	B:プロフェッショナリズム	01	D1-S1-B01	歯科医学概論
				C:基礎歯科医学	01	D1-S1-C01	解剖学Ⅰ
					02	D1-S1-C02	組織学基礎
					03	D1-S1-C03	生理学Ⅰ
					04	D1-S1-C04	生化学Ⅰ
				B:プロフェッショナリズム	02	D1-S1-B02	臨床歯科学入門
	2:2年次 （基礎レベル）	L:教養	1:必修	Z:教養	42	D2-L1-Z42	医学統計学
		S:専門		C:基礎歯科医学	06	D2-S1-C06	解剖学Ⅱ
					07	D2-S1-C07	組織学・発生学
					08	D2-S1-C08	生理学Ⅱ
					09	D2-S1-C09	生化学Ⅱ
					10	D2-S1-C10	微生物学・免疫学Ⅰ
					11	D2-S1-C11	歯科理工学Ⅰ
					12	D2-S1-C12	薬理学Ⅰ
					13	D2-S1-C13	病理学総論
				D:社会歯科医学	01	D2-S1-D01	衛生学・公衆衛生学
				B:プロフェッショナリズム	03	D2-S1-B03	歯科専門体験実習
				C:基礎歯科医学	14	D2-S1-C14	専門英語（2年）
	3:3年次 （応用/発展レベル）	S:専門	1:必修	C:基礎歯科医学	15	D3-S1-C15	微生物学・免疫学Ⅱ
					16	D3-S1-C16	歯科理工学Ⅱ
					17	D3-S1-C17	薬理学Ⅱ
					18	D3-S1-C18	口腔病理学
				E:臨床歯科医学	01	D3-S1-E01	予防歯科学
					02	D3-S1-E02	保存修復学
					03	D3-S1-E03	補綴学総論
					04	D3-S1-E04	歯科放射線学
					05	D3-S1-E05	医科学（3年）
					06	D3-S1-E06	歯周病学
				C:基礎歯科医学	19	D3-S1-C19	臨床薬理学
				D:社会歯科医学	02	D3-S1-D02	社会と歯学
				E:臨床歯科医学	07	D3-S1-E07	歯内療法学
					08	D3-S1-E08	全部床義歯補綴学（Ⅰ）
					09	D3-S1-E09	冠橋義歯学
				C:基礎歯科医学	20	D3-S1-C20	基礎科学演習
				D:社会歯科医学	03	D3-S1-D03	医療リベラルアーツ
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	01	D3-S1-F01	歯科総合演習（3年）
				A:IPE	02	D3-S1-A02	チーム医療リテラシー

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	4:4年次 （高度レベル）	S:専門	1:必修		11	D4-S1-E11	全部床義歯補綴学（Ⅱ）
					12	D4-S1-E12	部分床義歯補綴学
					14	D4-S1-E14	歯科麻酔学
				C:基礎歯科医学	21	D4-S1-C21	法歯科医学・災害歯科医学
				E:臨床歯科医学	15	D4-S1-E15	医科学（4年）
					16	D4-S1-E16	口腔外科学
					17	D4-S1-E17	口腔インプラント学
					18	D4-S1-E18	歯科矯正学
					19	D4-S1-E19	小児歯科学
					20	D4-S1-E20	障害者歯科学
					21	D4-S1-E21	専門英語（4年）
					22	D4-S1-E22	高齢者歯科医学
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	02	D4-S1-F02	歯科総合演習（4年）
				E:臨床歯科医学	23	D4-S1-E23	コミュニケーション学
	5:5年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	03	D5-S1-F03	総合講義（Ⅰ）
				G:臨床実習	01	D5-S1-G01	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）
	6:6年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	04	D6-S1-F04	総合講義（Ⅱ）
				A:IPE	03	D6-S1-A03	4学部合同セミナー
	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	3:自由	Z:教養	43	D1-L3-Z43	海外英語演習
		S:専門		A:IPE	04	D1-S3-A04	地域医療課題解決演習

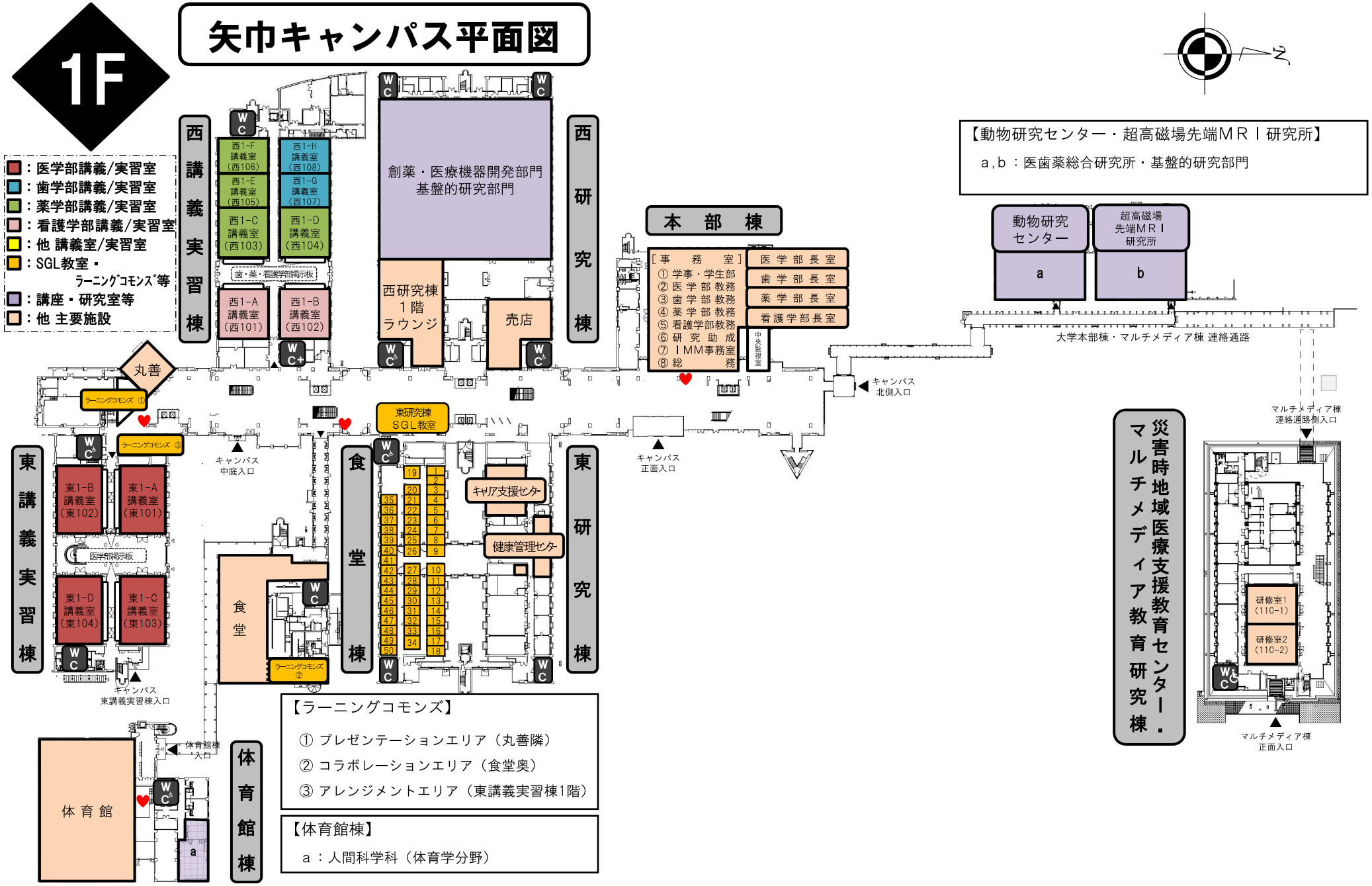
D1ーS1ーA1
①②ー③④ー⑤⑥

①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル（または入門／導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号（2桁）
D:歯学部	2:2年次配当レベル（または基礎レベル）	S:専門	2:選択必修	B:プロフェッショナリズム	
P:薬学部	3:3年次配当レベル（または応用／発展レベル）		3:自由	C:基礎歯科医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル（または高度レベル）			D:社会歯科医学	
	5:5年次配当レベル			E:臨床歯科医学	
	6:6年次配当レベル			F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1～4のレベルで振り分ける。			G:臨床実習	
				Z:教養	

2026年度　第6学年カリキュラム　履修科目一覧

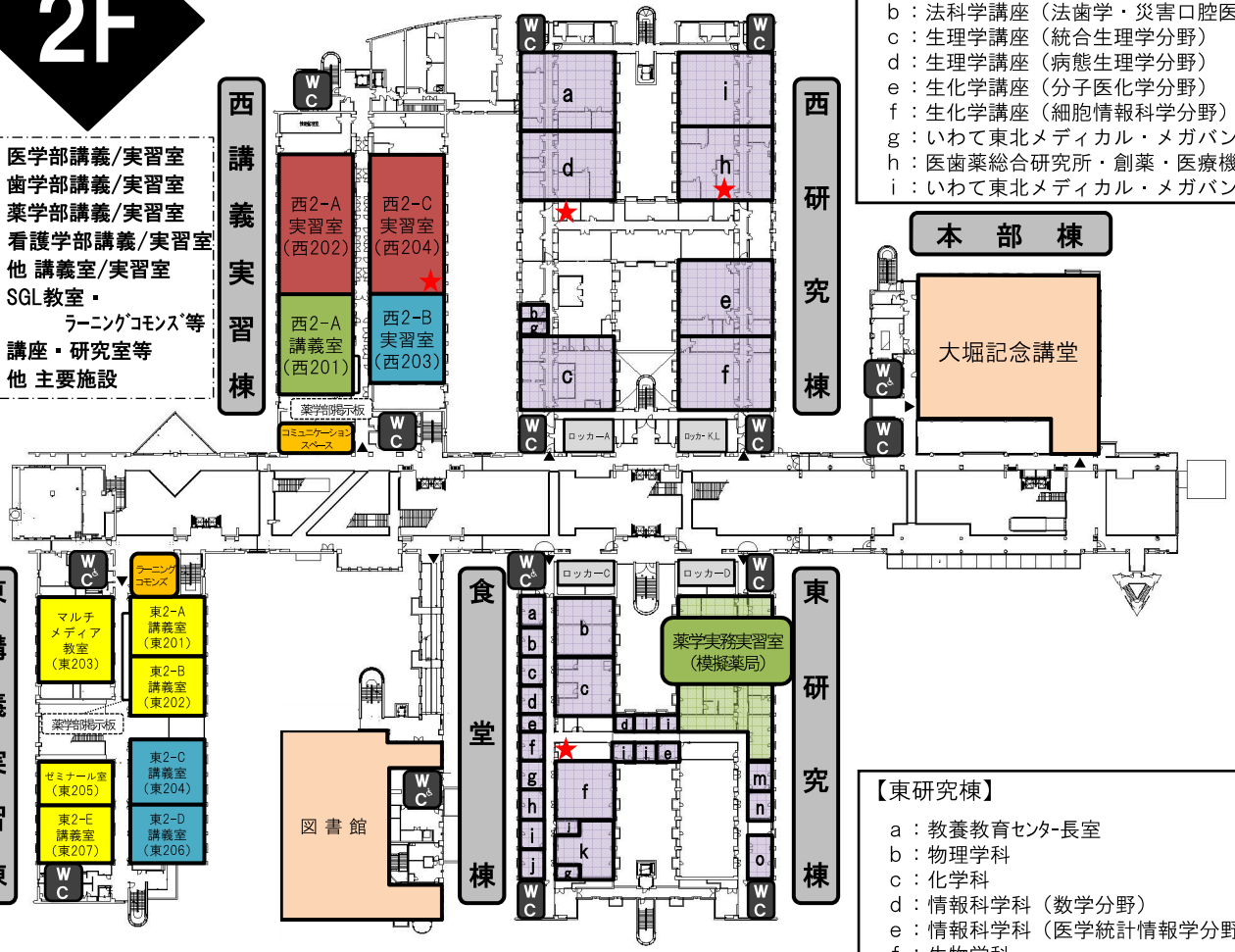
区分	科目名		前期		後期		総時間数		単位	備考
			コマ数	時間	コマ数	時間	コマ数	時間		
専門科目	総合講義（Ⅱ）	講義	―	518.8	―	332.8	―	851.5	30.0	
	４学部合同セミナー	演習	―	4.0			―	4.0	1.0	
合計				522.8		332.8		855.5	31.0	

矢巾キャンパス平面図


1F
■：医学部講義/実習室
■：歯学部講義/実習室
■：薬学部講義/実習室
■：看護学部講義/実習室
■：他 講義室/実習室
■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
■：講座・研究室等
■：他 主要施設
西講義実習棟
西1-F講義室（西106）
西1-H講義室（西108）
西1-E講義室（西105）
西1-G講義室（西107）
西1-C講義室（西103）
西1-D講義室（西104）
歯・薬・看護学部掲示板
西1-A講義室（西101）
西1-B講義室（西102）
創薬・医療機器開発部門
基盤的研究部門
西研究棟1階ラウンジ
売店
西研究棟
本部棟
［事務室］
① 学事・学生部
② 医学部教務
③ 歯学部教務
④ 薬学部教務
⑤ 看護学部教務
⑥ 研究助成
⑦ IMM事務室
⑧ 総務
医学部長室
歯学部長室
薬学部長室
看護学部長室
中央監視室
キャンパス北側入口
大学本部棟・マルチメディア棟 連絡通路
動物研究センター
a
超高磁場先端MRI研究所
b
【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】
a,b：医歯薬総合研究所・基盤的研究部門
丸善
ラーニングコモンズ①
ラーニングコモンズ③
キャンパス中庭入口
東研究棟SGL教室
キャリア支援センター
健康管理センター
キャンパス正面入口
東講義実習棟
東1-B講義室（東102）
東1-A講義室（東101）
医学部掲示板
東1-D講義室（東104）
東1-C講義室（東103）
キャンパス東講義実習棟入口
食堂
食堂棟
ラーニングコモンズ②
東研究棟
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟
マルチメディア棟連絡通路側入口
研修室1（110-1）
研修室2（110-2）
マルチメディア棟正面入口
体育館
体育館棟入口
体育館棟
【ラーニングコモンズ】
① プレゼンテーションエリア（丸善隣）
② コラボレーションエリア（食堂奥）
③ アレンジメントエリア（東講義実習棟1階）
【体育館棟】
a：人間科学科（体育学分野）
：AED（自動体外式除細動器）
：トイレ（♿：多目的付，＋：オストメイト対応）

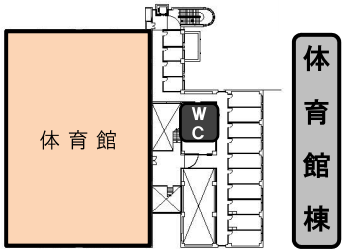
2F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

- a：法科学講座（法医学分野）
- b：法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）
- c：生理学講座（統合生理学分野）
- d：生理学講座（病態生理学分野）
- e：生化学講座（分子医化学分野）
- f：生化学講座（細胞情報科学分野）
- g：いわて東北メディカル・メガバンク機構
- h：医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
- i：いわて東北メディカル・メガバンク機構

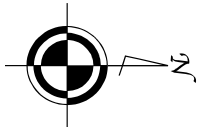


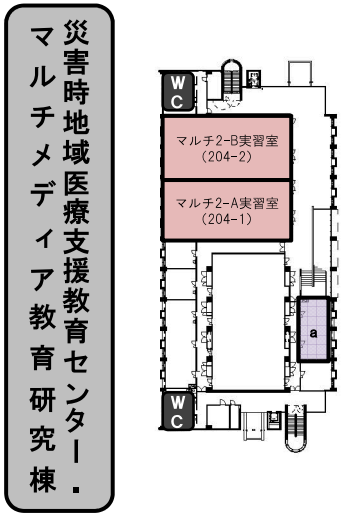
【東研究棟】

- a：教養教育ｾﾝﾀｰ長室
- b：物理学科
- c：化学科
- d：情報科学科（数学分野）
- e：情報科学科（医学統計情報学分野）
- f：生物学科
- g：人間科学科（心理学・行動科学分野）
- h：人間科学科（文学分野）
- i：外国語学科（英語分野）
- j：人間科学科（哲学分野）
- k：人文社会語学系研究室
- l：人間科学科（法学分野）
- m：全学教育推進機構長室
- n：口腔医学講座（歯科医学教育学分野）
- o：看護専門基礎講座

★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）





【災害時地域医療支援教育センター】

- a：救急・災害医学講座

3F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設

★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

【西研究棟】

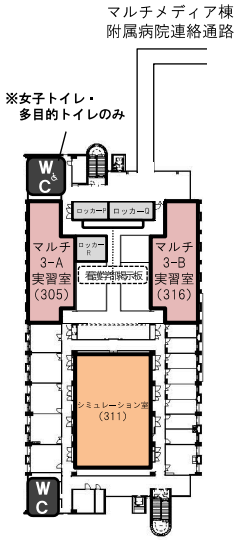
- a：医療工学講座
- b：衛生学公衆衛生学講座
- c：微生物学講座（感染症学・免疫学分野）
- d：微生物学講座（分子微生物学分野）
- e：薬理学講座（情報伝達医学分野）
- f：薬理学講座（病態制御学分野）
- g：病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）
- h：病態薬理学講座（薬剤治療学分野）
- i：医学教育学講座教育支援システム開発分野

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（生体防御学分野）
- b：生物薬学講座（機能生化学分野）
- c：臨床薬学講座（情報薬科学分野）
- d：臨床薬学講座（臨床薬剤学分野）
- e：臨床薬学講座（地域医療薬学分野）
- f：臨床薬学講座（薬学教育学分野）
- g：病態薬理学講座（臨床医化学分野）
- h：いわて東北メディカル・メガバンク機構

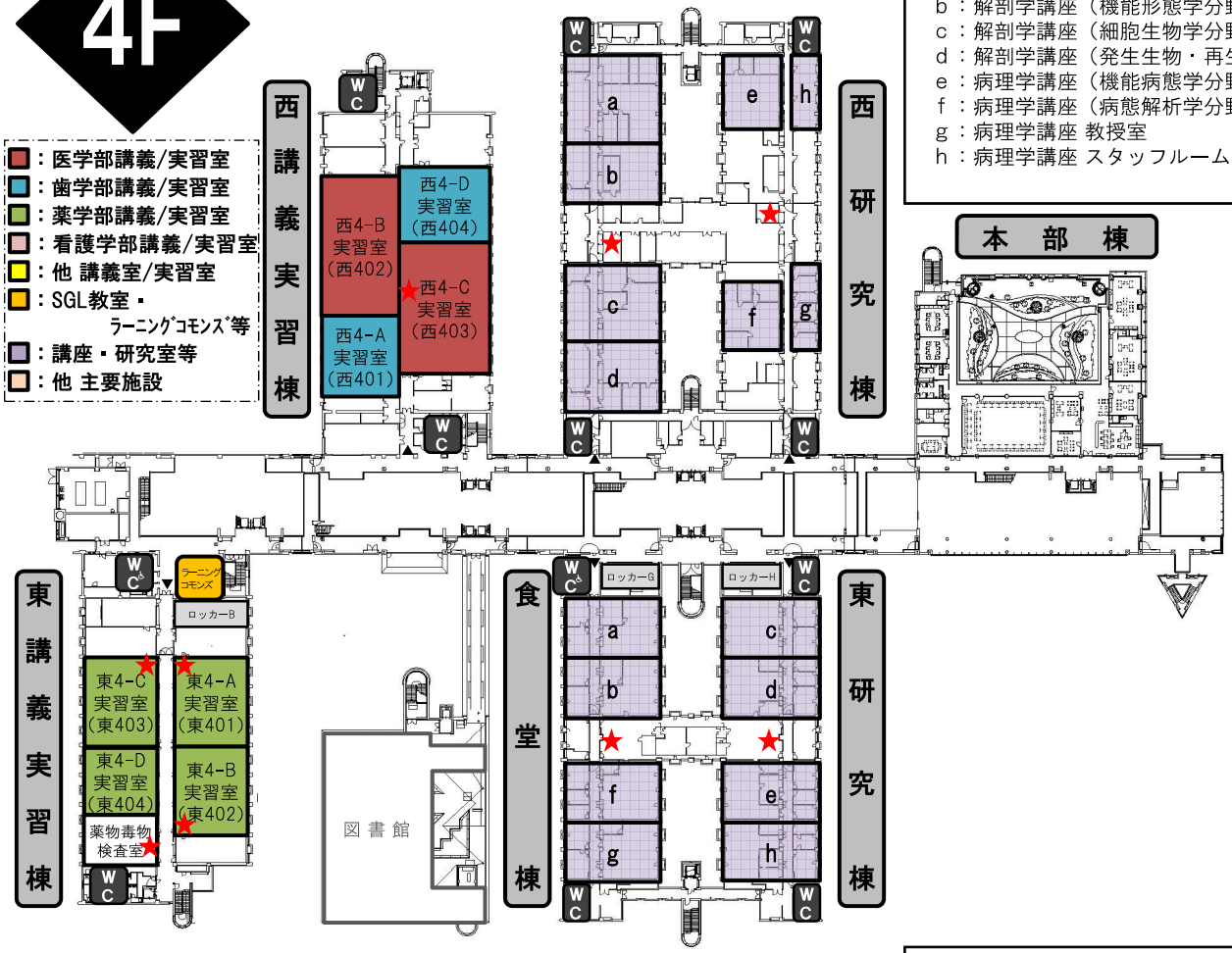
動物研究センター

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



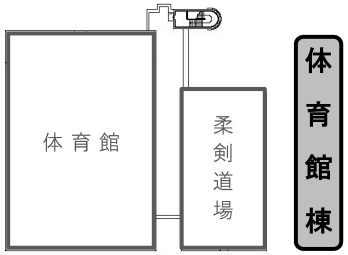
4F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

- a：解剖学講座（人体発生学分野）
- b：解剖学講座（機能形態学分野）
- c：解剖学講座（細胞生物学分野）
- d：解剖学講座（発生生物・再生医学分野）
- e：病理学講座（機能病態学分野）
- f：病理学講座（病態解析学分野）
- g：病理学講座 教授室
- h：病理学講座 スタッフルーム



体育館棟

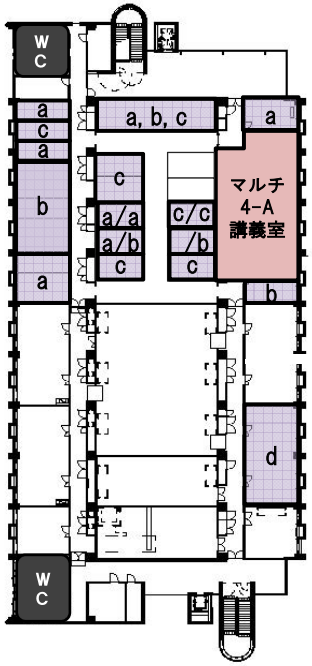
★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（神経科学分野）
- b：薬科学講座（分析化学分野）
- c：薬科学講座（天然物化学分野）
- d：薬科学講座（創薬有機化学分野）
- e：薬科学講座（構造生物薬学分野）
- f：医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野）
- g：医療薬科学講座（創剤学分野）
- h：医療薬科学講座（衛生化学分野）

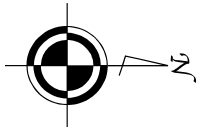
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



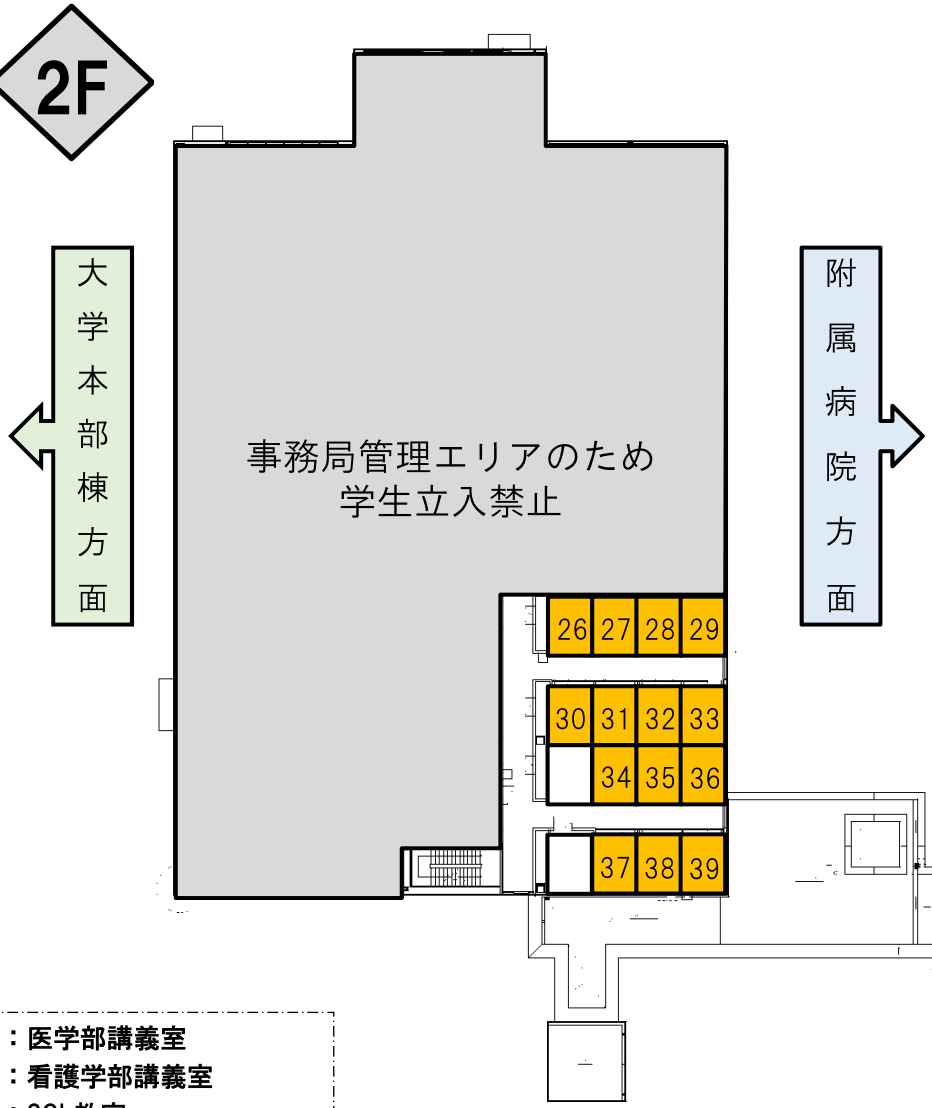
【マルチメディア教育研究棟】

- a：共通基盤看護学講座
- b：地域包括ケア講座
- c：成育看護学講座
- d：医学教育学講座

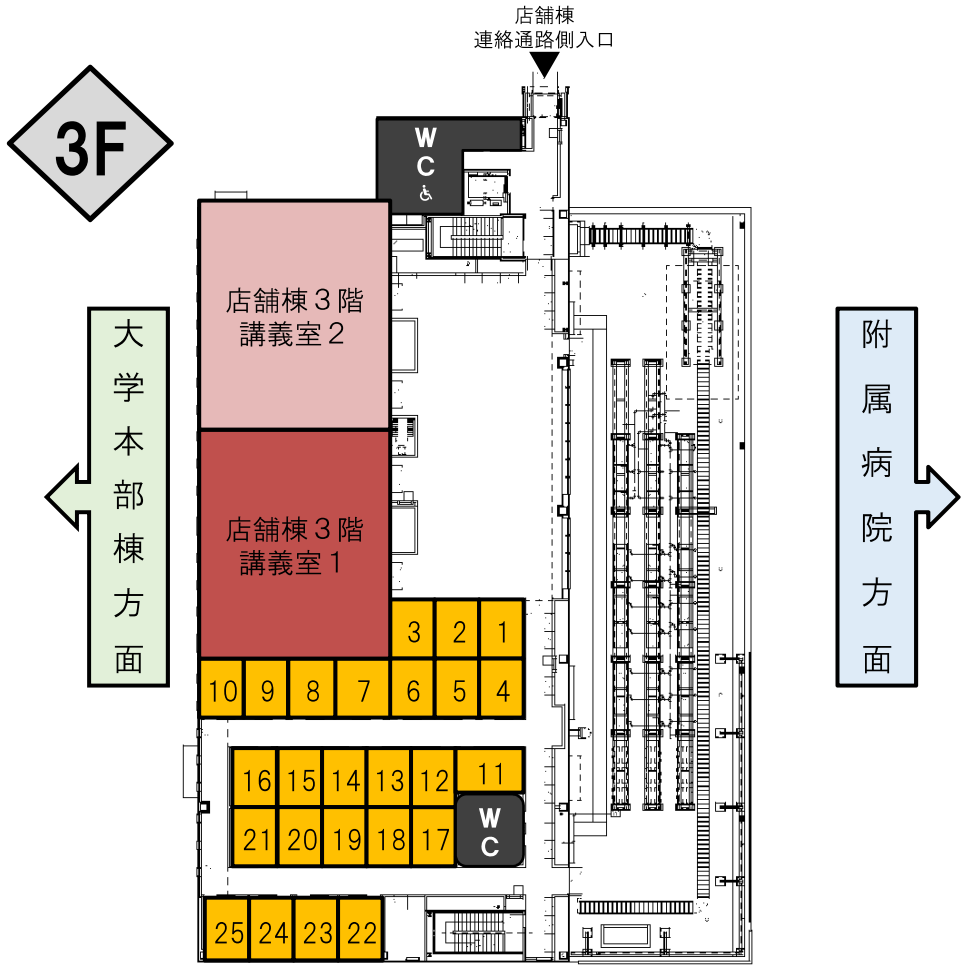
トクタヴェール（店舗棟）



2F



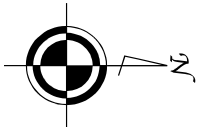
3F



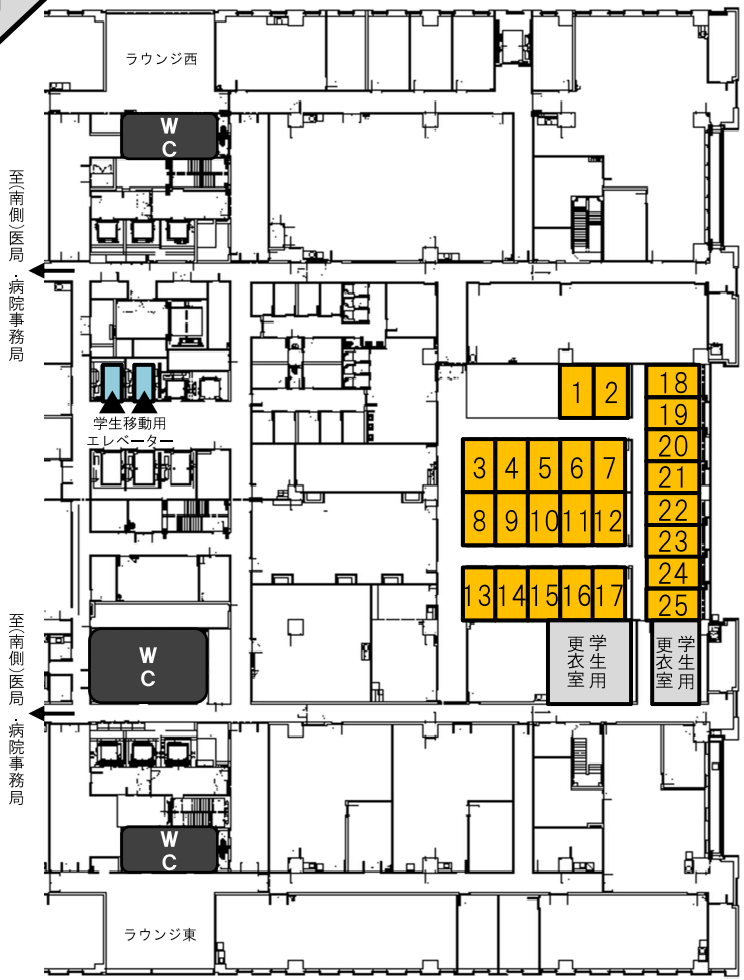
- ■：医学部講義室
- ■：看護学部講義室
- ■：SGL教室
- WC：トイレ（♿ ：多目的付）

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

附　属　病　院



5F



■：SGL教室
W C：トイレ（♿ ：多目的付）

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

歯学部教場平面図

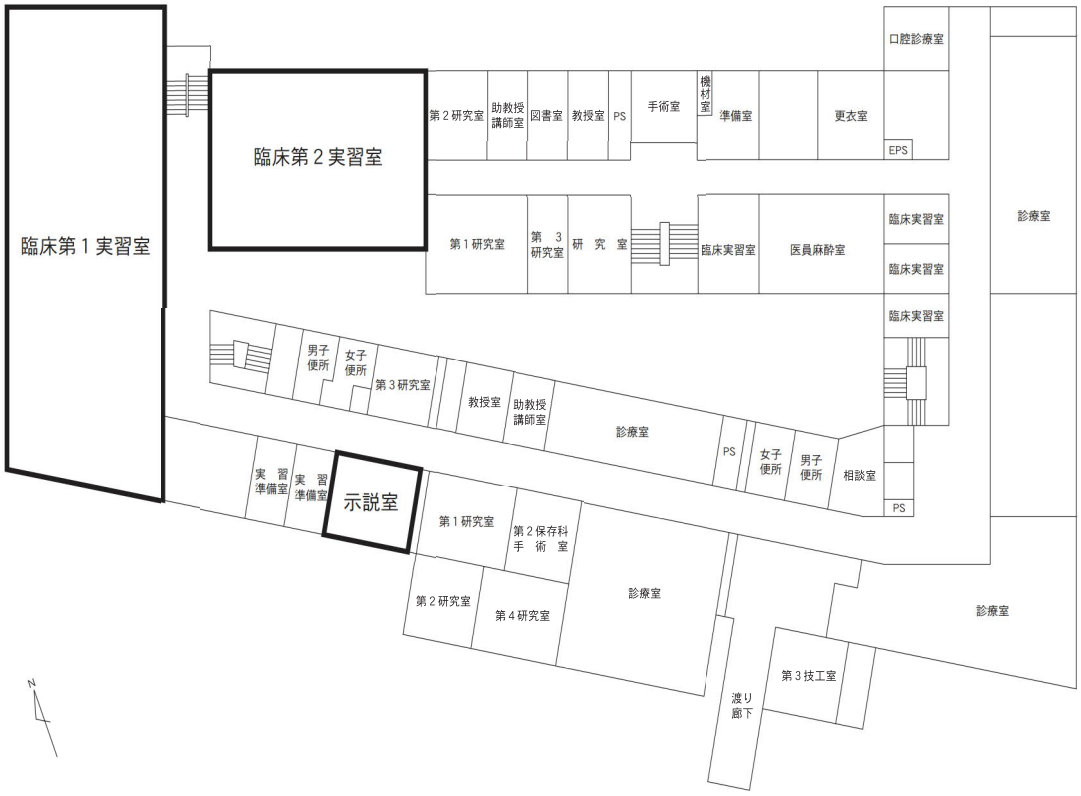
歯学部地下１階

歯学部１階

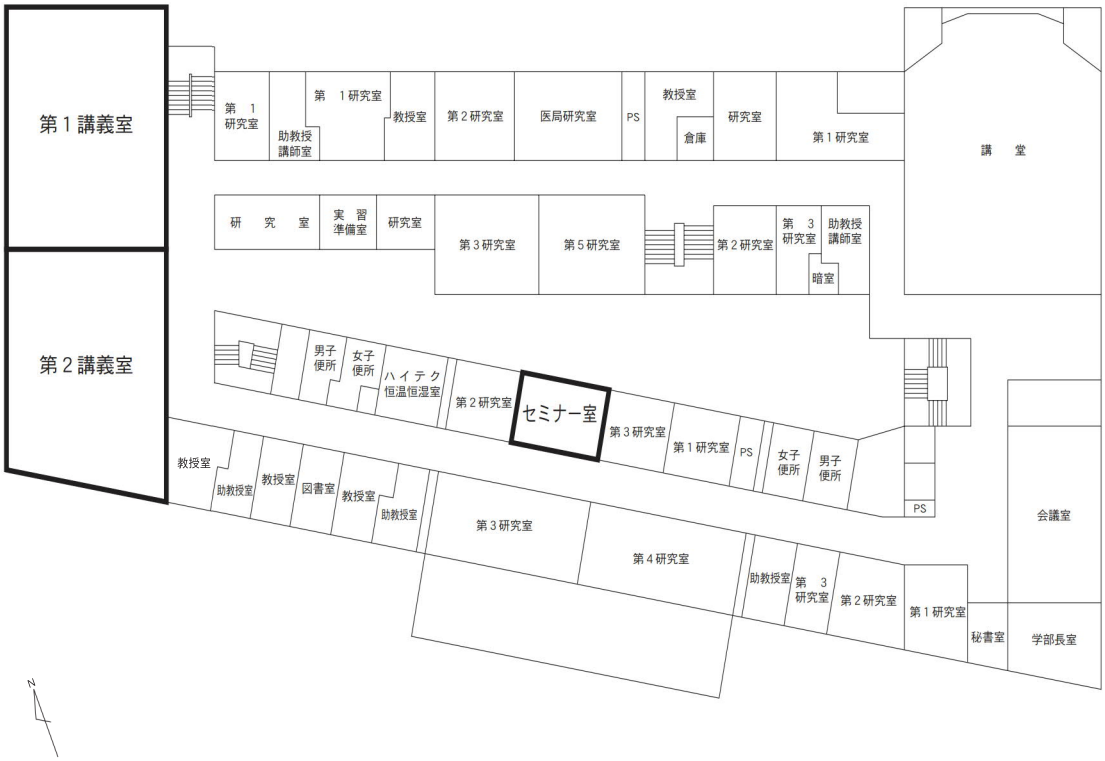
歯学部2階

基礎第２実習室
基礎第３実習室
第１研究室
第２研究室
第３研究室
助教授講師室
第１研究室
教授室
第２研究室
PS
学生技工室
第１技工室
EPS
診療室
第4研究室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
医員技工室
機械室
倉　庫
陶材室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第３研究室
診療室
PS
女子便所
男子便所
歯　科材料室
PS
実　習準備室
実　習準備室
助講室
研究室
教授室
第１研究室
第２研究室
診療室
診療室
診療室
N

歯学部3階


臨床第１実習室
臨床第２実習室
第２研究室
助教授講師室
図書室
教授室
PS
手術室
機材室
準備室
更衣室
口腔診療室
EPS
診療室
第１研究室
第３研究室
研　究　室
臨床実習室
医員麻酔室
臨床実習室
臨床実習室
臨床実習室
男子便所
女子便所
第３研究室
教授室
助教授講師室
診療室
PS
女子便所
男子便所
相談室
PS
実　習準備室
実　習準備室
示説室
第１研究室
第２保存科手　術　室
第２研究室
第４研究室
診療室
診療室
第３技工室
渡り廊下
N

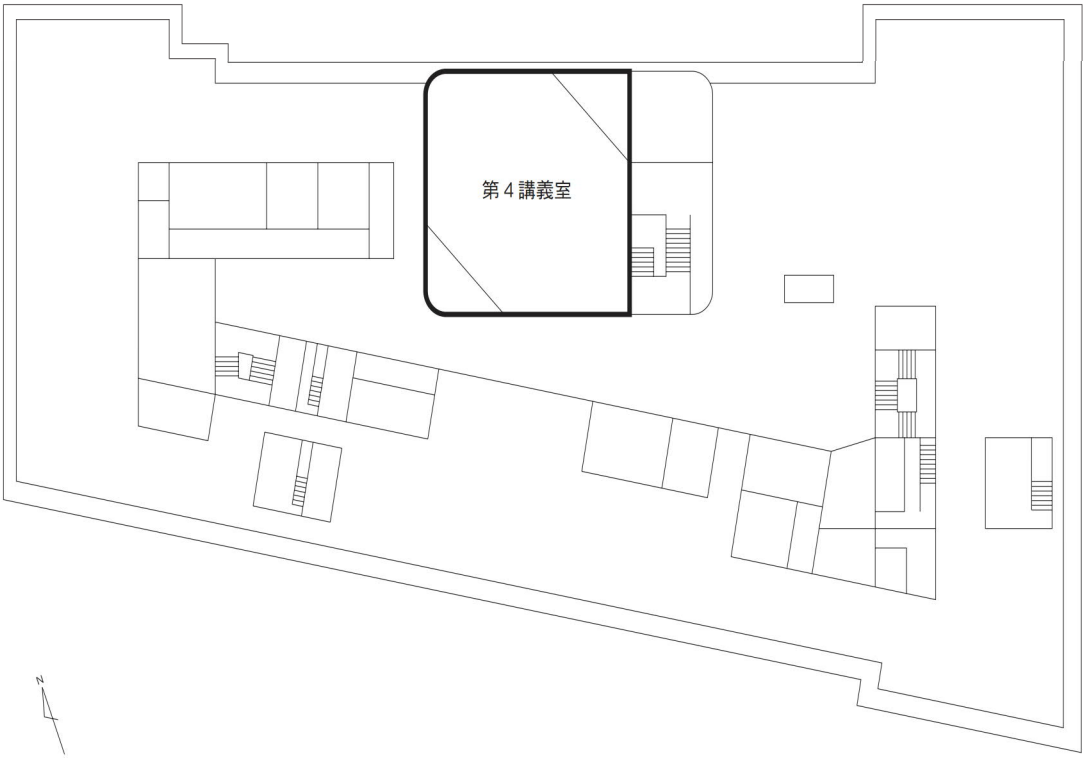
歯学部4階


第１講義室
第２講義室
第 1 研究室
助教授講師室
第 1研究室
教授室
第２研究室
医局研究室
PS
教授室
倉庫
研究室
第１研究室
講 堂
研 究 室
実 習 準備室
研究室
第３研究室
第５研究室
第２研究室
第 3 研究室
助教授講師室
暗室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第２研究室
セミナー室
第３研究室
第１研究室
PS
女子便所
男子便所
PS
教授室
助教授室
教授室
図書室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
助教授室
第 3 研究室
第２研究室
第１研究室
秘書室
会議室
学部長室
N

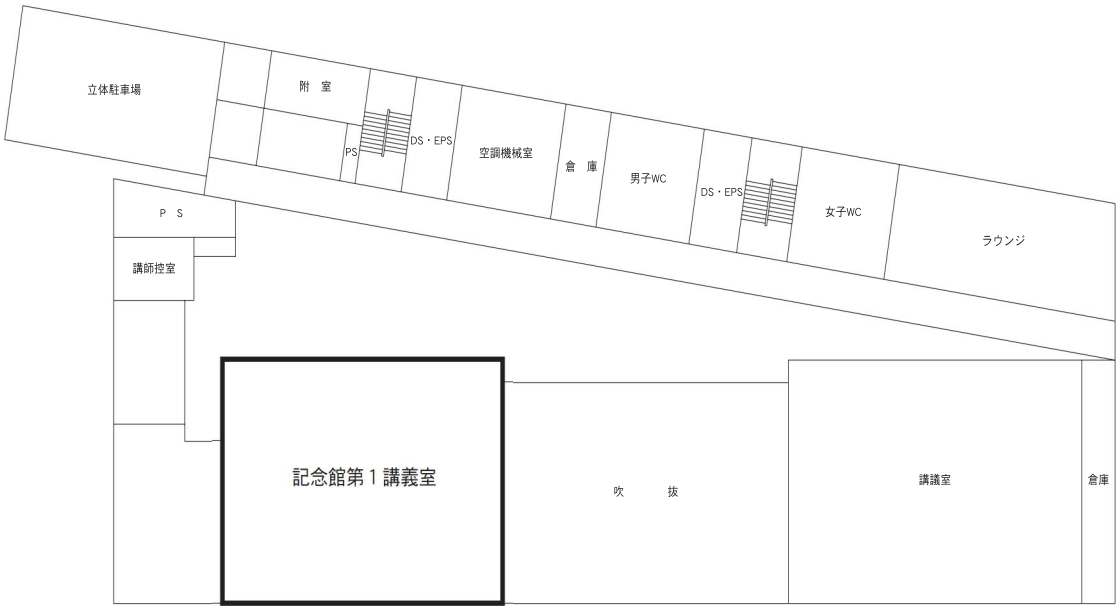
歯学部5階

助教授室
講師室
研究室
第１研究室
暗室
第３研究室
第 4 研究室
教授室
第４研究室
研究室
PS
第２研究室
第３研究室
暗室
講 堂
ハイテク機器分析室
第 7 研究室
暗 室
助教授講師室
教授室
コピー室
第 5 研究室
第３研究室
第 2 研究室
第１研究室
教授室
助教授講師室
第３講義室
男子便所
女子便所
第６研究室
第５研究室
第４研究室
第３研究室
PS
女子便所
男子便所
工作室
PS
教授室
図書室
助教授講師室
第 1 研究室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
第１研究室
第２研究室
助教授講師室
教授室
助教授講師室
教授室
第５研究室
コンファランスルーム
機械室
ハイテク組織像解析室
ハイテク生体イメージング解析室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
N

歯学部6階

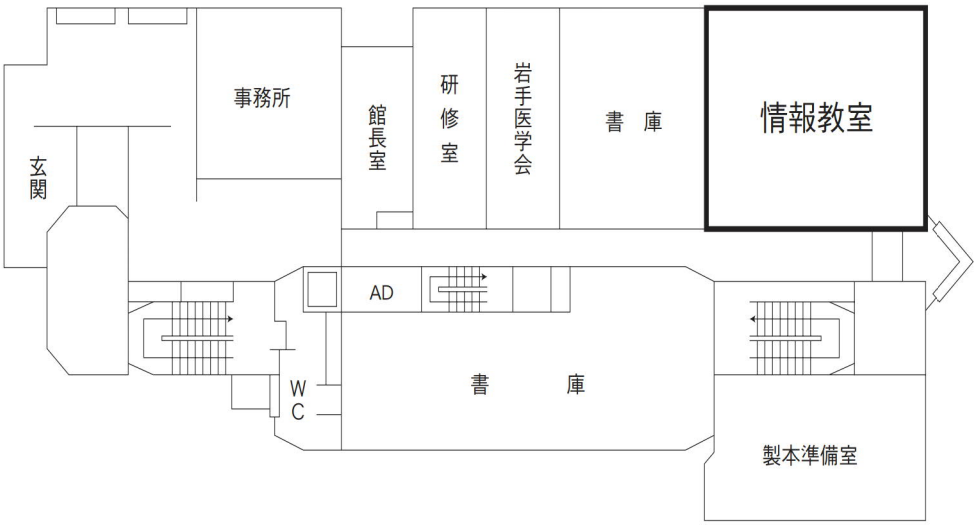

第４講義室
N

記念館9階

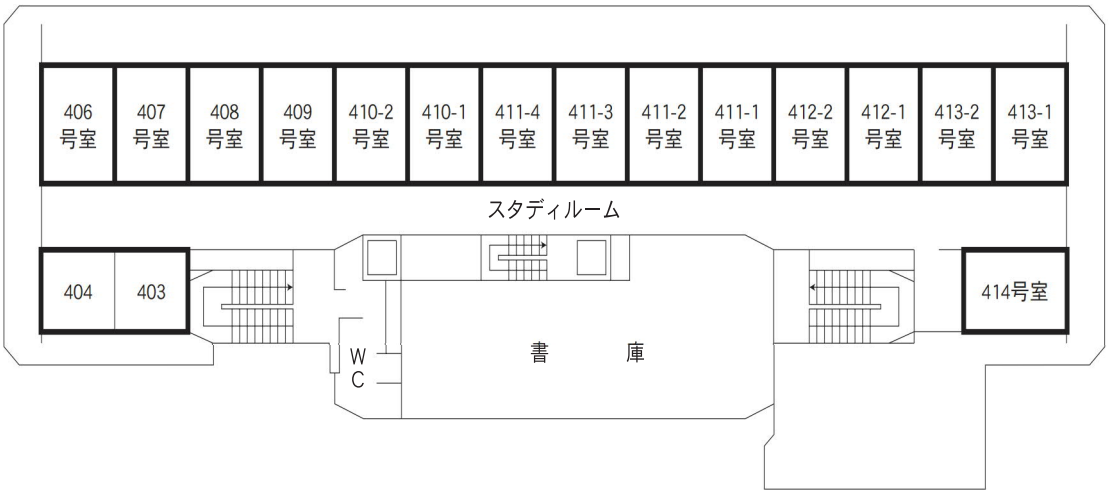

立体駐車場
附　室
PS
DS・EPS
空調機械室
倉　庫
男子WC
DS・EPS
女子WC
ラウンジ
P　S
講師控室
記念館第１講義室
吹　　抜
講議室
倉庫

内丸図書館

〔１階〕


玄関
事務所
館長室
研修室
岩手医学会
書庫
情報教室
AD
W
C
書庫
製本準備室

〔４階〕


406号室
407号室
408号室
409号室
410-2号室
410-1号室
411-4号室
411-3号室
411-2号室
411-1号室
412-2号室
412-1号室
413-2号室
413-1号室
スタディルーム
404
403
414号室
W
C
書庫

授　業　科　目

総合講義（Ⅱ）

責任者・コーディネーター	生理学講座（病態生理学分野） 黒瀬　雅之　教授 歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 深澤　翔太　准教授
担当講座（分野）	歯学部全講座（分野）

対象学年	6	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	通期		前期	518.8時間	—
			後期	332.8時間	—

学修方針（講義概要等）

これまでに修得した基礎歯科医学、臨床歯科医学、および歯科医療に関わる膨大な知識を再構築し、その有機的な統合を図る。これまでの科目ごとの「縦割的学習」から脱却し、解剖・生理等の基礎的根拠と臨床的診断・処置を繋ぐ「横断的学習」を実践する。

本講義を通じて、複雑な臨床的課題に対して的確に対応できる専門知識を定着させるとともに、臨床現場において科学的根拠（エビデンス）に基づいた論理的思考ができる「医療人としての基盤」を総合的に修得する。単なる暗記に留まらず、多様な症例に対しても基礎知識を応用して最適解を導き出す、歯科医師としての高度な思考力を涵養することを目的とする。

教育成果（アウトカム）

これまでに系統別・科目別に修得してきた基礎歯科医学および臨床歯科医学の広範な知識を有機的に統合し、個々の疾患のみならず、患者の全身状態や背景を考慮した「包括的且つ継続的な歯科医療」を実践するための最適な判断を下すことができる。生体の構造・機能といった基礎的根拠に基づき、高水準の基本的診査・診断および治療計画の立案を行う能力を修得する。また、医療チームの一員として不可欠なコミュニケーション能力とプロフェッショナリズムを体現し、常に最新の知見を取り入れながら、歯科医師としての自らの可能性を真摯に追求し続ける、医療人としての強固な基盤が形成される。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、6 ）

到達目標（SBOs）

1.医療倫理・プロフェッショナリズム
・医療倫理の四原則を理解し、臨床現場での適切なプロフェッショナリズムを説明できる。
・インフォームド・コンセントの概念に基づき、患者の権利と尊厳を守る歯科医療を説明できる。
2. 社会と歯科医療・保健制度
・歯科医師法等の関係法規を遵守し、医療保険や介護保険制度の仕組みを正しく説明できる。
・地域包括ケアシステムにおける多職種連携の意義と、歯科医師が果たすべき役割を説明できる。
3.予防と健康管理・増進
・ライフステージに応じた健康増進策と、エビデンスに基づいた口腔健康管理を説明できる。
・フッ化物応用や口腔清掃指導による、歯科疾患の一次予防から三次予防までを概説できる。
4.人体の正常構造と機能
・全身および顎口腔領域の解剖学/組織学的構造を、臨床的な手技や画像診断と関連付けて説明できる。
・ホメオスタシス維持に関わる生理学/生化学的な機序を、全身状態の管理や評価に応用できる。
5. 発生・成長・発達・加齢変化
・受精から組織形成に至る発生過程を理解し、先天異常の病態や特徴を正しく説明できる。
・乳幼児から高齢者までの発育・加齢に伴う形態的・生理的な変化を、臨床的に説明できる。
6 主要な疾患の病因・病態
・炎症、腫瘍、循環障害などの病態と免疫応答の機序を理解し、全身および口腔疾患の発生原理を説明できる。
・先天異常や発育異常、細胞損傷と修復のプロセスを理解し、各組織の病的な変化を病理学的に説明できる。
7 主要症候と全身疾患の関連
・疼痛や腫脹などの口腔症候から予測される病態を分析し、全身疾患に伴う口腔症状を的確に説明できる。
・バイタルサインや一般的症候の変化から、全身疾患の悪化や救急事態の緊急度を論理的に判断できる。
8.診察の基本と医療面接
・患者との信頼関係を築くための医療面接技術と、適切な基本的診察技法を臨床で実践できる。
・小児、高齢者、障害者等の心理・社会的背景を考慮した、適切な配慮に基づく診察と対応法を説明できる。
9. 検査・画像診断・臨床判断
・各種検体検査や生体機能検査の結果を解釈し、EBMに基づいた臨床推論と診断・判断を説明できる。
・画像検査の原理を理解し、放射線防護を徹底した上で、主要疾患の適切な読影と鑑別診断を説明できる。
10. 薬理作用と臨床薬物療法
・薬物の作用機序および体内動態（薬物動態）を理解し、歯科用薬剤の適切な選択根拠を説明できる。
・全身疾患の常用薬（和漢薬含む）の相互作用や、副作用・有害事象を考慮した安全な処方計画を説明できる。
11. 初期救急と安全管理
・診療中の不慮の事故や全身的偶発症に対し、一次救命処置を含む迅速な初期対応を説明できる。
・医療安全の発生要因を分析し、院内感染対策への適切な安全管理対策を説明できる。
12. 歯科材料と医療機器の応用
・各種生体材料の物理的・生物学的性質を理解し、症例に応じた材料選択の適切性を科学的に説明できる。
・歯科用ユニットや切削工具、デジタル機器などの構造を理解し、臨床における安全な取扱いを説明できる。
13. 包括的歯科診療と術式
・歯・歯髄・歯周疾患および顎口腔領域の諸疾患に対し、適切な保存的・外科的処置を説明できる。
・不正咬合や顎変形症の病態を分析し、機能・形態回復のための動的・静的な矯正治療や処置を説明できる。
14. 口腔機能の回復とリハビリテーション
・補綴装置の設計原則を理解し、咀嚼・嚥下・構音等の機能回復に向けた管理を説明できる。
・摂食嚥下障害に対し、多職種連携による評価と効果的なリハビリテーション手法を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回の授業内容および到達目標を事前に確認し、教科書、既出の国家試験問題、および低学年時に配布された講義レジュメや自作ノート等を用いて、能動的な事前・事後学修を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は、平均30分＋45分で計75分を要するものとする。 （事前学修：平均30分を要する。　事後学修：平均45分を要する。）

総合講義（Ⅱ）講義日程表：解剖学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/30（月）	2 後半	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**肉眼解剖学・歯の解剖学に必要な知識の整理と勉強法** 肉眼解剖学と歯の解剖学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができる。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ]** 事前学修：過去３年の歯科医師国家試験の解剖学領域の問題をチェックし、弱点領域を確認しておくこと。講義でその問題及び関連事項について資料を使ってフィードバックする。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点をまとめること。所要時間20分程度

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/11（月）	1	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**骨学のまとめ１** 頭頸部の骨の発達と、構成する骨の連結、頭蓋骨にみられる構造、隣接する骨同士の関係を理解する。 頭蓋骨を構成する各骨の解剖学的特徴と管、孔、裂による構造間の空間交通を理解する。	1.骨の配列と縫合について頭蓋骨の成長と関連づけて説明できる。 2.頭蓋を構成する骨の軟骨結合と骨化の時期から頭蓋の成長について説明できる。 3.頭蓋腔と外頭蓋底の交通、翼口蓋窩、口腔、鼻腔、副鼻腔、眼窩の構成と周囲との交通を説明できる。 4.頸椎の構造と頭蓋骨との接続について説明できる。 5.頭蓋を構成する各骨の解剖学的特徴を説明できる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-イ, ウ-a, エ-a, ク-b, c, d, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	5/11（月）	2	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**骨学のまとめ２** 頭頸部の骨の発達と、構成する骨の連結、頭蓋骨にみられる構造、隣接する骨同士の関係を理解する。 頭蓋骨を構成する各骨の解剖学的特徴と管、孔、裂による構造間の空間交通を理解する。 顎関節の構造について理解する。	1.頭蓋を構成する各骨の解剖学的特徴を説明できる。 2.頭蓋骨各部の構造とそこに付着する筋との関係を説明できる。 3.顎顔面の各領域に向う動脈や神経の走行、その走行に関連する骨の構造を説明できる。 4.顎関節の構造、特に顎関節に関わる骨、筋、靭帯とその機能との関連を説明できる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-イ, ウ-a, エ-a, ク-b, c, d, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：30分　過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	6/15（月）	1	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**頭頸部の筋学のまとめ** 頭頸部の筋の種類とその走行、支配神経を確認し、機能について理解する。 筋隙を構成する筋と筋隙に存在する構造について理解する。	1.表情筋と頸部の筋の走行と機能、神経支配について説明できる。 2.咀嚼筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群の起始停止､走行の特徴について機能との関係性から説明できる。 3.筋隙を構成する筋の走行、筋隙に存在する器官を説明できる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-イ, ウ-a, エ-a, ク-b, c, d, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	6/15（月）	2	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**骨学・筋学と画像解剖学** エックス線画像、CT及びMRIから構造を読み解く際に必要な解剖学的構造と鑑別ポイントを理解する。	1. エックス線写真、CT及びMRIでみられる画像と骨形態との関係性を説明できる。 2.エックス線写真、CT及びMRIでみられる画像と筋、筋隙及び軟組織の位置や周囲との関係性を説明できる。 3.血管造影写真に写る構造を動静脈の走行経路と周辺部位との三次元的関係性に基づいて説明できる。 **[必修-4-ア-e,5-ウ,エ,総論Ⅱ-1-イ,ウ-a,エ-a,ク-b,c,d,4-ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,6-ア-a,b,c,イ-a,c,ウ-a,エ,7-ウ,エ,8-ア,イ,ウ-a,エ,Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	7/6（月）	1	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**頭頸部の神経学のまとめ** 頭頸部の筋肉、皮膚や粘膜に分布する脳神経、脊髄神経の種類とその走行経路､機能について理解する。	1.鰓弓神経について説明できる。 2.頭頸部の筋の運動を支配する神経とその走行経路、機能について説明できる。 3.頭頸部の特殊感覚と知覚に関わる神経の走行経路と支配領域について説明できる。 4.頭頸部の器官と機能の制御に関わる脳神経について説明できる。 5.交感神経、副交感神経の神経節、節後線維の走行経路と関連する機能を説明できる。 **[必修-4-ア-e,5-ウ,エ,総論Ⅱ-1-イ,ウ-a,エ-a,ク-b,c,d,4-ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,6-ア-a,b,c,イ-a,c,ウ-a,エ,7-ウ,エ,8-ア,イ,ウ-a,エ,Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	7/6 (月)	2	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**頭頸部の脈管学** **心臓と周辺血管のまとめ** 頭頸部の動脈・静脈の走行経路や分布範囲について理解する。 心臓と心臓に出入りする血管の解剖学的特徴を理解する。 所属リンパ節と炎症の関係を理解する。	1.頭頸部の主要な動脈とその枝の走行について説明できる。 2.頭頸部、口腔内の各部位の栄養血管について説明できる。 3.顔面・口腔領域の動脈、静脈の走行を説明できる。 4.心臓の構造と心臓に出入りする血管、その血管を流れる血液の性状について説明できる。 5.大動脈弓から分岐する血管とその枝の走行について説明できる。 6.頭頸部のリンパと炎症の波及について説明できる。 **[必修-4-ア-e,5-ウ,エ,総論Ⅱ-1-イ,ウ-a,エ-a,ク-b,c,d,4-ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,6-ア-a,b,c,イ-a,c,ウ-a,エ,7-ウ,エ,8-ア,イ,ウ-a,エ,Ⅳ-2]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	8/3 (月)	1	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**歯の形態と咬合** 歯の形態的特徴を整理し、すべての歯種の鑑別ポイント,好発する異常形態について説明できるようになる。 咬合関係など臨床的視点で歯の形態的特徴について説明できるようになる。	1.　永久歯・乳歯の歯種ごとの基本形態を説明できる。 2.　永久歯・乳歯に好発する異常形態を説明できる。 3.　上顎と下顎の歯の排列を理解し、咬合との関連性について説明できる。 **[必修-4-ア-e,5-ウ,総論Ⅱ-5-ア,6-イ-a,c,ウ-a,7-エ,8-ア,イ,エ,Ⅳ-2-ア,イ,ウ,各論Ⅰ-2-ア,イ]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその問題及び関連事項ついてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	8/3（月）	2	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**口腔内臓学のまとめ** 口腔～喉頭領域の構造、粘膜を裏打ちする筋の走行と機能を説明できるようになる。	1.口唇・口腔前庭、固有口腔、口腔底、咽頭、喉頭などの区分を説明できる。 2.舌、口蓋、口蓋帆に存在する構造、粘膜を裏打ちする筋、脈管、神経を説明できる。 3.咽頭、喉頭周囲の筋の走行、軟骨の配置を機能に基づいて説明できる。 **[必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, Ⅳ-2-エ, オ, カ, キ, ク]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去５年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/30（月）	2	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**解剖学領域の必修問題対策** 頭頸部領域の解剖学の基本的知識を整理し、理解力不足の項目を整理し、理解を深める。	1.頭頸部の解剖学関連領域の基本的知識を整理、抽出し、理解が不十分な必修領域を認識し、強化することができる。 2.頭頸部、口腔の栄養血管や神経とそれらの走行経路に関わる構造などの基本事項について説明することができる。 **[必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, Ⅳ-2-エ, オ, カ, キ, ク]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項ついてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学の内容について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 **［必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ］** 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学の内容について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ]** 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2025年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/22（月）	4	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**解剖学領域の弱点克服（口腔内臓・唾液腺を中心に）** 頭頸部の各部位の構造と栄養血管、支配神経の関係についての基本的知識を整理し、理解力不足の項目を整理する。	1. 頭頸部および口腔の構造、唾液腺、血管、神経についての知識を整理、抽出し、局所解剖学的視点から説明できる。 2. 臨床的視点から解剖学的構造を整理し、その重要性を説明できる。 **[必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, Ⅳ-2-エ, オ, カ, キ, ク]** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項ついてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し、理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

選抜講義②（B−C講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/19（月）	4	藤原尚樹教授 （解剖学講座　機能形態学分野）	**解剖学領域の弱点克服（摂食嚥下に関わる解剖学的構造と機能の視点から）** 摂食嚥下に関わる筋と構造、特に舌筋、口蓋帆の筋、咽頭の筋とこれらの機能的関係性及び神経支配を理解する。	1. 口腔、鼻腔、咽頭の構造を説明できる。 2. 気道の解剖学的特徴を説明できる。 3. バクシネータメカニズムと関係する構造について説明できる。 4. 内舌筋・外舌筋の種類と機能を説明できる。 5. 口蓋帆から咽頭に存在する筋と嚥下における機能的意義を説明できる。 6. 喉頭の解剖学的構造を説明できる。 7. 摂食嚥下と関連する解剖学的構造を整理し、臨床的視点で説明できる。 **［必修−4−ア−e, 総論Ⅱ−4−ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6−ア−a, b, イ−a, c, ウ−a, エ, オ, カ, Ⅳ−2−エ, オ, カ, キ, ク］** 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項ついてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し、理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

総合講義（Ⅱ）講義日程表：組織学・発生学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/31（火）	4 後半	原田英光教授 （解剖学講座・発生生物・再生医学分野）	**組織学の国家試験傾向と対策** 組織学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようになる。	1. 国家試験に出題された問題を理解し、傾向をつかむことができる。 **[出題された問題による]** 事前学修：事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。また問題集については各自で解答して理解不足の点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/8（水）	1	大津圭史教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**一般組織・上皮系のまとめ** 人体を構成する組織・器官系とこれらの構成要素である細胞に関する組織学的特徴や機能について説明できるようになる。	1.人体を構成する器官系を列挙できる。 2.上皮組織の組織学的分類とそれぞれの存在部位について説明できる。 3.重層扁平上皮の各層の特徴と構成細胞について説明できる。 4.天疱瘡・類天疱瘡などの疾患を組織学的視点から説明できる。 5.細胞間接着装置について理解できる。 **[必修4-ア-d,総論II-1-ア, 総論III-2-ア,総論IV-1-イ, 各論III-1-ク-b]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/8 (水)	2	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	**一般組織（結合組織系）のまとめ** 間葉系幹細胞に由来する細胞、造血系幹細胞に由来する細胞とそれらの機能について説明できるようになる。	1.間葉系幹細胞に由来する細胞を列挙できる。 2.結合組織について理解できる。 3.造血系幹細胞に由来する細胞を列挙できる。 4.血球について組織学的特徴について説明できる。 5.結合組織に存在する炎症系細胞について組織学的特徴や機能を説明できる。 **[必修4-ア-d,必修5-ウ,エ,総論II-1-ア, イ,総論II-8-ア、ウ, 総論III-2-ア-e, 総論IV-2-オ, 各論-1]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/15 (水)	1	池崎晶二郎講師 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**一般組織（骨・筋・内分泌・ホルモン）のまとめ** 骨・筋組織の細胞とそれらの機能について説明できるようになる。内分泌・ホルモンに関わる器官の構造や細胞について説明でき、さらに生体恒常性的視点から理解できるようになる。	1. 骨と筋の細胞に由来する細胞を列挙できる。 2. 骨と筋の組織について理解できる。 3. 軟骨について組織学的特徴について説明できる。 4. 内分泌・ホルモンを構成する細胞について説明できる。 5. 内分泌・ホルモンの組織学的特徴について説明できる。 6. 血糖・血中カルシウム・血圧の恒常性維持について説明できる。 **[必修-4-ア-d,e,f,総論II-1-イ,キ,ケ,8-ウ]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/15（水）	2	池崎晶二郎講師（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**一般組織（神経組織）と顎顔面の発生のまとめ** 中枢神経・末梢神経に関わる組織の構造や細胞について説明でき、さらに神経のネットワークの視点から生体恒常性を理解できる。顎顔面の発生過程を成体の構造と関連づけて説明できるようになる。	1. 中枢神経・末梢神経を構成する細胞について説明できる。 2. 脳・脊髄の組織学的特徴について説明できる。 3. 感覚器官について説明できる。 4.人体の発生， 鰓弓(咽頭弓)、鰓嚢(咽頭嚢)、鰓溝(咽頭溝)について説明できる。 5. 鰓弓・鰓嚢・鰓溝由来の構造について説明できる。 6. 神経堤について説明できる。 7. 神経堤に由来する組織について説明できる。 8. 口蓋の発生過程について説明できる。 9. 頭蓋の発生過程について説明できる。 10. 前頭鼻突起、内側鼻突起、外側鼻突起、上顎突起、下顎突起と顎顔面形成の関係について説明できる。 **[必修-4-ア-d,-5, 総論II-1-ク-a,-8-ア, ウ,エ,各論I-1]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/22（水）	1	原田英光教授（解剖学講座 発生生物・再生医学分野分野）	**歯の発生とエナメル質・象牙質・歯髄複合体について** エナメル質形成・象牙質・歯髄複合体に関わる細胞やエナメル質・象牙質・歯髄の構造について説明でき、さらに発生学的視点から理解できるようになる。	1.エナメル器を構成する細胞の由来について説明できる。 2.エナメル芽細胞の分化と形態変化について説明できる。 3.エナメル質の組織学的特徴について説明できる。 4.エナメル質に見られる成長線について説明できる。 5.エナメル基質中に見られる構造について説明できる。 6.象牙質・歯髄複合体を構成する細胞の由来について説明できる。 7.象牙芽細胞の分化と形態変化について説明できる。 8.象牙質の種類と組織学的特徴について説明できる。 9.象牙質に見られる成長線について説明できる。 10.象牙細管、基質の石灰化の状態によって見られる構造について説明できる。 11.歯髄の組織学的特徴や構成細胞を説明できる。 12.歯髄の脈管・神経系について説明できる。 13.象牙質・歯髄複合体の生理的加齢変化について説明できる。 **[総論II-5-イ,-7-エ-a, -8-イ]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/22 (水)	2	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野分野)	**歯の発生と歯周組織** 歯周組織(歯肉・セメント質・歯根膜・歯槽骨)を構成する細胞や構造について説明でき、さらに発生学的視点から理解できるようになる。	1.歯周組織やその構成細胞の由来について説明できる。 2.歯肉の組織学的特徴について説明できる。 3.付着上皮の特異性と臨床的意義について説明できる。 4.セメント質の特徴と形成機序について説明できる。 5.歯根膜の組織学的特徴と構成細胞について説明できる。 6.歯槽骨の組織学的特徴について説明できる。 7.歯槽硬線を組織学的特徴から説明できる。 8.歯槽骨・歯根膜のリモデリングについて説明できる。 9.歯周組織の脈管・神経・機械的受容器について説明できる。 **[総論II-5-イ,-7-エ-a, -8-イ]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/13 (水)	1	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	**唾液腺** 大唾液腺の構造と組織学的特徴について説明できるようになる。	1.耳下腺・顎下腺・舌下腺の位置、排出導管の開口部の位置について説明できる。 2.大唾液腺の終末部の組織学的特徴について説明できる。 3.大唾液腺の導管の構造と機能について説明できる。 4.唾液の組成や唾液成分の機能について説明できる。 **[総論II-4-オ-b,-6-カ-a]** ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/13 (水)	2	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	**歯肉・口腔粘膜(重層扁平上皮の特徴)・顎関節** 歯肉やその他の口腔粘膜、顎関節について組織学的特徴を説明できるようになる。	1.口腔粘膜上皮と角化の有無について説明できる。 2.歯肉・歯槽粘膜の組織学的特徴について説明できる。 3.歯-歯肉境の組織学的特徴について説明できる。 4.頬粘膜・口蓋の組織学的特徴について説明できる。 5.口唇の組織学的特徴について説明できる。 6.舌・扁桃の組織学的特徴について説明できる。 7.顎関節の組織学的特徴について説明できる。 8.関節円板や関節包内層(滑膜)の特徴について説明できる。 **[必修4-ア-d, 総論II-1-ア-a, -4-イ-b,-4-オ,- 5-イ-b,]** ICT端末を持参すること。 事前学修:テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修:理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

C講義:必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/17 (火)	1	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野	**組織学 必修問題対策** 組織学,発生学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようになる	1. 組織・器官系・発生学の重要領域について説明できる。 2. 組織・器官系・発生学における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[必修-4-ア-e,必修-5-ア]** ICT端末を持参すること。 事前学修:テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修:理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野分野)	**第1回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修:試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修:試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	大津圭史教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/20（水）	4	原田英光教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野分野）	**組織学、発生学弱点領域の強化** 組織・発生学の弱点問題領域を整理し、関連領域も含めて統合的に説明できるようになる。	1.組織・発生学の弱点領域について確認し、人体組織を体系的に説明できる。 **[必修-4-ア-e, 必修-5-ア,総論II-1, 4-オ,-8-ア]** 事前学習：復習試験の誤回答を中心に再復習すること。事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。 ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/8（火）	4	)池崎晶二郎講師 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**口腔組織学の弱点領域の強化** 口腔組織学領域を整理し、関連領域も含めて統合的に説明できるようになる。	1. 口腔組織学領域の重要項目（頻出課題）について確認し、口腔組織を体系的に説明できる。 **[総論II-5,-8-ア、イ]** 事前学習：復習試験の誤回答を中心に再復習すること。事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。 ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：生理学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/30（月）	2前半	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学領域に必要な知識と勉強法** 生理学の重要事項を理解し、勉強法をみつけることができる。	1. 第119回国家試験での生理学/口腔生理学に関連する問題の傾向を理解し、これからの総合講義に役立てることができる。 **[A全般]** **事前学習**：第119回歯科医師国家試験問題を必ず解いておく。1・2年次に使用した教科書、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと。所要時間60分程度。 **事後学修**：再度、該当する国家試験問題を解き、自分で説明しながら回答できるようにする。所要時間45分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/13（月）	1	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論①** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う（ブループリント：循環器系）	1. 循環器系の機能を列挙できる。 2. 興奮伝導系を説明できる。 3. 心周期を説明できる。 4. 心筋の興奮を説明できる。 5. 循環器疾患を説明できる **[総論Ⅱ-1-ウ-a, b]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/13（月）	2	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論②** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う（ブループリント：呼吸器系・腎泌尿器系）	1. 呼吸器系の機能を列挙できる。 2. 呼吸器系の構造を説明できる。 3. 呼吸器筋を説明できる。 4. ガス交換系を説明できる。 5. 酸素解離曲線を説明できる。 6. 腎臓の構造を説明できる。 7. ネフロンの構成を図示できる。 8. 腎臓の機能を列挙できる。 9. 尿細管の物質輸送を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-エ-a, b, c 総論Ⅱ-1-キ-a, b, c]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

講義	4/13 (月)	3	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論③** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う （ブループリント：消化器系）	1. 消化管系の機能を列挙できる。 2. 栄養素の消化様式を説明できる。 3. グルコースの管理を説明できる。 4. カルシウムの管理を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-オ-a, b]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	1	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論④** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う （ブループリント：神経系：ニューロン・グリア・感覚機能・運動機能）	1. 神経線維の解剖を説明できる。 2. 興奮伝導の様式を説明できる。 3. 活動電位発生機序を説明できる。 4. グリア細胞の役割を説明できる。 5. シナプス伝達を説明できる。 6. 感覚受容を説明できる。 7. 反射と随意運動を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ク-a, b, c]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	2	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論⑤** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う （ブループリント：神経系：高次脳機能・自律機能）	1. 中枢神経系の解剖を説明できる。 2. 脳器官の働きを説明できる。 3. 脳幹の働きを説明できる。 4. 自律神経系を概説できる。 5. 神経伝達物質と受容体の関係を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ク-d, e]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	3	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学総論⑥** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う （ブループリント：内分泌系）	1. 内分泌器官を列記できる。 2. 各種ホルモンを説明できる。 3. 神経分泌を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ケ-a, b]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

講義	4/24（月）	1	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**口腔生理学総論①** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う（ブループリント：感覚・運動・咀嚼・嚥下）	1. 口腔感覚の受容を説明できる。 2. 子音の作成機序を説明できる。 3. 破裂音と破擦音を説明できる。 4. 唾液の種類を説明できる。 5. 唾液分泌機能ついて説明できる。 **[総論Ⅱ-6-ア-a,b,c,d,e Ⅱ-6-イ-a,b,c,d Ⅱ-6-ウ-a,b Ⅱ-6-エ-a,b]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/24（月）	2	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**口腔生理学総論②** 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う（ブループリント：発声、構音、唾液分泌）	1. 母音の作成機序を説明できる。 2. 子音の作成機序を説明できる。 3. 破裂音と破擦音を説明できる。 4. 唾液の種類を説明できる。 5. 唾液分泌機能ついて説明できる。 **[総論Ⅱ-6-オⅡ-6-カ-a,b]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/24（火）	3	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学/口腔生理の必修事項** 基本事項の確認と理解の強化（全身・口腔の構造と機能）	1. 生理学/口腔生理学の必修事項を説明できる。 **[必修4-a 全般]** **事前学修**：DESSを活用し、114回から118回までの生理学関係の必修問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：114回から118回までの生理学関係の必修過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** **事前学修**：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 **事後学修**：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** **事前学修**：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 **事後学修**：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（基盤形成講義Ⅱ期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/30（火）	4	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**実力確認試験 復習解説と解析** 生理学/口腔生理学の自身の弱点領域を知り、学ぶ。	1. 生理学/口腔生理学の弱点領域について説明できる。 **［出題された問題による］** **事後学修**：1・2年次に使用した教科書、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 **事後学修**：弱点と感じた箇所について、教科書・講義ノートを用いて知識の整理をする。所要時間45分程度。

選抜講義②（必修問題特化講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/29（火）	4	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**到達度/全国模試 復習解説と解析** 生理学/口腔生理学の自身の弱点領域を知り、学ぶ。	1. 生理学/口腔生理学の弱点領域について説明できる。 **［出題された問題による］** **事後学修**：1・2年次に使用した教科書、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 **事後学修**：弱点と感じた箇所について、教科書・講義ノートを用いて知識の整理をする。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：生化学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/30（月）	4前半	帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**生化学領域の知識の整理** 生化学領域の重要項目ならびに修得すべき知識を理解する。	1.歯科医師として必要な生化学・分子生物学・細胞生物学の知識を列挙できる。 2.理解が不十分な領域を確認するとともに、重要項目の概要を説明できる。 **[出題された問題による]** 事前学習：過去の国家試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。 事後学修：国家試験に出題された問題に関連する内容を講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/9（木）	1	石崎 明教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**細胞と遺伝子** 細胞小器官と生体膜の機能ならびに核酸の構造とセントラルドグマを理解する。	1.細胞小器官の機能を説明できる。 2.生体膜の構造と機能を説明できる。 3.核酸の構造を説明できる。 4.セントラルドグマを説明できる。 **[必修-4-ア-b・C，総論Ⅱ-1，総論Ⅲ-1-イ-b]** 事前学習：1年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	4/9（木）	2	帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**遺伝子の変異** 遺伝病/配偶子病の発現ならびに発癌や転移/浸潤のしくみを理解する。	1.染色体の構造と配偶子形成を説明できる。 2.遺伝病・配偶子病が発現するしくみを説明できる。 3.癌遺伝子と癌抑制遺伝子の機能を説明できる。 4. 発癌や転移・浸潤のしくみを説明できる。 **[必修-4-ア-b，必修-6-ア，総論Ⅲ-1-コ-a，総論Ⅲ-2-ア-a，総論Ⅵ-3-ア-g]** 事前学習：事前学習：2年次の講義や5年次の総合講義Iの内容や講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

講義	4/16（木）	1	石崎 明教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**生体成分と代謝** 生体成分の基本構造と三大栄養素の代謝経路を理解する。	1. 糖質・脂質・タンパク質の構造と性質を説明できる。 2. 各生体成分の役割を説明できる。 3. 生体における糖質・脂質・タンパク質の代謝とエネルギー産生を説明できる。 4. 血糖調節機構を説明できる。 **[必修-4-ア-a・f，必修-9-エ-c，総論Ⅱ-1-コ，総論Ⅵ-3-c]** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	4/16（木）	2	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**生理活性物質** ホルモン/サイトカイン/ケミカルメディエーターの構造と機能を理解する。	1. ホルモンの性状や受容体について説明できる。 2. 局所ホルモンとしてのサイトカインの役割を説明できる。 3. 炎症性細胞の役割を説明できる。 4. ケミカルメディエーターの性状や産生を説明できる。 **[必修-4-ア-a・e・g，必修-6-ア-d，総論Ⅱ-1-ケ，総論Ⅱ-3-ア，総論Ⅲ-1-カ-a]** 事前学習：5年次の総合講義Iの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	5/14（木）	1	石崎 明教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**細胞外マトリックス** 結合組織の成分と機能ならびに細胞接着を理解する。	1. コラーゲンの構造・機能・生合成を説明できる。 2. プロテオグリカンの構造・機能・組織分布を説明できる。 3. インテグリンの構造と機能を説明できる。 4. 主要な接着性タンパク質の機能と分布を説明できる。 **[必修-4-ア-d・e，総論Ⅱ-1，]** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

講義	5/14（木）	2	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**石灰化と骨リモデリング** 石灰化と骨リモデリングならびに血清カルシウムの調節機構を理解する。	1.硬組織を構成する成分と細胞の役割を説明できる。 2.骨リモデリングのメカニズムを説明できる。 3.血清カルシウム調節ホルモンの構造と機能を説明できる。 4.ホルモンによる血清カルシウムの調節機構を説明できる。 **[必修-4-ア-d・e，総論Ⅱ-1-イ-a，総論Ⅱ-8-ウ]** 事前学習：5年次の総合講義Iの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	5/21（木）	1	石崎 明教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**血液と生化学検査** 血液の成分や機能と生化学検査の原理を理解する。	1.血液凝固やヘム・ポルフィリン代謝を説明できる。 2.血漿成分の機能や疾患における変動を説明できる。 3.逸脱酵素を説明できる。 4.糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝関連物質を説明できる。 5.含窒素成分を説明できる。 **[必修4-ア-d・e，必修-9-エ-b・c，総論Ⅵ-3-ア-b・c]** 事前学習：2年次の講義内容や関連分野の検査に関する講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	5/21（木）	2	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**唾液と歯の堆積物** 唾液成分の機能とプラーク細菌の代謝を理解する。	1.唾液成分の由来や機能について説明できる。 2.プラークの形成過程と性質を説明できる。 3.プラーク細菌による有機酸の産生を説明できる。 4.プラーク細菌による口臭原因物質の産生を説明できる。 **[必修-4-イ-c，総論Ⅱ-2-イ，総論Ⅱ-6-カ，総論Ⅲ-1-カ-a]** 事前学習：5年次の総合講義Iの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/19（木）	3	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**生化学領域の必修知識** 生化学の重要項目ならびにキーワードについて理解する。	1. 歯科医師として必要な生化学領域の必修知識を理解する。 2. 重要キーワードを列挙し生体内における機能を説明できる。 **［必修-4-ア，必修-4-イ-c，必修-6-ア-d，必修-9-エ-b・c］** 事前学修：6年次の総合講義IIの内容や実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/4（木）	4	石崎 明教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**弱点領域の強化** 中～高正答率問題について理解を深める。	1. 生化学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[試験等の分析による]** 事前学修：6年次の実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/15（火）	4	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**弱点領域の強化** 中～高正答率問題について理解を深める。	1. 生化学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[試験等の分析による]** 事前学修：6年次の実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：微生物学・免疫学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/30（月）	3前半	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学領域の歯科医師として必要な知識** 国家試験問題の解説と歯科医師として修得すべき微生物学の基本的知識を理解する。	歯科医師として必要な微生物学の知識を修得するための、効率的な勉強法を確立することができる。 **[〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間15分程度。 事後学修：今春の国家試験問題について、周辺知識も含め整理すること。所要時間25分程度。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/17（金）	1	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・細菌学総論** **院内感染対策** 病原微生物の生物分類学上の位置づけおよびその性状を理解する。滅菌と消毒の方法，感染性廃棄物の処理を理解する。	1. 微生物の構造・性状について説明できる。 2. 感染の概念と感染症について説明できる。 3. 宿主-寄生体相互作用について説明できる。 4. 物理的、化学的方法による滅菌法を説明できる。 5. 主な消毒薬の分類とその効果について説明できる。 6. 歯科医療における院内感染とその予防法について説明できる。 **[〈必修〉2-キ-c、4-イ、6-ア-e、9-エ-e、〈総論〉Ⅰ-7-ア、Ⅱ-2-ア、Ⅲ-1-キ、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

講義	4/17（金）	2	石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・細菌学各論** 病原微生物による感染症およびその病原因子について理解する。	1.病原微生物の性状について説明できる。 2.病原微生物による感染症・病原因子について説明できる。 **[〈必修〉4-イ、6-ア-e、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2-ア、Ⅲ-1-キ、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	4/17（金）	3	三浦利貴助教（微生物学講座 分子微生物学分野）	**ウイルス学各論** ウイルスの性状と感染経路、標的器官および感染症を理解する。	主要な病原性ウイルスの性状・感染経路・標的器官および感染症を説明できる。 **[〈必修〉4-イ、6-ア-e、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2-ア、Ⅲ-1-キ、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	4/21（火）	3	石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）	**免疫学** 免疫応答による生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 主なサイトカインとその生物活性について説明できる。 4. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 5. 各過敏症の発症メカニズムと代表的な疾患について説明できる。 6. 主な免疫不全症の発症機序と疾患について説明できる。 7. 自己免疫疾患発現に関与する因子と代表的な自己免疫疾患について説明できる。 **[〈必修〉4-ア-g、〈総論〉Ⅱ-3、Ⅲ-1-ク]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

講義	4/30（木）	1	三浦利貴助教（微生物学講座 分子微生物学分野）	**口腔細菌総論・各論** 口腔の正常フローラ，口腔細菌の性状および病原因子を学び，う蝕・歯周疾患・歯内疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔のニッチとその構成細菌について説明できる。 2. 口腔病原微生物の特徴と病原因子について説明できる。 3. う蝕原性細菌の特徴と病原因子について説明できる。 4. 歯周病原細菌の特徴と病原因子について説明できる。 **[<必修>4-イ、6-ア-e,f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2、Ⅲ-1-キ、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
演習	4/30（木）	2	三浦利貴助教（微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学領域の苦手領域の補完** 問題演習を通じ苦手な領域を理解し、問題解決に必要な基本的な考え方を理解する。	1. 微生物学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 3. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 4. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 **[<必修>4-ア-g,イ、6-ア-e,f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2,3、Ⅲ-1-キ,ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	8/6（木）	1	石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）	**重点講義1** 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し，理解を深める。	1. 微生物学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 **[<必修>4-ア-g,イ、6-ア-e,f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2,3、Ⅲ-1-キ,ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

講義	8/6 (木)	2	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**重点講義2** 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し，理解を深める。	1. 微生物学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 **[〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/10 (火)	3	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学一必修問題に向けた復習講義** 微生物学・免疫学の基本的知識の整理をする。	微生物学・免疫学領域の必修問題に頻出項目について理解し、問題を解くことができる。 **[〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/19（金）	4	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**選抜講義①** 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し，理解を深める。	実力確認試験・復習試験・模擬試験の結果から見えてきた微生物学・免疫学領域に関する理解が不十分な領域を説明できる。 **［〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e］** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/1（木）	4	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**選抜講義②** 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し，理解を深める。	実力確認試験・復習試験・模擬試験の結果から見えてきた微生物学・免疫学領域に関する理解が不十分な領域を説明できる。 **［〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e］** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：薬理学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	3/30（月）	3 後半	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学の国家試験傾向と対策** 薬理学の基本的な内容について理解する。	1. 国家試験問題の解説と傾向を理解する。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：国家試験問題を確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/8（水）	3	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬力学、自律神経系作用薬** 薬力学（用量反応曲線）、自律神経作用薬、交感神経作用薬・副交感神経作用薬	1. 薬力学を説明できる。 2. 自律神経作用薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/10（金）	3	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**鎮痛薬** 解熱鎮痛薬、NSAIDs、麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、漢方薬（立効散）	1. 鎮痛薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/15（水）	3	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**麻酔関連薬** 局所麻酔薬、全身麻酔薬、筋弛緩薬	1. 麻酔関連薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/22（水）	3	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**その他の処方薬** 和漢薬（漢方薬）、糖尿病治療薬、中枢神経系疾患治療薬、高血圧症治療薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬	1. 糖尿病治療薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/24（金）	3	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**抗微生物薬** 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、歯性感染症ガイドライン	1. 抗微生物薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

講義	5/1 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	**抗腫瘍薬** 化学療法薬、分子標的治療薬、漢方薬(半夏瀉心湯薬)、口腔癌ガイドライン	1. 抗腫瘍薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	5/13 (水)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	**臨床薬理学** 薬事関連法規(医薬品医療機器等法)、臨床試験、薬物動態、治療薬物モニタリング	1.薬事関連法規を説明できる。 2.臨床薬理学について説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	5/15 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	**抗血栓薬、骨粗鬆症治療薬** 抗血小板薬、抗凝固薬、抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2020年版 ビスホスホネート製剤、抗RANKL抗体、顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023	1. 抗血栓薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/11 (水)	2	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	**薬理学の必修事項** 基本事項の確認と理解の強化	1. 薬理学の必修事項を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

第１回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/27（水）	4	田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学の復習1** 要点の理解	1. これまで学修した薬理学の要点を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/18（金）	4	田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学の復習2** 要点の理解	1. これまで学修した薬理学の要点を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：病理学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/3（金）	4前半	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**今春の国家試験の必修問題解説-病理学の必修領域の出題内容とその傾向-** 病理学の重要事項を理解し、勉強法をみつけることができる。	1. 今春の国家試験で問われた病理学領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な病理学の知識を修得するための年間計画が立案できる。 **［必修-6、必修-9-キ、総論Ⅲ-1-3, 総論Ⅳ-3-f, 各論Ⅲ］** ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：本年度の歯科医師国家試験の口腔病理学関連問題を抜粋し、その問題を解説できるようにしておくこと。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/10（金）	1	佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野）	**染色体・遺伝子および発生の異常** 発生の異常やそれに関わる原因について理解する。	1. 染色体・遺伝子の基本概念を説明できる。 2. 発生異常について説明できる。 3. 染色体異常による疾患について説明できる。 4. 遺伝子異常による疾患について説明できる。 **［必修6-ｱ-b, 総論Ⅲ-2-ｱ-a, 各論Ⅲ-4-ｱ］**
講義	4/10（金）	2	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**細胞傷害の機序** どの様な代謝過程の異常がいかなる機能的ないし形態的異常を生じるのか理解する。	1. 細胞傷害をきたす因子について説明できる。 2. 細胞傷害の機序と形態学的変化について説明できる。 3. 空胞変性、脂肪変性、好酸性変性、硝子様変性、硝子滴変性、フィブリノイド変性、角質変性、粘液変性について説明できる。 4. 壊死とアポトーシスについて説明できる。 5. 萎縮について説明できる。 **［必修6-ｱ-c, 総論Ⅲ-1-ｲ］**

講義	5/12（火）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**循環障害** 体液の循環の異常によりどのような障害が生じるのか理解する。	1. 水腫の定義・病態生理・形態学的変化について説明できる。 2. 虚血の定義・原因・転帰について説明できる。 3. 充血とうっ血について説明できる。 4. 出血と出血性素因について説明できる。 5. 血液凝固機序と血栓症について説明できる。 6. 塞栓症の定義・種類・結果・転帰について説明できる。 7. 梗塞の定義・種類・形態学的な変化について説明できる。 8. ショックの定義・発生・種類・形態学的な変化について説明できる。 9. 傍側循環について定義・種類・病態生理を説明できる。 10. 高血圧と低血圧について説明できる。 **[必修6-ｱ-h, 総論Ⅲ-1-ｵ]**
講義	5/25（月）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**炎症** 障害的刺激・侵襲に対する局所ならびに全身的な防御反応について理解する。	1. 炎症の定義と原因について説明できる。 2. 炎症反応のカスケードについて説明できる。 3. 炎症巣の構造と浸潤細胞について説明できる。 4. 炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 5. 急性炎症について説明できる。 6. 慢性炎症について説明できる。 7. 炎症の転帰について説明できる。 8. 炎症の名称と分類について説明できる。 **[必修6-ｱ-d, 総論Ⅲ-1-ｶ]**
講義	6/15（月）	3	佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野）	**腫瘍** 正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。	1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 腫瘍の生物学について説明できる。 5. 良性腫瘍の組織型について説明できる。（乳頭腫・腺腫・線維腫・脂肪腫・骨腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・神経鞘腫・色素性母斑） 6. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。（扁平上皮癌・紡錘形細胞癌・腺癌・軟骨肉腫・骨肉腫・平滑筋肉腫・多発性骨髄腫・悪性黒色腫）癌の広がり方と進行度について説明できる。前癌病変と境界病変について説明できる。 **[必修6-ｱ-c, 総論Ⅲ-1-ｺ]**

講義	7/27（月）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**唾液腺腫瘍** **唾液腺腫瘍の病因と病態を理解する。**	1. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明できる。 2. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明できる。 3. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。 **[必修6-ｲ-n, 総論Ⅲ-2-ｱ-f]** 事前学習：新口腔病理学p257-270を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/31（金）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**口腔粘膜疾患・免疫応答に関連した口腔病変** 口腔粘膜に生じる疾患・免疫応答に関連した口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 **[必修6-ｲ-m, 総論Ⅲ-2-ｱ-c]** 事前学習：新口腔病理学p143-161, p283-291を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	8/3（月）	3	佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野）	**加齢に伴う口腔病変** 加齢に伴う口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 加齢と老化について説明できる。 2. 加齢に伴う歯と歯周組織の変化について説明できる。 3. 加齢に伴う顎骨と顎関節の変化について説明できる。 4. 加齢に伴う口腔軟組織の変化について説明できる。 5. 加齢に伴う唾液と唾液腺の変化について説明できる。 **[必修5-ｴ-a, b, 総論Ⅲ-2-ｲ-a, b]** 事前学習：新口腔病理学p292-311を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	8/21（金）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**歯原性腫瘍** 歯原性腫瘍の病因と病態について理解する。	1. 良性歯原性腫瘍について説明できる。 2. 悪性歯原性腫瘍について説明できる。 **[必修6-ｲ-k, 総論Ⅲ-2-ｱ-e]** 事前学習：新口腔病理学p196-211を読み、疑問点を抽出しておくこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/16（月）	3	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**顎骨の非歯原性腫瘍・腫瘍様病変と顎骨内に生じる非歯原性腫瘍・腫瘍様病変** 顎骨の非歯原性腫瘍・腫瘍様病変と顎骨内に生じる非歯原性腫瘍・腫瘍様病変の病因と病態について理解する。	1. 線維性病変について説明できる。 2. 骨形成性病変について説明できる。 3. 軟骨形成性病変について説明できる。 4. 巨細胞性病変について説明できる。 5. 円形細胞腫瘍について説明できる。 **[必修6-ｲ-k, 総論Ⅲ-2-ｱ-e]** 事前学習：新口腔病理学p212-238を読み、疑問点を抽出しておくこと。

講義	11/30（月）	3	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**歯原性・非歯原性嚢胞** 歯原性・非歯原性嚢胞の病因と病態について理解する。	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 3. 顎骨内に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 4. 軟組織に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 **[必修6-ｲ-k, 総論Ⅲ-1-ｹ-a, b, c]** 事前学習：新口腔病理学p182-195を読み、疑問点を抽出しておくこと。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/22（金）	4	佐藤泰生講師 （病理学講座 病態解析学分野）	**全身性疾患と口腔病変と歯科医療における病理診断** 口腔に影響を及ぼす全身性疾患と歯科医療における病理診断を理解する。	1. ウイルス感染症について説明できる。 2. 細菌性感染症について説明できる。 3. 内分泌代謝障害について説明できる。 4. 栄養障害について説明できる。 5. 細胞診について説明できる。 **[必修6-ｲ-p, 総論Ⅲ-2-ｱ-g]** 事前学習：新口腔病理学p312-330を読み、疑問点を抽出しておくこと。

選抜講義②（B−C講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/2（金）	4	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**歯の発育異常・齲蝕** 歯の発育異常・う蝕の病因と病態について理解する	1.歯の形・大きさ・数・構造の異常について説明できる。 2.歯の物理的・化学的損傷について説明できる。 3.歯の沈着物・着色・変色について説明できる。 4.齲蝕の疫学について説明できる。 5.齲蝕の分類と好発部位について説明できる。 6.齲蝕の原因と成り立ちについて説明できる。 7.齲蝕の病理学的特徴について説明できる。 **［必修6-ｲ-a，h，総論Ⅲ-2-ｱ-a，b］** 事前学習：新口腔病理学p2-47を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	10/9（金）	4	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**口腔病理学の一般・必修問題対策** 2回全国模試（DESS120-1 9月10，11日実施）の解説と重要な各種疾患の病態を理解する。	1. 到達度試験、第1回総合試験、復習試験、第1回全国模擬試験の結果から明らかになった弱点項目を理解し、それらの解答に必要な知識を正しく説明できる。 2. 炎症について説明できる。 3. 感染症について説明できる。 4. 免疫異常について説明できる。 5. 増殖と修復について説明できる。 **［必修6，総論Ⅲ］** ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：スタンダード病理学p110-188，p42-60を読み、疑問点を抽出しておくこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科理工学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/1（水）	4 後半	武本真治教授 （医療工学講座）	**歯科理工学領域に必要な知識と勉強法** 歯科理工学の重要項目を理解し、勉強法を見つけることができる。	1.第118回国家試験での歯科理工学関連問題の傾向を理解し、これからの総合講義に役立てることができる。 **[必修13セ、総論VIII、各論IV]** 事前学習：第118回歯科医師国家試験問題を解いておく（30分程度）。 事後学修：解説を聞いて、2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートの関連項目を確認し、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	1 ・ 2	武本真治教授 （医療工学講座）	**歯科材料の科学** 歯科材料の機械的・物理的・化学的・生物学的性質（化学構造、物質の状態、基本的な化学反応）を学ぶ。	1.歯科臨床における歯科材料の構成を説明できる。 2.歯科臨床における歯科材料の物理的性質を説明できる。 3.歯科臨床における歯科材料の化学的性質を説明できる。 4.口腔内環境と化学反応性（金属の腐食、高分子の加水分解など）を説明できる。 5.各種材料の応力ーひずみ特性（弾性係数、レジリエンス、降伏強さなど）を説明できる。 6.歯科臨床における歯科材料の機械的性質を説明できる。 **[必修13セa、総論VIII-1]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

講義	4/21（火）	1・2	武本真治教授（医療工学講座）	**歯冠修復（直接法）に用いる器械、道具** **歯冠修復材①** 診断、切削に用いる器械と道具について学ぶ。 直接修復に用いる成形修復方法を学ぶ。	1.う蝕の診断に用いる器械を説明できる。 2.歯科用回転駆動装置の名称、構造と性能を説明できる。 3.切削に用いる器械・道具を説明できる。 4直接修復に用いる歯科材料を分類できる。 5.成形修復材の特徴を説明できる。 6.コンポジットレジンの接着方法を説明できる。 7.研磨に用いる道具を説明できる。 **[必修13b,e,h、総論VIII-2,5,8ア]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	5/12（火）	1・2	武本真治教授（医療工学講座）	**印象材と模型材** 印象採得に用いられる材料の種類、成分、特徴を学ぶ。石膏の性質、特に硬化の機構、硬化膨張について学ぶ。	1.印象材の成分・組成と硬化機構および性質を説明できる。 2.歯科臨床における石膏の所要性質を説明できる。 3.石膏の硬化機構を説明できる。 4.石膏の硬化時間に影響を与える因子（混水比、温度、添加剤）を説明できる。 5.石膏の硬化膨張に影響を与える因子を説明できる。 **[必修13セc,d、総論VIII-3,4、各論IV-3イd,4イb,4ウa,5イb,5ウa,6ウc]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

講義	5/19（火）	1・2	武本真治教授（医療工学講座）	**歯冠修復材②金属材料とその成形技術** 金属材料の成形法を学ぶ。 歯科精密鋳造に用いる材料（ワックス、埋没材、歯科用金属）の理工学的性質を学ぶ。 金属同士の接合を学ぶ。	1.歯科用ワックスの種類と用途、性質を説明できる。 2.埋没材の種類、組成、成分の役割、性質を説明できる。 3.鋳造用金属の組成と特徴を説明できる。 4.金属材料の成形法を列挙できる。 5.金属の接合方法の種類と特徴について説明できる。 **[必修13セd,f,g、総論VIII-6イa,ウ,エ、7イab,ウ,エ、各論IV-3ウabc,4ウd]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	6/23（火）	3	武本真治教授（医療工学講座）	**合着・接着用材料** 歯科用合着・接着用材料の種類、成分、硬化機構および性質について学ぶ。	1.歯科用合着材の種類、成分、特徴を説明できる。 2.歯科用接着材の種類、成分、特徴を説明できる。 **[必修13セh、総論VIII-8,9,10、各論IV-3イj]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	6/30（火）	3	武本真治教授（医療工学講座）	**セラミックスの成形技術・機器** セラミックスの成形加工法を学ぶ	1.セラミックスの主要な成形法とその特徴を説明できる。 2.耐火模型の概要を説明できる。 3.加熱加圧成形法を説明できる。 4.CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 **[必修13セfg、総論VIII-6イ,ウ, 7イエ、各論IV-3ウbc]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

講義	7/7 (火)	3	武本真治教授 （医療工学講座）	**CAD/CAM技術・機器** セラミックスの成形加工法を学ぶ	1. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 2. 付加製造技術について説明できる。 3. CAD/CAMで使用できる材料を説明できる。 **[必修13セfg、総論VIII-7エ、各論IV-3ウbc]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	7/21 (火)	3	武本真治教授 （医療工学講座）	**義歯用材料とその成形方法** 義歯床用材料、特にアクリルレジンについて学ぶ。 アクリルレジンの重合ならびに熱可塑性レジンの成形法について学ぶ。	1.アクリルレジンの粉液成分と役割を説明できる。 2.歯科臨床におけるアクリルレジンの重合方法の違いを説明できる。 3.アクリルレジンの加熱重合と常温重合の共通点と相違点を説明できる。 4.加熱重合レジンと常温重合レジンの物性比較ができる。 5.熱可塑性レジンの成分と特徴を説明できる。 **[必修13セfg、総論VIII-6ア,7ア,7エ、各論IV-4ウef,5ウcd]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	7/28 (火)	3	武本真治教授 （医療工学講座）	**インプラント材料、矯正歯科用材料、歯周治療用材料** インプラント材料、矯正歯科用材料、歯周治療用材料について学ぶ	1.歯科用インプラントに用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 2.矯正歯科に用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 3.歯周治療に用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 **[必修13セij、総論VIII-10,11]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

講義	8/4 (火)	2	武本真治教授 （医療工学講座）	**修復物、補綴装置の研磨** 修復物の研磨に用いる道具とその構造を学ぶ	1.修復物、補綴装置の研磨に用いる道具を説明できる。 2.修復物、補綴装置の研磨の手順を説明できる。 3.歯科理工学の弱点領域について説明できる。 **[必修13セb、総論VIII-2]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/17 (火)	2 ・ 3	服部雅之客員教授	**歯科理工学の基本的事項** 歯科理工学の頻出問題に対応できるようになるために歯科材料の基本的知識を整理する。	1.歯科理工学の頻出問題を解くための歯科材料の基本的知識について説明できる。 **[必修13セ、総論VIII]** 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートの関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

第１回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 （医療工学講座）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 （医療工学講座）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/23（火）	4	武本真治教授 （医療工学講座）	**歯科理工学の基本的事項のレベルアップ** 復習試験と模擬試験から弱点の抽出とその理解を深める。	1.復習試験および模擬試験から弱点を抽出することができる。 **[必修13セ、総論VIII]** 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく（30分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	10/27（火）	4	武本真治教授 （医療工学講座）	**歯科理工学の必修強化** 歯科理工学の必修問題に対応する項目を整理する。	1.歯科理工学の必修問題を解くための基本事項を説明できる。 **[必修13セ、総論VIII]** 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく（30分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	11/17（火）	4	服部雅之客員教授	**歯科理工学の基本的事項** 歯科理工学の頻出問題に対応できるようになるために歯科材料の基本的知識を整理する。	1.歯科理工学の頻出問題を解くための歯科材料の基本的知識を理解できる。 **[必修13セ、総論VIII]** 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく（30分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：法歯科医学・災害歯科医学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/31（火）	4前半	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**法歯学・災害口腔医学領域の知識修得のための対策** 法歯学・災害口腔医学の重要事項を理解できる。	1. 歯科医師として必要な法歯学・災害口腔医学領域の理解すべき事項を列挙できる。 2. 理解不十分な領域を認識できる。 [**必修2-イ-a**][**必修2-ウ-a、b**][**必修2-カ-a、g**][**必修2-ク-a、b**][**必修2-サ-c、d**][**総論Ⅰ-1-エ-i、j**][**総論Ⅰ-1-オ-h**][**総論Ⅰ-2-ア-g**][**総論Ⅰ-3-ア-a、b、c**][**総論Ⅲ-3-ア、イ**] 事前学修：国家試験の法歯学・災害口腔医学領域の過去問を見直しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間30分程度。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	7/1（水）	3	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**災害歯科保健医療** 災害時の歯科医師の役割を理解できる。	1. 災害医療に関わる法律について説明できる。 2. 平時と災害時の歯科医療の違いを説明できる。 3. 多職種による災害時対応の意義を説明できる。 4. 災害傷病者のトリアージについて説明できる。 5. 災害被災者や犠牲者に対する歯科医師の役割を説明できる。 [**必修2-ウ-a、b**][**総論Ⅰ-1-エ-i、j**][**総論Ⅰ-1-オ-h**] 事前学修：法歯科医学p181-194 を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

講義	7/8（水）	3	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**法歯科医学** 法科学領域における歯科の役割と歯科的個人識別の意義を理解できる。	1. 生活（生体）反応を説明できる。 2. 死後変化を説明できる。 3. 身元確認、死因究明に関する法律を説明できる。 4. 歯科的個人識別法を説明できる。 5. 身元不明死体の年齢推定方法を説明できる。 6. 性別鑑定に必要な所見を説明できる。 7. 虐待防止に関する法律を説明できる。 8. 被虐待者の特徴を説明できる。 9. 歯科医師にできる虐待の早期発見と防止、虐待を疑った際の対応を説明できる。 **[必修2-カ-a、g][必修2-サ-c、d][総論Ⅰ-2-ア-g][総論Ⅰ-3-ア-a、b、c]** 事前学修：法歯科医学p17-25, p38-40, p54-64, p83-87, p100-129, p134-145, p156-167を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/18（水）	2	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**法と歯科学** 法律と歯科医療を理解できる。	1. 歯科医師の法的責任を説明できる。 2. 正当行為と不法行為を説明できる。 3. 医療事故調査制度を説明できる。 4. 医療事故・過誤を説明できる。 5. 死体解剖について説明できる。 6. 死因究明等の推進制度を説明できる。 7. 死の判定について説明できる。 **[必修2-イ-a][必修2-カ-a、b、g][必修2-ク-a、b][必修2-サ-c、d][総論Ⅰ-3-a][総論Ⅲ-3-ア、イ]** 事前学修：法歯科医学p6-16, p195-220を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/18（水）	4	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**弱点領域の強化** 法医学、法歯学領域の知識を強化する。	1.法医学、法歯学領域に関する専門用語の再確認と弱点の見直しをし、過去の試験を確実に解答することができる。 **［総論Ⅰ-3-ア-a、b、c］［総論Ⅲ-3-ア、イ］** 事前学修：法医学、法歯学について4年次に使用したレジメ、講義ノート、過去5年間の国家試験問題について再確認してから講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯内療法学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	3/31（火）	3前半	相上雄亮助教（歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**保存修復・歯内療法領域問題** 保存修復・歯内療法領域の必修・一般・臨床実地問題について理解する。	試験解説講義を通して保存修復・歯内療法領域の問題を解くことができるようになる。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/22（月）	3	野田　守教授 高満正宜助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**歯髄疾患、根尖性歯周炎疾患** 歯髄疾患、根尖性歯周疾患の病因病態、主要症候について理解する。	1.歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因、病態を説明できる。 2.歯髄疾患、根尖性歯周炎の臨床的分類を説明できる。 3.歯髄疾患、根尖性歯周炎の主要症候を説明できる。 **［必修6-イ-b、7-イ-c、総論Ⅲ-2-ア-b］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/29（月）	3	浅野明子准教授 （歯科保存学 う蝕治療学分野）	**検査、診断** 歯髄疾患、根尖性歯周炎の検査法、診断について理解する。	1.歯髄、歯歯周組織の検査法を説明できる。 2.検査に用いる器材等の特徴について説明できる。 3.歯内特有の画像検査について説明できる。 4.実態顕微鏡の特徴について説明できる。 5.歯と歯髄腔の形態異常について説明できる。 **［必修9-オ-a、総論Ⅵ-1-ア-b］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/16（木）	3	東　兼司助教 （歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**歯髄保存療法** 歯髄保存療法いついて理解する。	1.待機的診断法について説明できる。 2.歯髄保存の治療法について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-a］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/23（木）	3	東　兼司助教 （歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**歯内療法の基本的手技①** 歯髄除去療法の基本的術式について理解する。	1.歯髄除去の術式を説明できる。 2.歯内療法に用いる器材について説明できる。 2.根管形成について説明できる。 3.根管の化学的清掃について説明できる。 4.歯内の隔壁法、仮封について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-b］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/30（木）	3	浅野明子准教授 （歯科保存学講座　う蝕治療学分）	**歯内療法の基本的手技②** 根管充填法の基本的術式について理解する。	1.根管充填法の術式を説明できる。 2.根管充填に用いる材料、器材について説明できる。 3.根管充填後の治癒機転について説明できる。 4.即時根管充填法について説明できる。 5.再根管治療について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-d］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/1（木）	3	浅野明子准教授 （う蝕治療学分野）	**漂白方法** 変色歯の漂白について理解する。	1.変色歯の分類について説明できる。 2.変色歯の漂白方法について説明できる。 3.適応症、禁忌症、偶発症について説明できる。 **［各論Ⅱ-1-ウ-f］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/8（木）	1	浅野明子准教授 （歯科保存学講座 う蝕治療学分）	**外傷歯、病的吸収** 外傷歯、病的吸収について理解する。	1.歯の外傷の病態について説明できる。 2.歯の外傷の対処法について説明できる。 3.内部吸収、外部吸収の病因、病態、対処法について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-ア-e、イ-h］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/8（木）	2	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**緊急処置、根未完成歯、歯内－歯周疾患** 歯内治療における緊急処置、根未完成歯、歯内－歯周疾患について理解する。	1.根尖性歯周疾患の緊急処置について説明できる。 2.急性歯髄炎の緊急処置について説明できる。 3.疼痛に対する緊急処置について説明できる。 4.根未完成歯の処置法について説明できる。 5.歯内－歯周疾患の分類、臨床症状、治療法について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-cf］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/8（木）	3	野田　守教授 高満正宜助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**外科的歯内療法** 外科的歯内療法について理解する。	1.外科的歯内治療の適応症と種類について説明できる。 2.外科的歯内治療の術式および治療機転、予後について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-ｇ］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15（木）	1	東　兼司助教 （歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**根管治療手技の強化** 根管治療の基本的術式について理解する。	1.麻酔抜髄法、感染根管処置法の術式を説明できる。 2.手用ファイル、ロータリーファイルの使用用について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-bde］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15（木）	2	東　兼司助教 （歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**高齢者の歯内療法** 高齢者の歯内治療の特徴を理解する。	1.高齢者の歯の形態的特徴を説明できる。 2.象牙質・歯髄複合体の老化による変化を説明できる。 3.高齢者の歯内治療の留意点を説明できる。 4.彎曲根管へのアプローチ、治療法の留意点を説明できる。 **［各論Ⅴ-6-ア］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15（木）	3	浅野明子准教授 （う蝕治療学分野）	**滅菌・消毒、歯内治療器具** 歯科用機器の滅菌・消毒、歯内治療に用いる器具について理解する。	1.歯内治療に用いる滅菌、消毒について説明できる。 2.スタンダードプレコーションについて説明できる。 3.根管処置後の歯冠修復、歯冠漏洩について説明できる。 **［必修11-エ-ad、11-ケ-ｂ、総論Ⅶ-2-ア-b、各論Ⅱ-2-イ-d］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/12（木）	1 2	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**必修・一般の強化** 復習試験、総合試験、模擬試験の結果から弱点領域を総合的に理解する。	1.歯内療法学の弱点項目を理解し説明できる。 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 （歯科保存学講座 う蝕治療学分）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 （歯科保存学講座 う蝕治療学分）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/29（月）	4	相上雄亮助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**歯髄保護療法** 歯髄保存療法いついて理解する。	1.待機的診断法について説明できる。 2.歯髄保存に用いる薬剤について説明できる。 3.歯髄保存療法の手順について説明できる。 **［各論Ⅱ-2-ア-a］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/8（木）	4	相上雄亮助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**歯髄疾患、根尖性歯周炎疾患** 歯髄疾患、根尖性歯周疾患の病因病態、主要症候について理解する。	1.歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因、病態を説明できる。 2.歯髄疾患、根尖性歯周炎の臨床的分類を説明できる。 3.歯髄疾患、根尖性歯周炎の主要症候を説明できる。 **［必修6-イ-b、7-イ-c、総論Ⅲ-2-ア-b、総論Ⅳ-2-ア］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/15（木）	4	相上雄亮助教（歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**偶発症と安全対策** 歯内治療における偶発症と安全対策について理解する。	1.穿孔の原因と対処法を説明できる。 2.根管内の器具破折の原因と対処法を説明できる。 3.誤飲、吸引の原因と対処法を説明できる。 4.皮下気腫の原因と対処法を説明できる。 5.歯性上顎洞炎の原因と対処法を説明できる。 6.根管充填材の溢出の原因と対処法を説明できる。 7.化学的損傷の原因と対処法を説明できる。 **［各論Ⅱ-2-イ-j］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：保存修復学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	3/31（火）	3後半	相上雄亮助教（歯科保存学講座 う蝕治療学分）	**保存修復・歯内療法領域問題** 保存修復・歯内療法領域の必修・一般・臨床実地問題について理解する。	試験解説講義を通して保存修復・歯内療法領域の問題を解くことができるようになる。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/1（月）	3	野田　守教授 相上雄亮助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**歯に関係する硬組織疾患①** う蝕の病因病態、主要症候について理解する。	1.う蝕の発生機序について説明できる。 2.う蝕のリスクファクターについて説明できる。 3.う蝕の進行形態について説明できる。 4.急性齲蝕と慢性齲蝕について説明できる。 **［必修６-イ-a、7-イ-b,総論Ⅲ-2-ア-b］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/8（月）	3	浅野明子准教授 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**歯に関係する硬組織疾患②** 非齲蝕性硬組織疾患の病因病態、主要症候について理解する。	1.非齲蝕性硬組織疾患の病因について説明できる。 2.tooth wear、象牙質知覚過敏症の病態について説明できる。 3.非齲蝕性硬組織疾患の主要症候について説明できる。 **［必修7-イ-a、7-イ-b］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/18 (木)	3	相上雄亮助教 （歯科保存学う蝕治療学分野）	**画像検査、検体検査** 硬組織疾患の検査について理解できる。	1.硬組織の検査法を列挙できる。 2.硬組織の検査機器の特徴を説明できる。 **［必修9-オ-a、11-カ-dc、総論Ⅵ-1-a］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/25 (木)	3	野田　守教授 相上雄亮助教 （歯科保存学講座　う蝕治療学分野）	**器具、機器、関連歯科材料** 硬組織疾患治療に必要な機器、材料についいて理解する。	1.切削器具について説明できる。 2.光照射器について説明できる。 3.成形修復材料について説明できる。 **［必修11-セ-ce、総論Ⅷ-2-アイ、５-ア-ab、6-エ、8-アイウ］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/2 (木)	3	浅野明子准教授 （歯科保存学講座　う蝕治療学分）	**硬組織疾患の治療手技** 硬組織疾患の治療の基本について説明できる。	1.窩洞形成について説明できる。 2.直接修復法と間接修復法の窩洞形態の違いについて説明できる。 **［必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/7（月）	1 2	浅野明子准教授 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**硬組織疾患の病因・病態** 硬組織疾患の病因・病態について理解する。	1.ICDASについて説明できる。 2.エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕について説明できる。 3.う蝕の分類について説明できる。 4.tooth wearのの原因、病態について説明できる。 5.象牙質知覚過敏症も原因、病態について説明できる。 **［必修6-イ-a、7-イ-b,総論Ⅲ-2-ア-b、Ⅳ-2-ア、Ⅶ-2-a、各論Ⅱ-1-ア］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/14（月）	1 2	野田　守教授 高満正宜助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**硬組織疾患の治療** 硬組織疾患の治療法について理解する。	1.補助法について説明できる。 2.直接修復法(窩洞形成、充填、研磨)について説明できる。 3.間接修復法(窩洞形成、印象、仮封、装着)について説明できる。 4.ベニア修復について説明できる。 **［必修11-ケ-b、総論Ⅶ-2-ア-a、各論Ⅱ-1-ウ-abc］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/14（月）	3	相上雄亮助教 （歯科保存学う蝕治療学分野）	**根面齲蝕** 根面齲蝕の特徴、対処法について理解する。	1.根面齲蝕の病因、病態について説明できる。 2.根面齲蝕への対応が説明できる。 3.ARTについて説明できる。 **［必修6-イ-b、7-イ-b、総論Ⅲ-2-ア-b、Ⅶ-1-ウ-c、各論Ⅱ-1-オ］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/28（月）	2 3	浅野明子准教授 （歯科保存学講座 う蝕治療学分）	**硬組織疾患の予防管理** 硬組織疾患の包括的なマネージメントについて理解する。	1.MIDについて説明できる。 2.歯質の石灰化について説明できる。 3.フッ化物応用について説明できる。 4.非齲蝕性硬組織疾患の対処法を説明できる。 5.補修修復について説明できる。 6.治療後のトラブル対応について説明できる。 **［各論Ⅱ-イ］** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/26（木）	1 2	浅野明子准教授 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**必修・一般の強化** 復習試験、総合試験、模擬試験の結果から弱点領域を総合的に理解する。	**必修・一般の強化** 復習試験、総合試験、模擬試験の結果から弱点領域を総合的に理解する。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 （歯科保存学講座う蝕治療学分）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/25（木）	4	相上雄亮助教（歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**有病者・高齢者での治療** 有病高齢者の治療について理解する。	1.高齢者、有病者の診療時の留意点を説明できる。 2.高齢者の口腔内の特徴を説明できる。 3.高齢者の保存修復処置を説明できる。 **[各論Ⅱ-1-オ]** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/14（月）	4	相上雄亮助教（歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**補修修復** 補修修復について理解する。	1.補修修復に用いる処理剤を説明できる。 2.補修修復の手順について説明できる。 **[各論Ⅱ-1-ウ-e]** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/28（月）	4	相上雄亮助教（歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**間接修復** 間接修復法について理解する。	1.メタルインレーの装着手順を説明できる。 2.コンポジットレジン、セラミックインレーの装着手順を説明できる。 3.装着の際の修復体内面、歯質の処理剤を説明できる。 **[各論Ⅱ-1-ウ-b]** 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯周病学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/1（水）	2	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周療法学領域の国家試験の傾向と勉強法** 歯周領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題の理解ができる. 3.自分にあった勉強法を修得できる。 **［必修6-イ-c，必修7-イ-d，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c、総論Ⅶ-2-ア-c、各論Ⅱ-3-ア･イ･ウ･エ］** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/1（月）	1	村井　治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周病の概念** 歯周病のリスクファクター，疫学，歯周医学、ライフステージ，特殊な歯周疾患の対応を理解する.	1.　歯周病のリスクファクターを説明できる. 2.　歯周病の疫学を説明できる. 3.　ペリオドンタルメディシンを説明できる. 4.　歯周領域におけるライフステージを説明できる. 5.　特殊な歯周疾患を説明できる. **［必修6-イ-c，必修7-イ-d，総論Ⅰ-6-エ-b，総論Ⅱ-8-イ-c，総論Ⅲ-1-キ-a･b、総論Ⅳ-2-イ、各論Ⅱ-3-ア-a･b］** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/1 (月)	2	村井　治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**特殊な治療法（歯周病）** 急性症状を呈する歯周組織，歯周-歯内病変、根分岐部病変の治療法や局所薬物療法，レーザーを用いた治療を理解する．	1.　歯周-歯内病変を説明できる． 2,　根分岐部病変の治療法を説明できる． 3.　局所薬物療法を説明できる． 4.　レーザーによる治療を説明できる． 5.象牙質知覚過敏の治療法を説明できる． 6.　急性症状を呈する歯周組織の治療法を説明できる． **[必修3-ウ-c，必修4-イ-c，必修7-イ-d，必修9-オ-b，必修11-ケ-d、総論Ⅲ-2-ア-b，総論Ⅳ-2-ア，総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅶ-8-ア-b，総論Ⅶ-9-エ，各論Ⅱ-3-ア-g，各論Ⅱ-3-イ-c，各論Ⅱ-3-ウ-a･b･g･i]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/9 (火)	1	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**検査・診断からの歯周基本治療** 歯周病の検査･診断から歯周基本治療までを理解する．	1.　歯周病の診察と検査を説明できる． 2,　歯周病の分類と診断を説明できる。 3.　応急処置を説明できる． 4.　プラークコントロールを説明できる． 5.　SRPを説明できる． 6.　咬合調整，暫間固定を説明できる． 7.　再評価を説明できる． **[必修6-イ-c，必修7-イ-d，必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b、必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-カ-b，総論Ⅳ-2-ア，総論Ⅴ-1-ア･イ，総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-d･e，各論Ⅱ-3-ウ-a･b･c･i]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/9 (火)	2	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**口腔機能回復治療から定期管理（歯周病）** 口腔機能回復治療からメインテナンス・SPT，予防管理までを理解する。	1.　口腔機能回復治療を説明できる． 2.　メインテナンスを説明できる． 3.　SPTを説明できる． 4.　予防管理を説明できる． **[必修3-ウ-c，必修7-イ-d，必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b、必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-カ-b，総論Ⅳ-2-ア，総論Ⅴ-1-ア･イ，総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-イ-a･b･c･e、各論Ⅱ-3-ウ-h･j]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/16（火）	1	佐々木大輔教授（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周外科治療1（ポケット除去）** 歯周外科治療の概念と歯周外科治療のポケットの治療法である組織付着療法，切除療法を理解する．	1.　歯周外科治療の概念を説明できる。 2.　仮性ポケットと真性ポケットの違いを説明できる． 3.　骨縁下ポケットの種類を説明できる． 4.　歯周外科治療の目的と基本事項を説明できる。 5.　組織付着療法を説明できる． 6.　切除療法を説明できる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-11-エ・オ，各論Ⅱ-3-ウ-d]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/16（火）	2	佐々木大輔教授（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周外科治療2（歯周組織再生療法）** 歯周組織再生療法の概念，種類，術式を理解する．	1.　歯周組織再生療法の概念を説明できる． 2.　骨移植術を説明できる． 3.　GTR 法を説明できる． 3.　エナメルマトリックスタンパク質の応用を説明できる． 4.　FGF-2 製剤の応用を説明できる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-11-エ・オ，各論Ⅱ-3-ウ-e]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/8（火）	1	佐々木大輔教授（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**臨床実地問題の解き方（歯周病）** 歯周領域の臨床実地問題の解き方を理解する．	1.　歯周病領域の臨床実地問題の主文，副文のポイントを説明できる． 2.　歯周組織検査表，口腔内写真，術中写真，エックス線画像の診るべきポイントを説明できる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ]** 事前学修：A講義、選抜講義で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。また所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/8 (火)	2	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策①** 歯周外科治療（ポケット除去）に関連する臨床実地問題を理解する。	1.　臨床実地問題の歯周外科治療（ポケット除去：切除療法，組織付着療法，歯周組織再生療法）領域を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-11-エ･オ，各論Ⅱ-3-ウ-d･e]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/15 (火)	1	村井　治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策②** 歯周-歯内病変、薬物療法，レーザー治療，特殊な歯周疾患に関連する臨床実地問題を理解する。	1.　臨床実地問題の歯周病領域にある特殊な治療法を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-a･b･c･d･e･g、各論Ⅱ-3-イ、各論Ⅱ-3-ウ-a･c･i･k]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/15 (火)	2	村井　治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策③** 歯周基本治療（象牙質知覚過敏，プラークコントロール）に関連する臨床実地問題を理解する．	1.　臨床実地問題の歯周基本治療（象牙質知覚過敏，プラークコントロール）を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア･イ、各論Ⅱ-3-ウ-a･b･c]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/29（火）	1	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 （歯科保存学講座　歯周療法学分野）	**歯周形成外科の基本と歯周領域の臨床実地問題対策④** 歯周外科治療（歯周形成手術）に関連する基本となる知識と臨床実地問題を理解する。	1.　歯周形成外科の種類を説明できる. 2.　遊離歯肉移植術を説明できる. 3.　結合組織移植術を説明できる. 4.　歯肉弁側方移動術を説明できる. 5.　歯肉弁根尖側移動術を説明できる. 6.　歯肉弁歯冠側移動術を説明できる. 7.　口腔前庭拡張術他を説明できる. 8.　臨床実地問題の歯周外科治療（歯周形成外科）領域を確実に答えることができる. **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ウ-f]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/29（火）	2	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 （歯科保存学講座　歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策⑤** 根分岐部病変に関連する臨床実地問題を理解する。	1.　臨床実地問題の根分岐部病変の治療法を確実に答えることができる. **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ウ-g]** 事前学修：A講義で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/29（火）	3	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 （歯科保存学講座　歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策⑥** 歯周病領域に関連する頻出傾向にある臨床実地問題を理解する.	1.　臨床実地問題の歯周病領域における頻出問題を確実に答えることができる. **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-11-エ・オ，各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ]** 事前学修：3年次，A講義で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度.

講義	10/6（火）	1	鈴木啓太助教（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策⑦** 歯周基本治療（SRP，咬合）に関連する臨床実地問題を理解する．	1.　臨床実地問題の歯周基本治療（SRP，咬合）を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-d・e、各論Ⅱ-3-ウ-a・b]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/6（火）	2	鈴木啓太助教（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策⑧** 口腔機能回復治療に関連する臨床実地問題を理解する．	1.　臨床実地問題の口腔機能回復治療領域を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-h、各論Ⅱ-3-ウ-h]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/6（火）	3	鈴木啓太助教（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域の臨床実地問題対策⑨** メインテナンス・SPT，予防管理に関連する臨床実地問題を理解する．	1.　臨床実地問題のメインテナンス・SPT，予防管理を確実に答えることができる． **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-h，各論Ⅱ-3-イ、各論Ⅱ-3-ウ-i・j・k]** 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/10（火）	1	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**必修対策（歯周）①** 歯周疾患，その検査･診断までの基本的な考え方を理解する．	1.　歯周疾患を説明できる． 2.　歯周病の検査，診断を説明できる． **[必修3-ウ-c，必修4-イ-c，必修6-イ-c，必修7-イ-d，必修7-ウ-h，必修8-キ-c，必修9-ア-a,b，必修9-オ-b]** 事前学習：A講義，B講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/10（火）	2	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**必修対策（歯周）②** 歯周疾患の治療について基本的な考え方を理解する．	1.　歯周病治療の基本をを説明できる． **[必修11-ア-b，必修11-ケ-d]** 事前学習：A講義，B講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/1（月）	4	村井　治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域における弱点補強①** 歯周領域の弱点を補強する.	1.　歯周領域における基本事項を確認し，基本的知識を補強する. 2.　ビスフォスフォネート関連顎骨壊死と歯周病治療の関係を説明できる. **［必修6-イ-c･q，必修7-イ-d，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c、総論Ⅶ-2-ア-c、各論Ⅱ-3-ア･イ･ウ･エ］** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/6（火）	4	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 （歯科保存学講座　歯周療法学分野）	**歯周領域における弱点補強②** 歯周領域の弱点を補強する.	1.　歯科医師国家試験において歯周領域で頻出する歯周外科治療（ポケット除去）の基本知識を補強する。 2.　歯科医師国家試験において歯周領域で頻出する歯周外科治療（歯周形成外科）の基本知識を補強する. 3.　歯科医師国家試験において歯周領域で頻出する根分岐部病変の病態、治療法の基本知識を補強する。 **［必修6-イ-c，必修7-イ-d，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅳ-1-ア-c、総論Ⅶ-2-ア-c、各論Ⅱ-3-ア･イ･ウ･エ］** 事前学修：3年次、A講義で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/7 (水)	4	相原恵子助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周領域における弱点補強③** 歯周領域の弱点を補強する.	1.　試験結果から見た歯周領域の弱点となっている基本的知識を補強する. 2.　歯科関係者と多職種との連携について説明できる. **[必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b、総論Ⅵ-1-ア-c、総論Ⅶ-2-ア-c、各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ]** 事前学修：3年次、A講義で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：冠橋義歯学・口腔インプラント学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/1（水）	3前半	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法** 国家試験の解説と傾向を理解する。	1. 今春の国家試験で問われたインプラント域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 **[Ⅳ-6, 8]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、昨年度の国家試験を教科書、レジメ、講義ノートを用いて見直す。
講義	4/1（水）	3後半	深澤　翔太准教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法** 歯科補綴学領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の歯科補綴学領域の国家試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[Ⅳ-1, 2, 3, 8]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、昨年度の国家試験を教科書、レジメ、講義ノートを用いて見直す。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/24（水）	1	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**クラウンブリッジの前処置** 前処置に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してクラウンブリッジによる補綴に必要な前処置に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	6/24（水）	2	福徳　暁宏講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**支台歯形成** クラウンの種類と支台歯形成に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してクラウンの種類とその支台歯形成法に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-b]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/1（水）	1	福徳　暁宏講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**支台築造** 支台築造に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通して支台築造に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-c, e]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

講義	7/1（水）	2	深澤翔太准教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**精密印象採得** 印象採得方法に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通してクラウンブリッジの印象採得に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-d]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/15（水）	1	深澤　翔太准教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**顎間関係記録** 咬合採得に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通してクラウンブリッジの咬合採得に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-f]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/15（水）	2	深澤　翔太准教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**作業模型製作と咬合器装着** 作業模型製作と咬合器装着に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通して作業模型の製作法、咬合器装着に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/22（水）	1	横田　潤講師（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**ワックスパターン形成** ワックスパターン形成法に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通してワックスパターン形成法に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/22（水）	2	横田　潤講師（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**埋没、鋳造、研磨** 埋没・鋳造・研磨に関する知識を深め整理できる。	1.講義を通してクラウンの埋没、鋳造、研磨に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/29（水）	1	八戸　勇樹助教（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**口腔内試適、調整、装着** 口腔内試適・調整法に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通してクラウンの試適、調整、調整法に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-h]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

講義	7/29（水）	2	福徳　暁宏講師（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**クラウンブリッジ領域における必修対策** クラウンブリッジ領域における必修問題等基礎的内容に関する知識を深め、整理できる。	″1.総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた必修問題でのクラウンブリッジ補綴顎領域に関する理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[Ⅳ-3-ウ-b,c]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/5（水）	1	齊藤　裕美子助教（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**前装金属冠の種類と特徴** 前装冠の種類と製作過程に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通して前装金属冠に関連する知識を深め問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a,b,c]** 事前学習：4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/5（水）	2	齊藤　裕美子助教（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**下顎位・下顎運動** 下顎運動に関する知識を深め、整理できる。	1.講義を通して下顎運動に関連する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-2-ア,イ,ウ,エ]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/19（水）	1	今　一裕教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント臨床** 口腔インプラントの診断およびインプラント体の材料について	1.口腔インプラント治療の診断が説明できる。 **[Ⅳ-6-ア-a,b,c]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/19（水）	2	今　一裕教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント臨床** 診断用ステントから治療計画立案のながれについて。シミュレーションによる治療計画も理解する。	1.口腔インプラント治療の診断が説明できる。 **[Ⅳ-6-イ-a,b]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/30（水）	1	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラントの臨床** 口腔インプラント治療の骨移植および1次手術を理解する。	1.口腔インプラントの一次手術およびコンピューター支援手術、骨造成法の付随手術について説明することができる。 **[Ⅳ-6-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	9/30（水）	2	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラントの臨床** 口腔インプラントの外科術式および2次手術を理解する。	1.口腔インプラントの二次手術および軟組織移植の付随手術について説明することができる。 **[Ⅳ-6-ウ-b]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/7（水）	1	齊藤　裕美子助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**ブリッジの種類（接着ブリッジを含む）とポンティック** 接着ブリッジを含む固定性補綴装置のブリッジに関する特徴ならびに基底面に関する知識を深め整理できる。	1.講義を通してブリッジの種類に関連する問題を解くことができるようになる。 2.接着Brに関連する知識を深め、問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/7（水）	2	福徳　暁宏講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**ろう着　Br.の連結法** ブリッジの連結法（ろう付け）に関する知識を深め整理できる。	1.講義を通してブリッジに関連する材料の知識を深め、問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-ウ-a]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/14（水）	2	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント臨床インプラント補綴　総論** インプラントの補綴術式を理解する。	1.インプラントの上部構造の印象採得と咬合採得について説明できる。 2.プロビジョナルレストレーションの意義を荷重時期について説明できる。 **[Ⅳ-6-ウ-c,d,e]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

講義	10/14（水）	3	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント臨床 インプラント補綴　総論** インプラントの補綴術式を理解する。	1.インプラント最終上部構造の製作手順について説明できる。 2.インプラントインプラント最終上部構造の構造、固定方法、装着について説明することができる。 **[Ⅳ-6-ウ-f, g, エ-a, b, c, d]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/21（水）	2	佐々木　渓斗助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**口腔インプラント臨床 インプラントの指導と管理** インプラント治療後のメインテナンスについて理解する。	1.インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎についての理解ならびにその支持療法について説明することができる。 **[Ⅳ-6-ウ-f, g, エ-a, b, c, d]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/21（水）	3	横田　潤講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**CAD/CAMとセラミッククラウン** セラミッククラウンの基本事項に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してセラミッククラウンの基本事項に関する問題を解くことができるようになる。 **[Ⅳ-3-イ-g, Ⅳ-3-ウ-b, c]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/28（水）	2	今　一裕教授 星　美貴助教 島崎伸子先生 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**顎補綴対策** 顎義歯の特徴、適応、製作方法を理解する。	1. 顎義歯の適応症およびその病態を説明できる。 2. 顎義歯の特徴を説明できる。 **[Ⅳ-7-ア, イ, ウ, エ, オ]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/28（水）	3	田邉　憲昌 非常勤講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**スポーツ歯科の臨床** スポーツなどによる外傷や予防法について理解する。	1.スポーツなどによる外傷や予防法について説明することが出来る。 **[Ⅰ-4-オ, Ⅲ-5-イ-d]** 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	12/2（水）	1	近藤　尚知 非常勤講師 （愛知学院大学）	**弱点領域の強化⑦ CAD/CAM冠のポイント** クラウンブリッジ補綴学領域について知識を強化できる。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきたクラウンブリッジ補綴顎領域に関する理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[Ⅳ-3-ウ-b, c]**
講義	12/2（水）	2	近藤　尚知 非常勤講師 （愛知学院大学）	**口腔インプラント治療とデジタル技術** インプラント治療に応用されているデジタル技術との関連を整理する。	1. 近年発達してきたデジタル技術とインプラント治療との関連を理解し、説明できる。 2. 光学印象を応用した印象採得や技工ステップの流れを理解し、説明できる。 **[D-5-3-3-6]**

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	深澤　翔太准教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。
講義	※	※	福徳　暁宏講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	深澤　翔太准教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

講義	※	※	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/17（水）	4	星　美貴助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**５年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験問題の解説＆関連講義** 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. クラウンブリッジ補綴学、顎顔面補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[Ⅳ-1, 2, 3, 8]** [Ⅳ-7-ア, イ, ウ, エ, オ]
講義	6/24（水）	4	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**５年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験問題の解説＆関連講義** 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[Ⅳ-6, 8]**

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/14（水）	4	福徳　暁宏講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**総合試験、復習試験、模擬試験、到達度試験結果問題の解説＆関連講義** 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. クラウンブリッジ補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[Ⅳ-1, 2, 3, 8]**
講義	10/21（水）	4	今　一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**総合試験、復習試験、模擬試験、到達度試験結果問題の解説＆関連講義** 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **[Ⅳ-1, 2, 3, 8]**

講義	10/28（水）	4	田邉　憲昌 非常勤講師 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学）	**総合試験、復習試験、模擬試験、到達度試験結果問題の解説＆関連講義** 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [Ⅳ-6, 8]

総合講義（Ⅱ）講義日程表：有床義歯補綴学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/3（金）	3前半	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法** 歯科補綴学領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の歯科補綴学領域の国家試験問題をとおして傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **［必修5,6,9,11］［総論Ⅲ,Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ,Ⅴ］** 事前学習：国家試験過去問題に目を通して講義に臨むこと。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/19（火）	3	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯①** 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 無歯顎の病態と加齢に伴う変化を理解する。 無歯顎の印象採得を理解する。 様々な印象採得法を理解する。	1. 無歯顎の病態と加齢変化について説明できる。 2. 上下顎無歯顎の解剖学的ランドマークと圧負担域を図示できる。 3. 上下顎の筋圧形成に関わる筋を説明できる。 4. 筋圧形成の意義を説明できる。 5. 精密印象の目的と方法を説明できる。 6. いろいろな手法を用いた印象採得方法を説明できる。 **［必修5-エ,6-イ,11-ケ,11-セ］［総論Ⅲ-2,Ⅶ-2,Ⅷ-3］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/2（火）	3	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯②** 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 顎間関係記録を理解する。 ゴシックアーチ描記法を理解する。	1. 咬合床の機能と仮想咬合平面の決定方法を説明できる。 2. 垂直的顎間関係の形態的、機能的な決定方法を説明できる。 3. 水平的顎間関係の記録方法を説明できる。 4. 咬合床に記入する標示線を説明できる。 5. ゴシックアーチ描記法を説明できる。 **［必修9-オ,11-ケ,11-セ］［総論Ⅵ-1,Ⅶ-2,Ⅷ-3,Ⅷ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。

講義	6/9 (火)	3	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯③** 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 下顎運動と咬合器を理解する。 咬合器への模型装着・顆路調節を理解する。	1. 平均値咬合器と調節性咬合器について説明できる。 2. アルコン型とコンダイラー型咬合器について説明できる。 3. 下顎運動について説明できる。 4. 上下顎模型の装着方法を説明できる。 5. 顔弓と顔弓記録の基準点を説明できる。 6. 顔弓を使用する臨床的意義を説明できる。 7. 顆路の調節方法を説明できる。 **［必修9-オ, 11-ケ, 11-セ］［総論Ⅵ-1, Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/16 (火)	3	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯④** 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 人工歯排列を理解する。 ろう義歯試適における検査内容を理解する。	1. 人工歯選択基準（基本的な顔型、SPA要素、標示線、大きさ）を説明できる。 2. 前歯部排列方法を説明できる。 3. 垂直被蓋と水平被蓋について説明できる。 4. 臼歯部人工歯排列の基本原則を説明できる。 5. 歯槽頂間線法則、ニュートラルゾーン、パウンドライン、調節彎曲を説明できる。 6. ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 7. 発音に関連する解剖学的・生理学的事項を説明できる。 **［必修9-オ, 11-ケ, 11-セ］［総論Ⅵ-1, Ⅶ-2, Ⅷ-4, Ⅷ-6］［各論Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/23 (火)	1	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯①** 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 歯の欠損による障害、欠損様式、義歯の分類を理解する。	1. 分類の必要性と臨床的意義を説明できる。 2. 1～3次性障害について説明できる。 3. 部分床義歯製作時の検査項目を説明できる。 **［必修6-イ, 9-ア, 9-オ, 11-ケ］［総論Ⅲ-2, Ⅵ-1, Ⅵ-2, Ⅶ-2］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	6/23 (火)	2	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯②** 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 部分床義歯の支持・把持・維持機構を理解する。 部分床義歯の支台装置の選択と連結子の選択を理解する。	1. 部分床義歯の支持・把持・維持について説明できる。 2. 支台装置の一般的所要条件を説明できる。 3. 支台装置の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 4. 連結子の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 **［必修11-ケ, 11-セ］［総論Ⅶ-2, Ⅷ-6］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	6/29 (月)	1	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯③** 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 前処置・印象採得・オルタードキャスト法を理解する。 サベイングの目的と意義について理解する。 義歯の設計手順について理解する。	1. 部分床義歯の前処置を説明できる。 2. 部分床義歯の精密印象採得を説明できる。 3. オルタードキャストテクニックを説明できる。 4. サベイングの目的を説明できる。 5. サベイングの手順と意味を説明できる。 6. サベイングと義歯設計の関係を説明できる。 7. 義歯の設計手順を説明できる。 **［必修9-オ, 11-ケ, 11-セ］［総論Ⅵ-1, Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4］ ［各論Ⅳ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	6/29 (月)	2	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯④** 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 部分床義歯の咬合採得・人工歯排列・蝋義歯試適を理解する。	1. 症例に応じた部分床義歯の咬合採得の特徴について説明できる。 2. 部分床義歯の人工歯排列について説明できる。 3. 部分床義歯のろう義歯試適について説明できる。 **［必修11-ケ, 11-セ］［総論Ⅶ-2, Ⅷ-6］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	7/10 (金)	1	織田展輔 非常勤講師	**部分床義歯⑤** 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 金属床義歯の製作過程を理解する。 様々な種類の義歯について理解する。	1. フレームワークの製作過程について説明できる。 2. 金属床義歯の特徴について説明できる。 3. オーバーデンチャーについて説明できる。 4. アタッチメントについて説明できる。 **［必修11-ケ, 11-セ］［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7］ ［各論Ⅳ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	7/10（金）	2	織田展輔 非常勤講師	**全部・部分床義歯①** 知っておかなければいけない有床義歯の基礎知識 重合義歯の咬合器再装着と咬合調整について説明できる。	1. 咬合器再装着法について説明できる。 2. 咬合様式について説明できる。 3. 咬合調整について説明できる。 **［必修11-ケ, 11-セ］［総論Ⅶ-2, Ⅷ-6］［各論Ⅳ-4, Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	7/10（金）	3	織田展輔 非常勤講師	**全部・部分床義歯②** 知っておかなければいけない有床義歯の基礎知識 床義歯装着、装着後の短期的・長期的な変化と対応を理解する。	1. 義歯装着の基本的術式について説明できる。 2. 義歯装着後、短期的に生じる生体と材料の変化について説明できる。 3. 義歯装着後の短期予後の対応を説明できる。 4. 義歯装着後、長期経過後に生じる生体と材料の変化について説明できる。 5. 義歯装着後の長期予後の対応を説明できる。 **［必修6-1, 11-ケ, 11-セ］［総論Ⅲ-2, Ⅶ-2, Ⅷ-6］［各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-5, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/13（火）	1	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策①** 義歯の設計・印象採得・作業用模型の製作と治療の流れを理解する。	1. 義歯の設計について説明できる。 2. 印象採得について説明できる。 3. 作業用模型の作製について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4］［各論Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/13（火）	2	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策②** 顎間関係の記録と咬合器装着と顆路調節の目的と治療の流れを理解する。	1. 顎間関係記録について説明できる。 2. フェイスボウトランスファーについて説明できる。 3. 咬合器装着と調節について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4］［各論Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	10/13（火）	3	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策③** 人工歯選択と排列・歯肉形成・ろう義歯試適の目的と治療の流れを理解する。	1. 人工歯選択と排列について説明できる。 2. ろう義歯試適について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-4, Ⅷ-6］［各論Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/19（月）	3	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策④** 埋没重合・咬合調整・装着・患者指導の目的と治療の流れを理解する。	1. 埋没・重合について説明できる。 2. 咬合調整について説明できる。 3. 装着について説明できる。 4. 患者指導について説明できる。 **［総論Ⅲ-2, Ⅶ-2, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7］** **［各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20（火）	1	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策⑤** 構成要素とその役割・サベイングの目的と治療の流れを理解する。	1. 義歯の構成要素と役割について説明できる。 2. 印象採得について説明できる。 3. 義歯設計とサベイングについて説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4］［各論Ⅳ-2, Ⅳ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20（火）	2	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策⑥** 前処置・印象採得・オルタードキャスト法を理解する。	1.部分床義歯の前処置を説明できる。 2.部分床義歯の精密印象採得を説明できる。 3.オルタードキャストテクニックを説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6］［各論Ⅳ-4］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20（火）	3	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策⑦** 金属床義歯の製作の流れを理解する。 様々な種類の義歯について理解する。	1. フレームワークの製作過程について説明できる。 2. 金属床義歯の特徴について説明できる。 3. ろう義歯試適について説明できる。 4. 様々な種類の義歯について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7］** **［各論Ⅳ-4, Ⅳ-7］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	10/26（月）	3	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策⑧** 義歯装着後のメインテナンス、リライン、修理の目的と治療の流れを理解する。	1. メインテナンスについて説明できる。 2. リラインについて説明できる。 3. 修理について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-6］ ［各論Ⅳ-4, Ⅳ-5, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27（火）	1	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**一般・臨床実地問題対策⑨** 義歯製作において必要な技工手順および使用器材、材料を理解する。	1. 義歯製作における各治療手順において必要な技工操作について説明できる。 2. 技工操作時に用いる器材および使用材料について説明できる。 **［総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7］** **［各論Ⅳ-4, Ⅳ-5］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27（火）	2	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**臨床実地対策①** こうやって解く！全部床義歯の臨床問題 全部床義歯症例への治療法と問題に対する対応を理解する。	1. 症例に対する治療法を説明できる。 2. 症例の問題点を挙げられる。 3. 症例の問題点への対応方法を説明できる。 **［総論Ⅶ-2］ ［各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27（火）	3	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**臨床実地対策②** こうやって解く！部分床義歯の臨床問題 部分床義歯症例への治療法と問題に対する対応を理解する。	1. 症例に対する治療法を説明できる。 2. 症例の問題点をあげられる。 3. 症例の問題点への対応方法を説明できる。 **［総論Ⅶ-2］ ［各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-7, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	12/1（火）	1	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**必修問題対策①** 全部床義歯補綴学の基礎知識を整理し理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5, 6, 9, 11］［総論Ⅶ-2, ］ ［各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。

講義	12/1 (火)	2	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**必修問題対策②** 部分床義歯補綴学の基礎知識を整理し理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5, 6, 9, 11］［総論Ⅶ-2, ］ ［各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-7, Ⅳ-8］** 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。

第１回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/9 (火)	4	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**弱点強化①** 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5, 6, 9, 11］［総論Ⅲ, Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ, Ⅴ］** 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/16 (火)	4	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**弱点強化②** 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5, 6, 9, 11］［総論Ⅲ, Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ, Ⅴ］** 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。

選抜講義②（B−C講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/20（火）	4	原総一朗 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**弱点強化①** 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1.有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5,6,9,11］［総論Ⅲ,Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ,Ⅴ］** 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。
講義	10/26（月）	4	佐藤宏明 講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**弱点強化②** 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1.有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5,6,9,11］［総論Ⅲ,Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ,Ⅴ］** 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。
講義	12/1（火）	4	米澤　悠 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**弱点強化③** 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1.有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修5,6,9,11］［総論Ⅲ,Ⅴ～Ⅷ］［各論Ⅳ,Ⅴ］** 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/3（金）	3 後半	小林琢也 教授（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法** 歯科補綴学領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学領域の国家試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **［必修4,7,8,9,11］ ［総論Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ～Ⅶ］ ［各論Ⅳ,Ⅴ］** 事前学習：国家試験過去問題に目を通して講義に臨むこと。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/26（火）	3	小林琢也 教授（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション①** 高齢者に対する様々なアセスメントを理解する。	1.高齢者の日常生活動作を説明できる。 2.高齢者の手段的日常生活動作を説明できる。 3.高齢者の認知機能を説明できる。 4.高齢者の運動機能を説明できる。 **［必修8-イ,8-エ］ ［総論Ⅴ-1,Ⅴ-5,Ⅶ-1］** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ2～18を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	7/7（火）	1	小林琢也 教授（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション②** 口腔機能の評価を理解する. 口腔機能低下症を理解する。	1.口腔機能検査について説明できる。 2.口腔機能低下症について説明できる。 **［必修8-イ,8-エ］ ［総論Ⅳ-2,Ⅵ-1,Ⅶ-6］** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ130-155を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	7/27（月）	1	小林琢也 教授（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション③** 摂食嚥下機能と5期モデルを理解する。	1.摂食嚥下に関与する解剖について説明できる。 2.摂食嚥下のメカニズムついて説明できる。 3.摂食嚥下機能と5期モデルについて説明できる。 **［必修4-ア］［総論Ⅱ-6］** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ20～49、58～67，70～110を読み、疑問点をまとめておくこと。

講義	7/27（月）	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション④** 摂食嚥下障害と検査法を理解する。	1.スクリーニング検査について説明できる. 2.嚥下内視鏡検査について説明できる。 3.嚥下造影検査について説明できる。 **[必修9-ア,9-オ,11-シ] [総論Ⅵ-1]** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ130-155を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	8/4（火）	1	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション⑤** 摂食嚥下障害の間接訓練について理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する間接訓練法について説明できる。 **[必修8-イ] [総論Ⅳ-2, Ⅴ-5, Ⅵ-1, Ⅶ-6] [各論Ⅴ-7]** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ170～174を読み、疑問点をまとめておくこと。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/7（月）	3	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション⑥** 摂食嚥下障害の直接訓練について理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する直接訓練法について説明できる。 **[総論Ⅳ-2, Ⅴ-5, Ⅵ-1, Ⅶ-6] [各論Ⅳ-1, Ⅳ-8, Ⅴ-1～4, Ⅴ-7]** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ174～181を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	9/8（火）	3	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション⑦** 摂食嚥下障害に対する口腔ケア法と高齢者の栄養管理法について理解する。	1. 摂食嚥下障害患者の口腔健康管理を説明できる。 2. 高齢者の栄養管理について説明できる。 **[総論Ⅳ-2, Ⅴ-5, Ⅶ-1, Ⅶ-6] [各論Ⅳ-1, Ⅳ-2, Ⅳ-8]** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ185～195を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	9/15（火）	3	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション⑧** 摂食嚥下障害に対する歯科的対応・補綴的対応	1. PAP・PLPを説明できる。 2. 補綴的対応以外の歯科的対応について説明できる。 **[総論Ⅶ-6] [各論Ⅳ-7, Ⅳ-8, Ⅴ-6, Ⅴ-7]** 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ196～212を読み、疑問点をまとめておくこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/24（火）	1	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**訪問歯科診療①** 訪問歯科診療について理解する。	1. 訪問歯科診療を行う上での医療制度を説明できる。 2. 要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。 3. 訪問診療に必要な機材を説明できる。 4.在宅患者の全身評価ができる。 5.医科担当医との情報交換ができる。 6.介護職員との情報交換ができる。 7.訪問診療を必要とする疾患を説明できる。 8.訪問診療を必要とする疾患を持つ患者への対応を説明できる。 **［総論Ⅰ-1, Ⅰ-2, Ⅴ-5, Ⅶ-1, Ⅶ-6］** **［各論Ⅴ-1, Ⅴ-2, Ⅴ-4, Ⅴ-6, Ⅴ-7, Ⅴ-9］** 事前学習：老年歯科医学、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	11/24（火）	2	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション⑨総論** **訪問歯科診療②総論** 高齢者歯科診療について理解する。	1.高齢者歯科診療における対応について説明できる。 **［総論Ⅶ-1］［各論Ⅴ-1, Ⅴ-2, Ⅴ-4, Ⅴ-6, Ⅴ-7, Ⅴ-9］** DESS演習の準備をしておくこと。 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ214～275を読み、疑問点をまとめておくこと。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/26（火）	4	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**試験問題の解説＆関連講義** 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修4, 7, 8, 9, 11］ ［総論Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ～Ⅶ］ ［各論Ⅳ, Ⅴ］** これまで受けた試験問題を復習しておくこと。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/10（火）	4	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**試験問題の解説＆関連講義** 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修4, 7, 8, 9, 11］ ［総論Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ～Ⅶ］ ［各論Ⅳ, Ⅴ］** これまで受けた試験問題を復習しておくこと。
講義	11/24（火）	4	小林琢也 教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**試験問題の解説＆関連講義** 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 **［必修4, 7, 8, 9, 11］ ［総論Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ～Ⅶ］ ［各論Ⅳ, Ⅴ］** これまで受けた試験問題を復習しておくこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：口腔外科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/2（木）	5	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**口腔外科領域の試験の傾向と勉強法** 口腔外科領域の試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1.今春の口腔外科領域の試験問題を通して傾向を説明できる。 2.自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[D-3-1～11]**

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/22（金）	1	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**口腔外科診断学1(主要症候)** 口腔外科疾患における主要な症候を理解し、診断に必要な知識を修得する。	1.主要な症候とその概略を説明できる。 2.主要な症候の原因、病理を説明できる。 3.主要な症候を有する主な疾患を列挙できる。 **[E-3-2-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p26-44を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	5/22（金）	2	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**口腔外科診断学2(検査法)** 顎・口腔外科の診察において必要な検査法を修得する。	1.基本的な検査法を上げ、その概略を説明できる。 2.基本的な検査法の臨床的意義が説明できる。 3.各臨床検査の基準値を述べ、異常値の意味を説明できる。 **[E-2-2-1,2,6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p26-44を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	5/22（金）	3	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の嚢胞** 1顎嚢胞 2軟組織の嚢胞 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を修得する。	1.顎骨および軟組織に発生する嚢胞を分類し、それぞれの発生病因と臨床症状、画像検査所見、病理組織所見を述べ、治療法を概説できる。 2.嚢胞に対する手術法および器具の種類を列挙し用法を説明できる。 3.術中、術後の偶発症と対処法を説明できる。 **[D-3-1-5-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p272-291、378を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	5/29 (金)	1	古城慎太郎講師 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**手術1** **抜歯、難抜歯、歯根端切除術、歯槽堤手術、歯の再植・移植** 抜歯を適切に実施するために必要な知識を修得する。	1.抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 2.抜歯に必要な器具の用法と手技を説明できる。 3.抜歯の正常治癒経過および異常な治癒経過とその対処法を説明できる。 4.埋伏歯の抜歯法を説明できる。 5.歯根端切除術の適応症と禁忌症を説明できる。 6.歯槽堤整形術の適応症と手技を説明できる。 7.歯の移植・再植の適応症と手技を説明できる。 8.小帯に対する手術の適応症と手技を説明できる。 **[E-5-3-5-1　D-5-4-1,2,3,5]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p484-506, 653-694を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	5/29 (金)	2	古城慎太郎講師 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**手術2** **手術の基本手技** 切開、縫合、止血、骨切削などに用いる器具について修得する。	1.縫合の種類を列挙し、説明できる。 2.止血法の種類を列挙し、説明できる。 3.メスの種類と特徴を列挙できる。 4.縫合に必要な器材を列挙できる。 5.止血に用いる器材を列挙できる。 6.骨切削に用いる器具を列挙できる。 7.滅菌・消毒法について説明できる。 **[E-5-3-5-3,4]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p493-506を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	6/5 (金)	1	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**血液疾患** **赤血球、白血球異常、出血性素因** 貧血や白血病の全身的症状と口腔症状との関連について修得する。出血性素因に関する知識を修得する。	1.赤血球の異常を現す疾患を列挙できる。 2.貧血の症状と治療法を説明できる。 3.輸血、輸血製剤の種類について説明できる。 4.白血球の異常を現す疾患を列挙できる。 5.白血病の症状を説明できる。 6.出血性素因を現す主要な疾患を列挙できる。 7.止血機能のスクリーニング検査項目を列挙できる。 8.主要な出血性素因の病因、病態、治療法を説明できる。 9.抗血栓療法について説明し適応疾患を列挙できる。 10.抗血栓療法薬を列挙できる。 **[D-3-1-10-1]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p254-271を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	6/5 (金)	2	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**口腔顔面痛と慢性疼痛** 様々な口腔顔面痛ならびに心因性疾患について修得する。	1.口腔顎顔面領域の疼痛の種類を列挙できる。 2.慢性疼痛と心因性病態との関連について説明できる。 **[D-3-1-9-1]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p341-361を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	6/19 (金)	1	川又慎介助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**顎関節疾患1・2** **顎関節症** **外傷、炎症、腫瘍** **形態・機能異常** 顎関節症の種類、原因、症状、診断、治療に関する知識を修得する。 顎関節における形態と機能異常、損傷、炎症性疾患の原因、症状、診断、治療に関する知識を修得する。	1.顎関節の構造を説明できる。 2.顎関節の運動に関係する筋肉を説明できる。 3.顎関節の限界運動を説明できる。 4.顎関節の形態と機能について説明できる。 5.顎関節疾患の種類と原因を列挙できる。 6.顎関節疾患の症状・診断法を概説できる 7.顎関節症の治療法を説明できる。 8.主要な顎関節形態異常、機能異常の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 9.顎関節損傷の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 10.顎関節の腫瘍、炎症性疾患の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 **[D-3-1-7-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p388-391、405-411を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	6/19 (金)	2	川又慎介助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**外傷1・2** **歯の外傷・歯槽骨骨折、顎骨骨折、軟組織の損傷、創傷治癒** 歯の損傷および歯槽骨骨折、顎顔面骨折の診断法と治療について修得する。	1.歯の損傷の種類と特徴および治癒過程を説明する。 2.歯の損傷の診断と治療法を説明できる。 3.歯槽骨骨折の診断と治療法を説明する。 4.軟組織損傷について説明できる。 5.創傷治癒について説明できる。 6.一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。 7.顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。 8.上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬骨・頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。 **[D-3-1-2-1～5]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p149-157を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	6/26（金）	1	山田浩之教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の腫瘍1** **非歯原性良性腫瘍** **腫瘍類似疾患** 非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類を把握し、発生病因、臨床症状、病理組織像、診断、治療法を修得する。	1.非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の特徴と症状を説明できる。 2.非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類、特徴、症状、診断および治療法を説明できる。 **[D-3-1-6-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	6/26（金）	2	山田浩之教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の腫瘍2** **癌腫、肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫** 顎顔面口腔領域に発生する上皮性・非上皮性の悪性腫瘍に関する知識を修得する。	1.非歯原性悪性腫瘍の分類について概説できる。 2.悪性腫瘍の特徴について概説できる。 3.腔癌の臨床症状を説明できる。 4.口腔癌の各種画像所見を説明できる。 5.口腔癌の病理組織像について説明できる。 6.口腔癌の治療、予後について説明できる。 7.TNM分類について説明できる。 8.口腔顎顔面領域に発症する主な悪性腫瘍を列挙できる。 9.主な肉腫の種類を列挙できる。 10.主な肉腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 11.悪性リンパ腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 12.悪性黒色腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p341-365を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/3（金）	1	川又慎介助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**口腔粘膜疾患** **総論** 口内炎およびアフタ性病変、感染症（ウイルス性疾患、特異性炎） 口腔粘膜の解剖学的特徴について学習し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を修得する。 口腔内発症する感染症に関する知識を修得する。	1.口腔粘膜の解剖学的構造について説明する。 2.口内炎やアフタの成因、症状について説明できる。 3.口内炎やアフタの治療法について説明できる。 4.口腔粘膜に発症する感染症を列挙し、その特徴について説明できる。 5.口腔粘膜に発症する感染症の治療法について説明できる。 **[D-3-1-4-1,2 D-3-1-10-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p214-234、243-251を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	7/3 (金)	2	川又慎介助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**口腔潜在的悪性疾患** 口腔領域に発生する口腔潜在的悪性疾患に関する知識を修得する。	1.口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、前癌状態）の概念を説明できる。 2.口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、前癌状態）の種類を列挙できる。 3.口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、前癌状態）の診断と治療法について説明できる。 **[D-3-1-6-5,6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p235-243、363-366を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/17 (金)	1	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**顎口腔の腫瘍3** **唾液腺腫瘍の治療** 唾液腺腫瘍の症状、診断および治療法を修得する。	1.唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。 2.唾液腺腫瘍の症状、検査および治療法を説明できる。 3.唾液腺の腫瘍性病変(良性腫瘍と悪性腫瘍)の病理組織所見を説できる。 **[D-3-1-8-4]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p378-381を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/17 (金)	2	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**顎口腔の腫瘍4** **化学療法、放射線療法、その他の治療、緩和医療** 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する化学療法や免疫療法の種類、適応について修得する。	1.悪性腫瘍の化学療法について概説する。 2.口腔悪性腫瘍に使用する化学療法薬を列挙できる。 3.化学療法薬の投与法を説明できる。 4.化学療法薬の副作用を説明できる。 5.放射線治療における副作用について説明できる。 6.治療患者の口腔内管理、疼痛管理について説明できる。 緩和医療について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p341-361を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	7/17（金）	3	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**先天異常・後天異常1 総論** 顔面・口腔の裂奇形 先天性・後天性異常の概念、成因、発生との関連について理解し、裂奇形に関する知識を修得する。 口蓋裂患者への機能検査を修得する。顎の異常 顎の先天性・後天性異常について理解し、顎変形症に関する知識を修得する。 顔面・口腔の裂奇形 先天性・後天性異常の概念、成因、発生との関連について理解し、裂奇形に関する知識を修得する。 口蓋裂患者への機能検査を修得する。	1.先天異常・後天異常の概念と成因について説明できる。 2.顔面・口腔の発生と先天異常との関連について説明できる。 3.裂奇形の種類を列挙できる。 4.口唇裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 5.口蓋裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 6.主要な軟組織の異常と治療法を説明できる。 7.顎口腔に異常を現す主要な症候群と系統的骨疾患を列挙し症状を説明できる。 8.主要な症候群と系統的骨疾患の診断法を説明する。 **[D-3-1-1-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p126-137を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/24（金）	1	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**先天異常・後天異常2 軟組織の異常** 顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を修得する。	1.主要な顎形態異常を列挙することができる。 2.主要な顎変形症の症状を説明できる。 3.主要な顎変形症の診断法を説明できる。 4.主要な顎変形症の治療法を説明できる。 **[D-3-1-1-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p139-147を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	7/24 (金)	2	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の炎症1・2** **総論** **蜂窩織炎** 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を修得する。 顎骨周囲組織の炎症および治療に必要な知識を修得する。 歯周組織の炎症、顎骨骨髄炎、薬剤関連顎骨壊死、歯性上顎洞炎に関する知識を修得する。	1.炎症の概念・種類を説明できる。 2.炎症の症状、診断法、治療法を説明できる。 3.歯性感染症の概念を説明できる。 4.歯性感染症の概念と感染経路を説明できる。 5.急性炎症と慢性炎症の差異を説明できる。 6.顎骨周囲・頸部の組織隙の位置を説明できる。 7.軟組織炎症の症状を説明できる。 8.蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明できる。 9.歯周組織の病態、症状、治療法を説明できる。 10.歯冠周囲炎(智歯周囲炎を含む)の発症原因、症状、診断、治療について説明できる。 11.歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 12.顎骨骨髄炎の分類について説明できる。 13.急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明できる。 14.薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、治療法について説明できる。 15.歯性上顎洞炎の成因、検査法、治療法を説明する。 **[D-3-1-3-1～6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p174-198を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/24 (金)	3	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の炎症3** **特異性炎** **歯性全身感染症** 顎・口腔顔面領域における特異性炎および歯性感染症が全身に及ぼす影響に関する知識を修得する。	1.特異性炎の概念を説明できる。 2.顎・口腔顔面領域にみられる特異性炎の種類を列挙できる。 3.主要な特異性炎の原因菌を列挙できる。 4.主要な特異性炎の症状、検査法、治療法を説明できる。 5.歯性病変と全身感染症との関連について説明できる。 6.菌血症と敗血症の病態を説明できる。 7.歯性病巣感染の病態を説明できる。 **[D-3-1-3-7]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p206-213を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	7/31（金）	1	太田藍理助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**神経疾患** **神経痛** 様々な神経痛ならび神経麻痺の病態と治療法について修得する。	1.顎顔面口腔領域の疼痛の種類を列挙できる。 2.三叉神経痛の概念、症状および治療法について説明できる。 3.舌咽神経痛の概念、症状および治療法について説明できる。 4.神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 **[D-3-1-9-1～5]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p412-441を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/31（金）	2	山田浩之教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**全身疾患と口腔** 口腔内に症状を呈する全身疾患（症候群を含む）についての知識を修得する。	1.全身疾患と口腔に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[E-2-3-1,3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	8/21（金）	1	秋本祐基助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**開口障害を生じる疾患** 炎症、顎関節疾患など開口障害を生じる疾患に関する知識を修得する。	歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 2.顎関節疾患について説明できる。 **[D-3-1-3-6 , D-3-1-7-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p174-198を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	8/21（金）	2	川井　忠准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**骨髄炎と薬剤関連顎骨壊死** 骨髄炎と薬剤関連顎骨壊死の知識を修得する。	1.顎骨骨髄炎の分類について説明する。 2.急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明できる。 3.薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、治療法について説明できる。 4.硬組織の損傷の症状、治療法を説明できる。 **[D-3-1-3-6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327,762-775を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/18（金）	1	山田浩之教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**炎症** **顎口腔の炎症** 顎骨骨髄炎、全身歯性感染症に関する知識を修得する。	1.顎口腔の炎症に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-3-1～7]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	9/18（金）	2	平野大輔講師（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**外傷** 顎顔面領域の外傷についての知識を修得する。	1.口腔顎顔面領域の外傷に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-2-1～5]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-3を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	9/18（金）	3	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**手術療法総まとめ** 口腔外科領域における手術療法に関する知識を修得する。	1.口腔外科手術療法について修得する。 2.一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-5-4-1,2,5,6]** 事前学習：口腔外科領域の手術療法に関する疑問点についてレポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/2（金）	1	川井　忠准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**粘膜疾患** 口腔領域に発生する粘膜疾患（感染症を含む）に関する知識を修得する。	1.口腔粘膜疾患に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-4-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/2（金）	2	川井　忠准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**唾液腺疾患** 唾液腺疾患に関する知識を修得する。	1.唾液腺疾患に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-8-1～7]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/2（金）	3	川又慎介助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎関節疾患** 顎関節疾患に関する知識を修得する。	1.顎関節疾患に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-7-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/3（土）	1	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**口唇裂・口蓋裂** 口唇裂・口蓋裂（機能検査を含む）に関する知識を修得する。	1.口唇裂・口蓋裂に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-1-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/3（土）	2	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**再建法** 軟組織・硬組織、遊離皮弁と有茎皮弁を使用した再建法についての知識を修得する。	1.口腔顎顔面領域の再建法に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	10/9（金）	1	矢菅絵里加助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**血液疾患** 血液疾患・抗血栓療法の知識を修得する。	1.血液疾患に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-10-1]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/9（金）	2	矢菅絵里加助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**神経疾患** 顎口腔領域における神経に関する知識を修得する。	1.神経疾患に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-9-2～4]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p149-173,731-740を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/9（金）	3	矢菅絵里加助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**慢性疼痛** 顎口腔領域の慢性疼痛に関しての症状、診断および治療法を修得する。	1.慢性疼痛に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-9-1]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p412-441を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/22（木）	1	川井　忠准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**骨髄炎と薬剤関連顎骨壊死** 骨髄炎と薬剤関連顎骨壊死の知識を修得する。	1.顎骨骨髄炎の分類について説明する。 2.急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明できる。 3.薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、治療法について説明できる。 4.硬組織の損傷の症状、治療法を説明できる。 5.骨髄炎・薬剤関連顎骨壊死に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-3-6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327,762-775を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/22（木）	2	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎口腔の機能** 口蓋裂、摂食嚥下、睡眠時無呼吸症候群についての知識を修得する。	1.口蓋裂患者に行う検査について説明できる。 2.摂食嚥下機能評価に行う検査について説明できる。 3.睡眠時無呼吸症候群に行う検査について説明できる。 4.顎口腔の機能に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-1-1,2 , D-3-1-11-2,6]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p509-532を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	10/22（木）	3	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**顎変形症** 顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を修得する。	1.顎変形症に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。。 **[D-3-1-1-3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p139-147を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/23（金）	1	太田藍理助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**歯原性腫瘍** 口腔顎顔面領域に発生する歯原性腫瘍の分類、発生病因、診断、治療法を修得する。	1.口腔顎顔面領域の歯原性腫瘍に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-6-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/23（金）	2	太田藍理助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**非歯原性腫瘍** 口腔顎顔面領域に発生する歯原性腫瘍の分類、発生病因、診断、治療法を修得する。	1.口腔顎顔面領域の非歯原性腫瘍に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1-6-1,2]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	10/23（金）	3	山田浩之教授（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**嚢胞・腫瘍の手術法** 嚢胞と腫瘍（良性・悪性）の手術法を修得する。	1.手術法に関する一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。。 **[D-3-1-5-2 , D-3-1-6-2,3]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p372-386を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/5（木）	1	矢菅絵里加助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**必修領域の強化1** 口腔外科学における知識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等からみた口腔外科領域の必修を強化することができる。 **[D-3-1～11]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p378-381,828-832を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	11/5（木）	2	川又慎介助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**必修領域の強化2** 口腔外科学における知識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等からみた口腔外科領域の必修を強化することができる。 **[D-3-1～11]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p378-381,828-832を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	11/5 (木)	3	川又慎介助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**必修領域の強化3** 口腔外科学における知識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等からみた口腔外科領域の必修を強化することができる。 **[D-3-1～11]** 事前学習：最新口腔外科学第5版p378-381,828-832を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

第１回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/29 (金)	4	野宮孝之助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**選抜講義** 5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験結果から弱点を見つけ、理解できなかった項目を理解する。	1. これまで出題された5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験を理解し、一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1～11]**
講義	6/5 (金)	4	野宮孝之助教 （口腔顎顔面再建講座　口腔外科学分野）	**選抜講義** 5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験結果から弱点を見つけ、理解できなかった項目を理解する。	1. これまで出題された5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験を理解し、一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1～11]**

選抜講義②（B－C講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/22（木）	4	高橋美香子助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**選抜講義** 到達度評価試験、総合試験、復習試験、模擬試験結果から弱点を見つけ、理解できなかった項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価試験、第1回総合試験、復習試験、模擬試験を理解し、一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1～11]**
講義	10/23（金）	4	平野大輔講師（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**選抜講義** 到達度評価試験、総合試験、復習試験、模擬試験結果から弱点を見つけ、理解できなかった項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価試験、第1回総合試験、復習試験、模擬試験を理解し、一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1～11]**
講義	11/5（木）	4	高橋美香子助教（口腔顎顔面再建講座 口腔外科学分野）	**選抜講義** 到達度評価試験、総合試験、復習試験、模擬試験結果から弱点を見つけ、理解できなかった項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価試験、第1回総合試験、復習試験、模擬試験を理解し、一般・臨床実地問題を確実に答えることができる。 **[D-3-1～11]**

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科麻酔学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/31（火）	2前半	佐藤健一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科麻酔学領域の国家試験の傾向と勉強法** 歯科麻酔学の重要項目を理解し、勉強法をみつけることができる。	国家試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：国家試験問題で疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：国家試験問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/20（水）	3	佐藤健一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身状態評価、周術期管理** **（術前・術中・術後管理）** 術前の全身状態評価法と術中の呼吸・循環管理と術後の合併症と疼痛管理法を理解する。	1. 術前診察の方法を説明できる 2. バイタルサインを説明できる。 3. リスク・重症度の分類ができる。 4. 術前経口摂取制限を説明できる。 5. 麻酔前投薬を説明できる。 6. 術中の管理と合併症を説明できる。 7. 術後の管理と合併症を説明できる。 **[必修8-エ、総論Ⅴ-1-1、総論Ⅵ-3、4、総論Ⅶ-4-イ、各論Ⅲ-セ]** 事前学習：全身状態評価法、周術期管理について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	5/27 （水）	3	筑田真未講師 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身疾患を有する患者の管理 1** 循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系、内分泌系、泌尿器系疾患などを持つ患者の管理法を理解する。	1.高血圧症、虚血性心疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、感染性心内膜炎、脳血管障害の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。 2.気管支喘息、アスピリン喘息、喘息発作・気管支けいれん、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。 **[必修-11-ス、総論Ⅴ-6-ア-a、b、各論-Ⅲ-4-ス-a、b]** 事前学習：全身疾患について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	6/3 （水）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身疾患を有する患者の管理 2** 循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系、内分泌系、泌尿器系疾患などを持つ患者の管理法を理解する。	1.代謝・内分泌系疾患患者の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。 2.腎疾患患者の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。 **[必修-ス、総論Ⅴ-6-ア-e、h、各論-Ⅲ-4-ス-h、j]** 事前学習：全身疾患について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/5 （金）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**局所麻酔** 局所麻酔法及び局所麻酔薬・血管収縮薬を理解する。	1.局所麻酔法の目的を説明できる。 2.局所麻酔薬の種類と特徴を説明できる。 3.血管収縮薬の種類、その特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。 **[必修11-カ-a、総論Ⅶ-4-ウ-a]** 事前学習：局所麻酔法・薬について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/10 （水）	3	筑田真未講師 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科治療時の偶発症** 局所麻酔薬投与時の偶発症とそのメカニズムを理解する。	1. 局所麻酔時の局所的偶発症を説明できる。 2. 局所麻酔薬及び歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。（血管迷走神経反射、過換気症候群、アナフィラキシーショック、局所麻酔薬中毒、血管収縮薬に対する反応、メトヘモグロビン血症） 3. ショックを説明できる。 **[各論Ⅲ-4-ソ、各論-Ⅴ-2-エ]** 事前学習：局所麻酔投与時の全身的偶発症について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/17 （水）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身管理に必要な生理学** 全身管理に必要な生理学を理解する。	1. 循環生理を説明できる。 2. 呼吸生理を説明できる。 3. 酸塩基平衡を説明できる。 4. 神経生理を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ウ、エ、ク]** 事前学習：全身管理に必要な生理学について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/19 （金）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科治療時に注意すべき疾患** 歯科治療時に注意すべき全身疾患の管理法について理解する。	1. 精神疾患と局所麻酔時の注意点を説明できる。 2. ステロイドカバーを説明できる。 3. 虚血性心疾患患者の全身管理を説明できる。 **[総論Ⅶ-4-イ-b-e、各論Ⅲ-ス-b、e, 各論Ⅴ-2-エ-c、g]** 事前学習：全身管理に必要な生理学について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/26 (金)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**患者管理法 1** 患者管理に必要な項目を理解できる。	1. 酸塩基平衡を説明できる。 2. 輸液管理を説明できる。 3. 輸血療法を説明できる。 4. 呼吸器管理（合併症）を説明できる。 **[必修2-コ、総論Ⅶ-4-イ-b-d]** 事前学習：全身疾患、偶発症、周術期に使用する薬剤について永末書店第6版 臨床歯科麻酔学、今年度A,B講義に使用したレジュメに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/3 (金)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**患者管理法 2** 患者管理に必要な項目を理解できる。	1. 循環器管理（合併症）を説明できる。 2. 代謝管理（合併症）を説明できる。 3. 悪性高熱症を説明できる。 4. 筋弛緩薬を説明できる。 **[総論Ⅶ-4-イ、各論Ⅲ-ス-i、セ-a-c]** 事前学習：全身疾患、偶発症、周術期に使用する薬剤について永末書店第6版 臨床歯科麻酔学、今年度A,B講義に使用したレジュメに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/7 (火)	2	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**ペインクリニック** 疼痛性及び麻痺性疾患を理解する。	1.顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2.三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3.顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4.星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 **[総論Ⅲ-1-サ、各論Ⅲ-3-イ]** 事前学習：顔面領域の疼痛性及び麻痺性疾患について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/9（水）	2	筑田真未講師 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**精神鎮静法** 精神鎮静法の特徴を理解する。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適応、禁忌、種類、実施法を説明できる。 2. 笑気吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法及びその使用薬剤を説明できる。 **［総論Ⅶ-4-ウ-c］** 事前学習：精神鎮静法の特徴について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	9/16（水）	1・2	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法** 全身麻酔法と全身麻酔薬を理解する。	1. 全身麻酔薬の理論、概念、機序を説明できる。 2. 全身麻酔に使用する装置、器具、回路を説明できる。 3. 全身麻酔における気道確保法を説明できる。 4. 全身麻酔薬の種類と特徴を説明できる。 5. 麻酔前投薬、筋弛緩薬の種類と薬理作用を説明できる。 6. 呼吸のモニタリングを説明できる。 7. 循環のモニタリングを説明できる。 **［総論Ⅶ-ウ-b］** 事前学習：全身麻酔法および麻酔薬について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/11（水）	1	筑田真未講師 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**救急蘇生法** 救急蘇生法(BLS)を理解する。	1. バイタルサインを説明できる。 2. 成人の1次救命処置を説明できる。 3. 自動体外式除細動器を説明できる。 4. 小児の1次救命処置を説明できる。 5. 異物による気道閉塞とその解除法を説明できる。 **［必須10、総論Ⅶ-3］** 事前学習：救急蘇生法について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/3（水）	4	佐藤健一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**弱点領域の強化** 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/9（水）	4	筑田真未講師（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**弱点領域の強化** 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。
講義	11/11（水）	4	筑田真未講師（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**弱点領域の強化** 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科放射線学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/1（水）	4前半	泉澤充特任教授 （歯科放射線学）	**放射線領域の勉強法** 歯科医師として必要な放射線領域の勉強法を見つけることができる。	1. 今春の国家試験で問われた放射線領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な知識を修得するために自分にあった勉強法での年間計画を立案できる。 **［出題された問題による］** 事前学習：今春の修復領域の国家試験問題を解いておくこと。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/4（木）	3	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断装置Ⅰ** 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 **［総論Ⅵ-2-オ～ケ］** 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

講義	6/11 (木)	3	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野)	**画像診断装置Ⅱ** 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 **［総論Ⅵ-2-オ～ケ］** 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分
講義	7/16 (木)	1 2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野)	**画像診断1** 歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞の画像診断を修得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 **［各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ］** 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

講義	7/21 (火)	1 2	田中良一教授 (放射線医学講座)	**放射線の基礎Ⅰ、Ⅱ** 1.放射線の性質 2.エックス線の発生原理とエックス線管の構造 3.エックス線の線質と物質との相互作用 4.放射線防護の基準と方法 5.被写体コントラストと写真コントラスト 6.フィルムと増感紙 7.写真現像処理	1. 原子の構造および電離、励起について説明できる。 2. 放射線の種類を類別できる。 3. エックス線の一般的性質を説明できる。 4. 以下の用語を定義、説明できる。 照射線量、吸収線量、等価線量、実効線量、放射線加重係数、組織加重係数 5. エックス線発生の原理、エックス線管の構造を説明できる。 6. 焦点と半影、ろ過について説明できる。 7. 制動放射線、特性エックス線の比較、エックス線スペクトルを図示し説明できる。 8. 光電効果、コンプトン効果、散乱について説明できる。 9. 被写体コントラスト、写真コントラストを定義し説明できる。 10. 被写体コントラスト、写真コントラストに影響する因子を説明できる。 11. 黒化度を定義し、特性曲線を作成する。 12. スクリーン、ノンスクリーンフィルムの違いを説明できる。 13. フィルムの感光原理を説明できる。 14. 現像処理（現像、定着）を説明できる。 **［必修9-カ-a,b、総論Ⅵ-2-ア-a,b、ウ-a,b、エ-a］** 15. 放射線防護の基準と方法を説明できる。 **［必修9-カ-a,b、総論Ⅵ-2-ア-a,b、ウ-a,b、エ-a］** 放射線の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p19～32、67～74を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分
講義	7/23 (木)	1 2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野)	**画像診断2** 顎関節疾患、系統疾患の画像診断を修得する。	以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 **［各論Ⅲ-3-ウ、4-ア、カ］** 顎関節疾患ならびに系統疾患の画像診断に必要な知識を得るために事前学習として教科書P369～383、406～420を読んでおくこと。疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分

講義	7/30（木）	1 2	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断3** 上顎洞疾患、口腔領域の悪性腫瘍の画像診断を修得する。 口腔領域の炎症と骨折、唾液腺疾患の画像診断を修得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 **［各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア］** 上記疾患の画像診断に必要な知識を得るため、事前学習として教科書p269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

Ｂ講義：臨実特化講義

講義	9/17（木）	1	高橋徳明講師 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断の弱点補強1** パノラマ正常解剖とCT、MRI正常解剖の知識を補強する。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 パノラマ正常解剖、CT、MRI正常解剖 **［総論Ⅵ-2-コ］** 画像の正常解剖の知識を得るため、事前学習として教科書p130、151～156、185～192を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分 パノラマやCT、MRIの正常像をwebclassに公開する。各自、回答を作成できる。
講義	9/28（月）	1	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**放射線治療** 口腔癌の放射線治療について種類、適応について習得する。	1. 口腔癌の放射線治療の方法と口腔の管理を修得できる。 2. 放射線治療に関連した総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の弱点項目を克服できる。 **［総論Ⅶ-7-ア、イ、ウ］** 口腔領域の放射線治療の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p453～475を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

講義	11/4（水）	3	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**CT、MRI、US検査** 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1.　総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 **［総論Ⅵ-2-オ～ケ］** 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

Ｃ講義：必修特化講義

講義	11/18（水）	1	田中良一教授 （放射線医学講座）	**放射線基礎** 放射線物理，撮影の基礎等について再確認し，知識を補強する。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 エックス線の性質、エックス線の発生原理、エックス線管の構造、線質と相互作用、コントラスト、フィルムと現像処理 **［必修9-カ-a,b、総論Ⅵ-2-ア-a,b、ウ-a,b、エ-a］** 放射線の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p19～32、67～74を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

第1回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**第1回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/11（木）	4	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断装置Ⅱ** 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 **［総論Ⅵ-2-オ～ケ］** 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分

選抜講義②（B－C講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/4（水）	4	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断1.2.3** A講義で学んだ顎疾患疾患の画像診断の基礎を再確認し、知識を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 **[各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ、各論Ⅲ-3-ウ、4-ア、カ、各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア]** 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318、P369～383、406～420、269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分
講義	12/2（水）	4	泉澤充特任教授 （口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野）	**画像診断1.2.3** A講義で学んだ顎疾患疾患の画像診断の基礎を再確認し、知識を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 **[各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ、各論Ⅲ-3-ウ、4-ア、カ、各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア]** 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318、P369～383、406～420、269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科矯正学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/2（木）	4	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学の重要領域の傾向と勉強法** 歯科矯正学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができる。	1. 歯科矯正学の重要領域について説明できる。 2. 歯科矯正学領域における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[各論Ⅰ-5,6,7,8,9,10]** 事前学習：本年度の国家試験と出題基準に目を通し出題傾向について予習を行うこと。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/28（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**成長発育・不正咬合の特徴** 成長発育全般に関する知識と不正咬合の特徴に関する知識を強化できる。	1.全身成長、頭蓋顔面、歯列の成長発育に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2.不正咬合に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[必修Ⅴ-ウ-a,b、総論Ⅳ-2-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	5/28（木）	2	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の病因病態Ⅰ** 不正咬合の先天的原因に関する知識を強化できる。	1.不正咬合の先天的な病因・病態に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-5,6]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	5/28（木）	3	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の病因病態Ⅱ** 不正咬合の後天的原因に関する知識を強化できる。	1.不正咬合の後天的な病因・病態に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-5,6]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/4（木）	1	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の診断Ⅰ** 不正咬合の診察・検査に関する知識を強化できる。	不正咬合の診断に必要な診察・検査に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-6]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	6/4（木）	2	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の診断Ⅱ** 不正咬合の診断・治療計画に関する知識を強化できる。	1. 不正咬合の診断・治療計画の立案に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-6]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/11（木）	1	菊池恵美子助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正力と固定Ⅰ** 矯正力と固定に関する知識を強化できる。	1. 矯正力と固定に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. アンカースクリューの目的が理解できるようになる。 **[各論Ⅰ-7]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/11（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正力と固定Ⅱ** 矯正力と固定に関する知識を強化できる。	1. 矯正力と固定に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. アンカースクリューの目的が理解できるようになる。 **[各論Ⅰ-7]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正力による生体反応/偶発症** 矯正歯科治療によって起こる生体反応について理解する。	1. 矯正力による歯、歯周組織の反応を説明できる。 2. 歯の移動に伴う骨改造について説明できる。 3. 適切な矯正力による生体反応の評価を説明できる。 4. 矯正歯科治療により起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。 5. 矯正歯科治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。 **[各論Ⅰ-8]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正歯科治療における抜歯Ⅰ** 抜歯に関する知識を強化できる。	1. 矯正歯科治療に必要な抜歯部位が確定できるようになる。 **[各論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅰ-10-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/25（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正歯科治療における抜歯Ⅱ** 抜歯に関する知識を強化できる。	1. 矯正歯科治療に必要な抜歯部位が確定できるようになる。 **[各論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅰ-10-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	6/25（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置Ⅰ－1** **機能的矯正装置** 機能的矯正装置に関する知識を強化できる。	1.機能的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-7-イ、各論Ⅰ-9-オ,カ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/2（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置Ⅰ-2** **機能的矯正装置** 機能的矯正装置に関する知識を強化できる。	1.機能的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-7-イ、各論Ⅰ-9-オ,カ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/2（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置Ⅱ-1** **器械的矯正装置** 器械的矯正装置に関する知識を強化できる。	1.器械的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ－7－ア、各論Ⅰ-9-ア,イ,エ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/9（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置Ⅱ-2** **器械的矯正装置** 器械的矯正装置に関する知識を強化できる。	1.器械的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ－7－ア、各論Ⅰ-9-ア,イ,エ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/9（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置Ⅲ** **ブラケット装置** ブラケット、保定装置等に関する知識を強化できる。	1.ブラケット装置や保定装置、その他の矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-9-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/17（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**マルチブラケット装置による矯正歯科治療** マルチブラケット装置に関する知識を強化できる。	1.マルチブラケット装置について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2.矯正歯科治療に必要な抜歯と固定の概念について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-10-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/17（木）	3	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**顎変形症の治療** 顎変形症に関する知識を強化できる。	1.顎変形症について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-10-オ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**口唇裂・口蓋裂患者の治療（発語・構音含む）Ⅰ** 口唇裂・口蓋裂に関する知識と発語・構音等に関する知識を強化できる。	1.口唇裂・口蓋裂に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2.発語・構音に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[必修-6-イ-h、各論Ⅰ-10-エ、各論Ⅰ-1-ア]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24（木）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**口唇裂・口蓋裂患者の治療（発語・構音含む）Ⅱ** 口唇裂・口蓋裂に関する知識と発語・構音等に関する知識を強化できる。	1.口唇裂・口蓋裂に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2.発語・構音に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[必修-6-イ-h、各論Ⅰ-10-エ、各論Ⅰ-1-ア]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24（木）	3	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**先天異常と不正咬合** 先天異常により生じる口腔内の病態について説明できるようになる。	1.先天異常により生じる不正咬合を説明できる。 2.先天異常により生じる口腔内所見の以上を説明できる。 **[必修-6-イ-h、各論Ⅰ-1、各論-Ⅰ-10-エ、各論Ⅲ-4-ア]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	10/1（木）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**睡眠時無呼吸症候群** 睡眠時無呼吸症候群に関する知識を強化できる。	1.睡眠時無呼吸症候群について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅳ-1-ク]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/1（木）	2	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正材料と器具Ⅰ** 矯正材料と器具に関する知識を強化できる。	1.矯正材料と器具について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[必修11-セ-i、総論Ⅷ-10]** 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5（月）	1	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正材料と器具Ⅱ** 矯正材料と器具に関する知識を強化できる。	1.矯正材料と器具について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[必修11-セ-i、総論Ⅷ-10]** 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5（月）	2	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置の製作方法Ⅰ** 矯正装置の製作方法に関する知識を強化できる。	1.矯正装置の製作方法について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[総論Ⅷ-10、各論Ⅰ-9]** 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5（月）	3	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置の製作方法Ⅱ** 矯正装置の製作方法に関する知識を強化できる。	1.矯正装置の製作方法について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[総論Ⅷ-10、各論Ⅰ-9]** 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/19（月）	1	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**器械的矯正装置の適用前後の変化** 器械的装置適用前後の変化に関する知識を強化できる。	1.装置装着前後の変化について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-9-ア,イ,エ、 各論Ⅰ-10-イ,ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/19（月）	2	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**機能的矯正装置の適用前後の変化** 機能的装置適用前後の変化に関する知識を強化できる。	1.装置装着前後の変化について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 **[各論Ⅰ-9-オ,カ、各論Ⅰ-10-イ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	10/26（月）	1	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**臨床実地Ⅰ** **弱点強化** マルチブラケット装置装置に関する臨床実地問題について知識を強化できる。	1.総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[各論Ⅰ-9-ウ、各論Ⅰ-10-ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/26（月）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**臨床実地Ⅱ** **弱点強化** 外科矯正歯科治療に関する臨床実地問題について知識を強化できる。	1.総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[各論1-10-オ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/19（木）	1	菊池恵美子助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**臨床実地Ⅲ** **弱点強化** 矯正歯科領域の必修に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1.総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[各論Ⅰ-9-イ,オ,カ、各論Ⅰ-10-イ,ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	11/19（木）	2	菊池恵美子助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**臨床実地Ⅳ** **弱点強化** 矯正歯科領域の必修に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1.総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 **[各論Ⅰ-9-ア,ウ、各論Ⅰ-10-イ,ウ]** 事前学習：到達目標について医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	桑島幸紀准教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**第2回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/28（木）	4	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**弱点強化Ⅰ** 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 **[各論Ⅰ-5,6,7,8]** 事前学習：出題された内容に関して医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18（木）	4	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**弱点強化Ⅱ** 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 **[各論Ⅰ-9,10]** 事前学習：出題された内容に関して医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/17（木）	4	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**弱点強化Ⅰ** 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 **[各論Ⅰ-5,6,7,8]** 事前学習：全国模試の解説書を持参すること。出題された内容に関して医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通すこと。
講義	9/24（木）	4	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**弱点強化Ⅱ** 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 **[各論Ⅰ-9,10]** 事前学習：全国模試の解説書を持参すること。出題された内容に関して医歯薬出版　歯科矯正学、講義ノートに目を通すこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：小児歯科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/3（金）	2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科学領域の歯科医師として必要な知識修得とその勉強法** 歯科医師として必要な小児歯科学領域の知識を修得する。	1. 今春の国家試験で問われた小児歯科領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：今春の小児歯科領域の国家試験問題を確認しておく。所要時間30分程度。 事後学修：講義中に理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/27（水）	1	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**全身の成長・発達** **顔面頭蓋の発達** 小児の全身の発達・顔面頭蓋の成長、発達について多角的に理解する。	1. 小児の身体の成長を説明できる。 2. 小児の精神の発達を説明できる。 4. 頭蓋の成長発育を説明できる。 5. 顔面の成長発育を説明できる。 6. 小児の口腔機能の発達について説明できる。 **[必修5-イ-a～c, 必修5-ウ-a～b, 総論Ⅱ-7-ア-a～c, 総論Ⅱ-7-イ-a～c, 各論Ⅰ-2-ア, イ, ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	5/27（水）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**歯の発育と異常** **小児期の歯の特徴（乳歯・幼若永久歯）** 歯の発生、発育、萌出とその障害の機構を多角的に理解する。 乳歯とその特徴について多角的に理解する。	1.乳歯並びに永久歯の発生、形成時期、萌出順序を説明できる。 2.歯の発生の各ステージにおける異常と症状の関連性を説明できる。 3.乳歯の形態的・組織学的特徴を説明することができる。 4.乳歯の物理的・化学的特徴を説明することができる。 **[必修5-ウ-a, 総論Ⅱ-5-ア-b～c, 総論Ⅱ-7-イ-a～d]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/3（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**歯列および咬合の発育と異常** 小児の歯列・咬合の成長、発達や異常について、多角的に理解する。	1.乳歯列の成育を説明できる。 2.混合歯列の成育を説明できる。 3.永久歯列の成育を説明できる。 1. 生理的歯間空隙とその意味を説明できる。 2. ターミナルプレーンを理解し、その臨床的意味を説明できる。 3. 乳歯列の咬合の特徴を列挙できる。 4. 第一大臼歯の萌出を説明できる。 5.リーウェイスペースを理解し、その臨床的意味を説明できる。 **[必修5-ウ-a, 必修8-カ-a～c, 総論Ⅱ-8-エ-b, 総論Ⅳ-2-ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/3 （水）	2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児・障害児への歯科的対応法** 小児患者や障害児の特徴や歯科治療の際の正しい対応法を理解する。	1. 小児の恐れや不安の対象を列挙できる。 2. 小児の情動に配慮した対応法を説明できる。 3. 発達障害の特性について説明できる。 4. 障害児の特徴に配慮した対応法を説明できる。 5. 行動変容法を説明できる。 **[必修11-イ-a～c, 総論Ⅴ-2, 総論Ⅴ-6-イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a,]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/10 （水）	1	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の齲蝕** 小児期の齲蝕や歯髄疾患の特徴を多角的に理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴を列挙できる。 2. 乳歯齲蝕の疫学を説明できる。 3. 乳歯重症齲蝕の為害作用を説明できる。 4. 乳歯齲蝕の発生過程を多面的に説明できる。 5. 歯髄炎の診断法を説明できる。 6. 生活歯髄切断法を説明できる。 7. 暫間的間接覆髄法を説明できる。 8. 根未完成歯の歯内療法を説明できる。 **[必修6-イ-a～b, 必修7-イ-c, 必修9-オ-a, 総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a～b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-イ, 各論Ⅱ-1-エ, 各論Ⅱ-2-ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/10（水）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の歯周組織の特徴と歯周疾患** 小児の歯周組織の特徴と歯周疾患について多角的に理解する。	1. 小児の健全な歯周組織の特徴を列挙できる。 2. 歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。 3. 小児と成人の歯周疾患の違いを説明できる。 **[必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 総論Ⅱ-5-イ-b, 総論Ⅲ-2-ア-b, 総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-イ-a, 各論Ⅱ-3-エ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/17（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の外傷** 小児の歯の外傷を多角的に理解する。	1. 小児の歯の外傷の疫学的特徴を説明できる。 2. 小児の歯の外傷の診査と診断について説明できる。 3. 小児の歯の外傷に対する的確な対応法を説明できる。 **[必修2-カ-c, 必修6-イ-i, 各論Ⅰ-4, 各論Ⅲ-ウ-a]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/17（水）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の口腔粘膜疾患・外科処置** 小児の口腔粘膜疾患や外科処置（主に抜歯等）について多角的に理解する。	1.小児の口唇の疾患を列挙できる。 2.小児の舌の疾患を列挙できる。 3.小児の歯肉の疾患を列挙できる。 1.乳歯抜去時の診査事項を説明できる。 2.乳歯抜歯の適応症、禁忌症を説明できる。 3.乳歯抜歯の術式を説明できる。 **[必修6-イ-m,必修11-ス-c,総論Ⅲ-2-d,総論Ⅳ-2-エ,総論Ⅵ-1-ア-d,総論Ⅶ-1-エ-a,各論Ⅰ-3-ア～ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	7/8（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**咬合誘導** 静的咬合誘導を多角的に理解する。	1.歯の早期喪失の影響を説明できる。 2.保隙のための分析法について説明できる。 3.保隙装置の種類と適応症を説明できる。 1.口腔習癖の種類と特徴を説明できる。 2.口腔習癖への対応法について説明できる。 1.各デンタルステージにおける咬合誘導の目標を説明できる。 2.乳歯列・混合歯列期における咬合誘導の治療法を説明できる。 **[総論Ⅱ-8-エ-b,総論Ⅳ-2-ウ,総論Ⅵ-1-イ-e,各論Ⅰ-10-1-ア～イ,]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	7/8 （水）	2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**全身疾患を有する小児の治療** 全身疾患を持つ小児の歯科治療について理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べることができる。 2. 小児科との係わり方を述べることができる。 **[必修6-イ-p, 総論Ⅲ-2-ア-g, 各論Ⅰ-1-ア～エ, 各論Ⅲ-4-ア-m～n, 各論Ⅲ-4-イ～キ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

Ｂ講義：臨実特化講義

区分	月日 （曜）	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/9 （水）	1	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策①** **小児の診査・診断と歯周疾患** 小児患者の診査・診断について理解する。	1. 小児歯科における診査・診断について説明できる。 2. 小児期に見られる主要な疾患の診査方法や診断について説明できる。 **[必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 総論Ⅱ-5-イ-b, 総論Ⅲ-2-ア-b, 総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-イ-a, 各論Ⅱ-3-エ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書、問題集を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	9/16（水）	3	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策②** **小児の歯冠修復** 小児期の齲蝕治療（歯冠修復）について理解する。	1.乳歯齲蝕の特徴を説明できる。 2.乳歯齲蝕の疫学を説明できる。 3.乳歯齲蝕の診断・治療方針を立案できる。 4.乳歯の歯冠修復について説明できる。 5. 乳歯の歯冠修復に用いる器具について使用目的・使用方法について説明できる。 **[総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a～b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-イ, 各論Ⅱ-1-エ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書、問題集を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	9/30（水）	3	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策③** **小児の歯内療法（乳歯）** 小児期の齲蝕治療について理解する。	1. 乳歯の抜髄と歯髄切断法を対比し、説明することができる。 2. 乳歯の感染根管治療と抜歯を対比し、説明することができる。 3. 歯髄疾患に対する処置についてそれぞれ、説明することができる。 **[総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a～b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ, 各論Ⅱ-2-ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	10/14（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策④** **小児の歯内療法（幼若永久歯）** 小児の齲蝕が歯髄処置に移行する過程を臨床的に理解する。	1. 幼若永久歯の歯髄炎の鑑別診断を症例に応じて説明できる。 2. 幼若永久歯の歯周炎の鑑別診断を症例に応じて説明できる。 3. 幼若永久歯の歯髄処置法について、臨床に則して説明できる。 **[総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a～b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ, 各論Ⅱ-2-ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	10/21（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策⑤** **小児の歯の外傷** 小児の歯の外傷を臨床に則して理解する。	1.様々な小児の外傷の症例について、診査項目を列挙し、正しく診断できる。 2.様々な小児の外傷の症例について、適切な対応法を説明することができる。 **[各論Ⅰ-4, 各論Ⅲ-ウ-a]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	10/28（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策⑥** **小児の外科処置・粘膜疾患** 小児の外科処置・粘膜疾患について多角的に理解する。	1.乳歯抜去時の診査事項を説明できる。 2.乳歯抜歯の適応症、禁忌症を説明できる。 3.乳歯抜歯の術式を説明できる。 4.小児期にみられる粘膜疾患の特徴とその治療方法について説明できる。 **[総論Ⅲ-2-d,総論Ⅳ-2-エ,総論Ⅵ-1-ア-d,総論Ⅶ-1-エ-a,各論Ⅰ-3-ア～ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	11/4（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策⑦** **咬合誘導** 小児の歯の早期喪失に対する臨床的な対応法を具体的に理解する。	1. 保隙を行う際の診断基準を症例に応じて説明できる。 2. 診断に基づいた適切な保隙装置の選択法を症例に応じて説明できる。 **[総論Ⅱ-8-エ-b,総論Ⅳ-2-ウ,総論Ⅵ-1-イ-e,各論Ⅰ-10-1-ア～イ,]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/4（水）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**臨床実地対策⑧** **特別な配慮が必要な小児の歯科治療** 小児の歯の早期喪失に対する臨床的な対応法を具体的に理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べることができる。 2. 全身疾患のある小児の歯科治療時の注意事項について説明できる。 3. 特別な配慮が必要な小児や障害児の歯科治療について説明できる。 **[総論Ⅲ-2-ア-g, 各論Ⅰ-1-ア～エ, 各論Ⅲ-4-ア-m～n, 各論Ⅲ-4-イ～キ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/25（水）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科領域の必修項目** 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった必修項目について改めて、理解し説明できる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：過去5年分の小児歯科領域の国家試験問題について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/25（水）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科領域のまとめ** 小児歯科学に関する知識全般の確認を行い、再度理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：過去5年分の小児歯科領域の国家試験問題について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/10（水）	4	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科領域の頻出項目の強化①** 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目ついて教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/16（水）	4	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科領域の頻出項目の強化②** 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目ついて教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	9/30（水）	4	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科領域の頻出項目の強化③** 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 **[必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目ついて教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：障害者歯科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	3/31（火）	2 後半	熊谷美保准教授 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**障害者歯科領域の試験の傾向と勉強法** 障害者歯科領域の試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の障害者歯科領域の国家試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/20（水）	1	熊谷美保准教授 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**障害者歯科での主な障害、行動調整** 障害者歯科での主な障害と行動調整を理解する。	1. 障害者歯科で取り扱う主な障害、行動調整について説明できる。 **[必修11イa・b・c、総論Ⅰ2カｃ、総論Ⅴ2オa・b・c、総論Ⅴ3ア・イ・ウ・エ・オ・カ、総論Ⅴ6アg、総論Ⅶ1オ、各論Ⅰ1エa・b、、各論Ⅴ2オ、各論Ⅴ8アa・ｂ、イa・b・ｃ、ウ、エ]** 事前学修：教科書p40～65とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/20（水）	2	熊谷美保准教授 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**症候群** 障害者歯科で取り扱う症候群について理解する。	1. 障害者歯科で取り扱う症候群について説明できる。 **[各論Ⅰ1イa・b・ｃ・ｄ・e、各論Ⅰ1ウa・b・ｃ・ｄ・e、各論Ⅲ4アa・b・ｃ・e・ｊ・ｍ・ｎ・o]** 事前学修：教科書pp168～200を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/24（水）	3	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**神経・運動障害** 神経・運動障害ごとの特徴、歯科治療と予防法について理解する。	1. 筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、てんかんについて説明できる。 **［総論Ⅴ6アｇ・ｋ、総論Ⅶ1エｈ］** 事前学修：教科書p58～105を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/25（水）	3	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**障害者歯科の必修領域** 障害者歯科の必修領域（総論、知的能力障害、自閉スペクトラム症、運動障害、てんかん）について理解する。	1. 試験解説を通して障害者歯科領域（総論、知的能力障害、自閉スペクトラム症、運動障害、てんかん）の必修問題を解くことができるようになる。 **［必修11イａ・ｂ・ｃ］** 事前学修：過去5年分の障害者歯科領域の必修問題の疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義②（Ｂ−Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/25（水）	4	熊谷美保准教授 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**弱点領域の強化** 到達度試験、第1回総合試験、復習試験での弱点領域を整理し、関連領域の知識も総合的に理解する。	1. 障害者歯科領域の到達度試験、第1回総合試験、復習試験問題を確実に答えることができる。 **［必修11イa・b・c、総論Ⅰ2カｃ、総論Ⅴ2オa・b・c、総論Ⅴ3ア・イ・ウ・エ・オ・カ、総論Ⅴ6アg、総論Ⅶ1オ、各論Ⅰ1エa・b、各論Ⅴ2オ、各論Ⅴ8アa・ｂ、イa・b・ｃ、ウ、エ］** 事前学修：障害者歯科の到達度試験、第1回総合試験、復習試験問題を見直して疑問点を抽出しておく。所要時間30分程度。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：関連医学・内科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/3（金）	4 後半	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**内科領域の歯科医師として必要な知識修得とその勉強法** 歯科医師として必要な内科領域の知識を修得することができる。	1. 今春の国家試験で問われた内科領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な知識を修得するために自分にあった勉強法での年間計画を立案できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-a,b,c,d,e,f,g,h,I,j,k][必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-c][各論Ⅲ4-ス-a,b,c,d,e,f,g,h,I,j,k][各論Ⅴ2-エ-a,b,c,d,e,f,g,h,I,j,k,l,m]** 事前学修：内科学に関する国家試験問題を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	7/15（水）	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患）** 代表的な消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患）について理解する。	1. 代表的な消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患）について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-c][各論Ⅲ4-ス-c][各論Ⅴ2-エ-d]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/29（水）	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**循環器疾患、脳血管疾患、認知症** 代表的な循環器疾患、脳血管疾患、認知症について理解する。	1. 代表的な循環器疾患、脳血管疾患、認知症について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-b][各論Ⅴ2-エ-c][各論Ⅲ4-ス-b][各論Ⅴ2-エ-h]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	8/4 (火)	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病** 代表的な呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病について理解する。	1. 代表的な呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-a][総論Ⅴ6-ア-k][各論Ⅲ4-ス-a, j][各論Ⅴ2-エ-b][各論Ⅴ2-エ-j]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。
講義	8/5 (水)	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患** 代表的な糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患について理解する。	1. 代表的な糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患について理解し説明できる。 **[必修7-ウ-h][必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-e][総論Ⅴ6-ア-h][各論Ⅴ2-エ-f][各論Ⅴ2-エ-i]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	8/19 (水)	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科、他** 代表的な血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科について理解する。	1. 代表的な、血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科などについて理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-d][各論Ⅲ4-ス-d][各論Ⅴ2-エ-e]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/18 (水)	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**個体の死、血液検査の読み方、その他重要事項** 個体の死、血液検査の読み方について理解を深める。	1. 個体の死、血液検査の読み方などについて理解を深め説明できる。 **[必修9-エ-b, c, d][総論Ⅰ3-ア-b]** 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅱ）講義日程表：衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学

国家試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/2（木）	2	佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**予防歯科領域の勉強法** 予防歯科領域学習目標とそれに対する、勉強法を見つけることができる。	1. 予防歯科領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 **[出題された問題による]** 事前学習：歯科医師国家試験問題を解答して講義に臨むこと。

Ａ講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	3	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**必修の基本的事項Ⅰ** **医の倫理** **歯科医療の社会的背景** 保健医療と医学研究の倫理的変遷を学ぶことで医療倫理の包括的意義を理解する。 歯科医療の社会的背景を学ぶことで現代の歯科医師への社会的要請を理解する。	1.医師の職業倫理を概説できる。 2.医学研究の倫理を概説できる。 3.患者の権利を列挙できる。 4.ヒトを対象とした医学研究の倫理について概説できる。 5.疾病構造の変化と医療の社会的ニーズの関連を概説できる。 6.疾病予防の原則を概説できる。 **[必修1-ア・イ、必修2-ア-a、必修2-エ]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p3-15を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/27（月）	3	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**必修の基本的事項Ⅱ** **医療の質と安全性の確保** 医療現場におけるリスクを学ぶことで医療行為のリスクマネジメントを理解する。	1.ICFとICIDHの違いを説明できる。 2.医療・保健・福祉関連職を概説できる。 3.クリニカルパスの目的を概説できる。 4.医療事故防止の原則を概説できる。 **[必修2-ア-b～d、必修2-イ-e、必修2-ウ-a、b、必修2-オ、カ]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p223-225、スタンダード社会と歯学p131-145を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	4/28（火）	1	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**必修の基本的事項Ⅲ** **診療記録、健康日本21** 診療記録の重要性を学ぶことで、医療関連個人情報の管理について理解する。 健康日本21について理解する。	1.医療廃棄物の取り扱いを概説できる。 2.医事紛争の流れを概説できる。 3.主な診療記録の必須記載事項を列挙できる。 4.診療情報の取り扱いについて概説できる。 5.健康日本21の基本的方向を概説できる。 **[必修2-キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-d]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p211-216、スタンダード社会と歯学p146-156を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/28（火）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**保健・医療関係法規Ⅰ** 歯科医療関連法規を学ぶことで歯科医療供給体制の概要を理解できる。	1.医療法が規定する事項を列挙できる。 2.医療計画を概説できる。 3.歯科医師法に定められた歯科医師の義務と業務を列挙できる。 **[必修2-イ-a,b、総論Ⅰ-1-エ-a、総論Ⅰ-1-オ-b,h,i,j]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p51-89を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/28（火）	3	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**保健・医療関係法規Ⅱ** 保健、衛生関係法規を学ぶことで地域保健の仕組みを理解する。	1.健康増進法が規定する事項を列挙できる。 2.地域保健法が規定する事項を列挙できる。 3.歯科口腔保健の推進に関する法律を概説できる。 4.感染症法、予防接種法、検疫法を概説できる。 **[必修2-イ-a,b,e、必修3-ア-f、必修3-イ-a、総論Ⅰ-1-エ-b,d、総論Ⅰ-1-オ-a,b,f]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p157-168、口腔保健・予防歯科学p204-222を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/11（月）	3	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**社会保障制度、国民医療費** 社会保障制度の仕組みを学ぶことで制度における歯科医師の役割を理解する。 国民医療費について学ぶことで超高齢社会の問題点を把握する。	1.社会保障制度の種類を列挙できる。 2.医療保障制度を概説できる。 3.所得保障制度を概説できる。 4.国民医療費の内訳を列挙できる。 5.制度別、財源別、診療行為別、年齢別国民医療費について説明できる。 **[必修2-イ-g、総論Ⅰ-1-ウ、総論Ⅰ-4-ア]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p169-184，p195-201を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	5/25（月）	1	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**疫学総論** 医学全般に共通の疫学を学ぶことで疫学の基本概念が理解できる。	1.疫学の研究方法を列挙できる。 2.疫学指標を算出できる。 3.因果関係の判定基準を列挙できる。 4.標本抽出法を列挙できる。 **[必修9-ク-b,d、総論Ⅰ-6-ア-a,e,f、総論Ⅰ-6-イ-a]** 新編衛生学・公衆衛生学p18-32を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	5/25（月）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**歯科疾患の疫学指標** 口腔疾患に固有の疫学指標を学ぶことで歯科疾患・リスクの分布頻度の把握方法を理解できる。	1.歯科集団検診の方法を概説できる。 2.齲蝕の疫学指標を算出できる。 3.歯周疾患の疫学指標を列挙できる。 4.口腔清掃度の疫学指標を列挙できる。 **[総論Ⅰ-6-イ-b]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p148-153、p106-135を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/26（火）	1	衣斐美歩講師 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**スクリーニング** スクリーニングについて学ぶことで集団の健康管理法について理解できる。	1.スクリーニングの意義を概説できる。 2.スクリーニングの有効性の指標を算出できる。 3.尤度比の意義を説明できる。 4.臨床検査の基準範囲の意味を統計学的に説明できる。 **[必修9-ア-c、総論Ⅰ-6-ア-b]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p35-38を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	5/26（火）	2	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**人口統計、保健統計調査Ⅰ** 健康指標として最も代表的な人口指標を学ぶことで、超高齢社会の問題点を把握できる。	1.人口静態と人口動態の指標を列挙し、主な指標を説明できる。 2.基幹統計と一般統計を列挙できる。 **[総論Ⅰ-6-ウ]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p47-58を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/2（火）	1	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**保健統計調査Ⅱ** 国の行う保健医療統計調査を学ぶことで、現代日本の構造と問題点を理解するようになる。	1.国が行う主な保健統計調査とその目的を列挙できる。 2.歯科疾患実態調査結果を概説できる。 **[総論Ⅰ-6-ウ]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p58-62を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/2（火）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**地域保健** 地域保健活動の総論を学ぶことで各論的保健活動を理解できるようになる。	1.プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。 2.地域保健活動のすすめ方を説明できる。 3.保健所と市町村保健センターの役割を説明できる。 **[必修3-ア-a,b,c、必修3-イ-a,h、総論Ⅰ-1-オ-a,c,d,e,f]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p132-140、口腔保健・予防歯科学p204-222を読み疑問点を整理しておくこと。

講義	6/8 (月)	1	杉山由紀子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**母子保健** 母子保健・母子歯科保健について学ぶことで地域母子保健における歯科医師の役割が理解できる。	1.母子保健事業を概説できる。 2.母子歯科保健事業を列挙できる。 3.乳幼児歯科健康診査を説明できる。 **[必修3-イ-b、総論Ⅰ-2-ア]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p149-161、口腔保健・予防歯科学p225-244を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/8 (月)	2	佐藤華子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**学校保健** 学校保健・学校歯科保健について学ぶことで学校保健における歯科医師の役割が理解できる。	1.学校保健の領域を説明できる。 2.学校保健統計調査結果を概説できる。 3.学校歯科健康診断の方法を説明できる。 **[必修3-イ-c、総論Ⅰ-2-イ]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p162-178、口腔保健・予防歯科学p245-264を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/22 (月)	1	杉山由紀子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**産業保健・成人保健** 歯科保健を含めた産業衛生・保健、成人保健を学ぶことで成人の口腔保健管理を理解する。	1.職業性疾患を列挙できる。 2.職業性疾患の予防手段を列挙できる。 3.THPを概説できる。 4.成人保健の概要を説明できる。 5.特定健康診査、特定保健指導を説明できる。 **[必修3-ア-e、必修3-イ-d,e、総論Ⅰ-2-ウ、エ]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p179-210、口腔保健・予防歯科学p265-286を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/22 (月)	2	佐藤華子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**国際保健、環境保健** 国際保健を学ぶことでグローバルな医療人として社会貢献をする態度が身につく。 環境の健康影響を学ぶことで地域の衛生環境や歯科診療所の環境改善を重視するようになる。	1.国際協力組織を列挙できる。 2.WHOの口腔保健戦略を列挙できる。 3.大気、水、温熱環境の健康影響を説明できる。 4.環境基準項目を列挙できる。 **[総論Ⅰ-5-ア、総論Ⅰ-9-ア]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p97-123、p240-245を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	6/30 (火)	1	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**齲蝕の予防** 齲蝕の原因と予防法を学ぶことで個別または集団への齲蝕予防のための介入ができるようになる。	1.齲蝕の発生要因を列挙できる。 2.齲蝕の要因別リスク評価法を列挙できる。 3.齲蝕の予防手段を概説できる(含む予防の3相5段)。 4.代用甘味料の種類を列挙できる。 5.代表的な代用甘味料の構造を説明できる。 **[総論Ⅰ-6-エ-a、各論Ⅱ-1-ア-a,b、各論Ⅱ-1-イ-a]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p35-47、p148-153を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	6/30（火）	2	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**フッ化物による齲蝕予防** フッ化物による齲蝕予防法の効果とリスクを学ぶことで地域歯科保健活動においてフッ化物を応用できる。	1.フッ化物の齲蝕予防法を列挙できる。 2.フッ化物の齲蝕予防機序を説明できる。 3.フッ化物の中毒を説明できる(含むフッ化物濃度の計算)。 **[必修3-ウ-a、各論Ⅱ-1-イ-c]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p48-56、p155-159を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	7/28（火）	1	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**口臭の予防** 口臭の原因と対応について学ぶことで適切な口臭診療について理解できる。	1.口臭原因を列挙できる。 2.口臭測定法を列挙できる。 3.口臭への対応法を列挙できる。 **[必修9-オ-h、総論Ⅵ-1-ア-f、各論Ⅲ-3-イ-l、各論Ⅲ-5-イ-e]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p69-74、p167-171を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	7/28（火）	2	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**周術期口腔ケア概論** 周術期の口腔ケアの意義を理解する。	1.周術期の口腔ケアの意義を概説できる。 2.周術期の口腔症状を列挙できる。 3.口腔カンジダ症について説明できる。 **[必修7-ウ-d,l、総論Ⅶ-4-イ-a、各論Ⅲ-1-ク-j、各論Ⅴ-6-キ]** 事前学習：口腔保健・予防歯科学p79-81、p197-203を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	8/18（火）	1	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**高齢者保健・介護保険** 高齢者の保健・歯科保健と介護保険制度を学ぶことで超高齢社会の保健医療について理解する。 超高齢社会の問題としてのフレイルを理解する。	1.地域支援事業を概説できる。 2.介護保険制度を概説できる。 3.フレイルを概説できる。 4.フレイルとサルコペニアの診断基準を列挙できる。 **[必修2-イ-c,f、必修3-イ-e、総論Ⅰ-1-エ-g,i、総論Ⅰ-1-カ、総論Ⅰ-2-オ]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p185-195、新編衛生学・公衆衛生学p211-222、口腔保健・予防歯科学p287-291を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	8/18（火）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**国民栄養と食品保健、薬事関連法規** 栄養と健康について学ぶことで口腔保健における栄養指導の重要性が理解できる。 薬事関連法規を体系的に理解する。	1.国民栄養の問題点を列挙できる。 2.栄養関連法規を概説できる。 3.食事摂取基準、食事バランスガイドを説明できる。 4.医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律が定める項目を列挙できる。 5.歯科領域の医薬品、医薬部外品、医療機器を列挙できる。 6.治験とGCPについて概説できる。 **[必修2-ケ、コ、総論Ⅰ-1-エ-b,e、総論Ⅰ-8-ア・イ]** 事前学習：スタンダード社会と歯学p95-111, p80-96を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	8/18（火）	3	衣斐美歩講師 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**感染症の予防** 感染症の要因と予防法を学ぶことで歯科医療における感染対策を理解する。	1.感染症の成立要因と要因別予防手段を列挙できる。 2.感染症法1-3類の感染症を列挙できる。 3.定期予防接種を列挙できる。 **[必修2-キ、総論Ⅰ-7-ア]** 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学p63-79を読み疑問点を整理しておくこと。

Ｃ講義：必修特化講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/9（月）	1	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**社会歯科まとめ1** 社会歯科学関連の知識を強化する。	1.社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修1-ア・イ、必修2-ア-a～d、必修2-イ-a,b,c,e,f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a～f、必修3-イ-a～f,h、総論Ⅰ-1-エ-a,b,d,g,i、総論Ⅰ-1-オ-a～f,h,i,j、総論Ⅰ-1-カ、総論Ⅰ-2-ア～オ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/9（月）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**社会歯科まとめ2** 社会歯科学関連の知識を強化する。	1.社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修1-ア・イ、必修2-ア-a～d、必修2-イ-a,b,c,e,f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a～f、必修3-イ-a～f,h、総論Ⅰ-1-エ-a,b,d,g,i、総論Ⅰ-1-オ-a～f,h,i,j、総論Ⅰ-1-カ、総論Ⅰ-2-ア～オ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/9（月）	3	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**社会歯科まとめ3** 社会歯科学関連の知識を強化する。	1.社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修1-ア・イ、必修2-ア-a～d、必修2-イ-a,b,c,e,f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a～f、必修3-イ-a～f,h、総論Ⅰ-1-エ-a,b,d,g,i、総論Ⅰ-1-オ-a～f,h,i,j、総論Ⅰ-1-カ、総論Ⅰ-2-ア～オ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。

講義	11/16（月）	1	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**疫学・公衆衛生まとめ1** 疫学・公衆衛生学関連の知識を強化する。	1.疫学・公衆衛生学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修9-ア-c、必修9-ク-a～d、総論Ⅰ-6-ア、イ、ウ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/16（月）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**疫学・公衆衛生まとめ2** 疫学・公衆衛生学関連の知識を強化する。	1.疫学・公衆衛生学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修9-ア-c、必修9-ク-a～d、総論Ⅰ-6-ア、イ、ウ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。

第１回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**第１回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

第２回総合試験解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**第２回総合試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第６学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（Ａ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/2（火）	4	大石泰子助教（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**EBM(根拠に基づいた医療)、基礎統計** EBMの概念と基礎的な医療統計を学ぶことで、歯科疾患の治療・予防に適用する。	1.EBMの5つのステップを列挙できる。 2.二次研究（システマティックレビュー、メタアナリシス）の意義を説明できる。 3.診療ガイドラインの意義を概説できる。 4.基礎統計量を列挙できる。 5.提示されたデータから適切な統計解析法を選択できる。 **[必修9-ク-a,b,c,d、総論Ⅰ-6-ア-c,d、総論Ⅴ-1-オ]** 事前学修：新編衛生学・公衆衛生学p32-35、p40-46をを読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/8（月）	4	衣斐美歩講師（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**口腔清掃法** 口腔清掃法とそれに関する器具、歯磨剤等を学ぶことで効果的な歯科保健指導ができるようになる。	1.口腔清掃法を列挙できる。 2.歯磨剤の基本成分と薬用成分を列挙できる。 **[必修3-ウ-b,c、必修3-エ、各論Ⅱ-1-イ-e]** 事前学修：口腔保健・予防歯科学p72-183を読んで疑問点を整理しておくこと。

選抜講義②（Ｂ-Ｃ講義期間中）

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/9（月）	4	衣斐美歩講師（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**計算問題演習1** 種々の計算問題に対応する。	1. 様々な疫学指標を算出できる。 2. リスク指標を算出できる。 **[総論Ⅰ-6-ア-a,b,e,f、総論Ⅰ-6-イ-a,b、総論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅱ-1-イ-c]** 事前学習：国家試験等の当該計算問題を演習しておくこと。
講義	11/16（月）	4	大石泰子助教（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**計算問題演習2** 種々の計算問題に対応する。	1. フッ化物の急性中毒量を算出できる。 2. 人口統計指標を算出できる。 3. スクリーニングの指標を算出できる。 **[総論Ⅰ-6-ア-a,b,e,f、総論Ⅰ-6-イ-a,b、総論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅱ-1-イ-c]** 事前学習：国家試験等の当該計算問題を演習しておくこと。

講義	11/30（月）	4	大石泰子助教（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**臨床予防歯科学まとめ1** 臨床予防歯科学関連の知識を強化する。	1. 臨床予防歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **[必修3-ウ-a,b,c、必修3-エ、必修7-ウ-d,l、必修9-オ-h、総論Ⅰ-6-エ-a、総論Ⅵ-1-ア-f、各論Ⅱ-1-ア-a,b、各論Ⅱ-1-イ-a,c,e、各論Ⅲ-1-ク-j、各論Ⅲ-3-イ-l、各論Ⅲ-5-イ-e、各論Ⅴ-6-キ]** 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	特定の教科書は指定しない。本講義は「知識の統合」を目的とするため、1年次から5年次までに各科で使用した全ての教科書、講義プリント、および自作の講義ノートを最大の教材として活用すること。			
参	歯科医師国家試験出題基準（令和5年版）： 自身の知識の到達度を確認し、学修の指針とするための資料として活用すること 。			

成績評価方法・基準・配点割合等

本講義の成績評価は、歯科医師国家試験の合格水準に基づいた「一次判定」および「卒業判定保留解除試験」によって厳正に決定する。

1. 一次判定の配点割合および構成

年間を通じて実施される各試験の得点を以下の割合で合算し、総合的に評価する。

実力確認試験・到達度評価試験: 5%、第1回総合試験: 40%、第2回総合試験: 55%

2. 一次判定における合格基準

以下のすべての基準（領域別および総点）を完全に満たした者を合格とする。

必修問題: 75%以上、総論・各論一般問題: 65%以上、各論臨床実地問題: 65%以上
総点: 70%以上

・卒業判定保留解除試験について

一次判定において合格基準に達しなかった者を対象に、以下の条件に基づき「卒業判定保留解除試験」を実施する。

1. 受験資格　本試験を受験するためには、以下の条件をすべて満たしていなければならない。

・原則として、第1回総合試験および第2回総合試験の両方を受験していること。一次判定の合格基準点（必修75%、一般65%、臨実65%、総合70%）のうち、少なくとも1つ以上の項目で合格基準に到達していること（全項目が基準未達の場合は受験資格を与えない）。

・総合得点が 63%以上 であること（63%未満の者は、本試験を受験することができない）。

2. 合格基準　一次判定と同様に以下の数値をすべて満たすこととする。

必修問題: 75%以上、総論・各論一般問題: 65%以上、各論臨床実地問題: 65%以上
総点: 70%以上

到達目標	DP	実力確認試験、到達度評価試験	定期試験	合計
1,3	1,3	1	10	11
2	1,2,3,4	1	10	11
4,5,6	4	1	30	31
7,10,11,12	4,6	1	25	26
8,9,13,14	2,3,4,6	1	20	21
合計		**5**	**95**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

・本講義は、第5学年までに修得した全科目の知識を横断的に統合し、実効性のある臨床判断能力へと展開させることを目的とする。
・そのため、既習内容については既に十分な修得がなされているものと見なして講義を進行する。
・国家試験出題基準に基づいた思考力および臨床推論能力を向上させるため、双方向のディスカッション方式を積極的に取り入れることがある。
・事前学修に基づいたレポート作成を求め、それらをもとにプレゼンテーションや質疑応答を実施し、言語化能力を評価する場合がある。
・講義の途中または終了時に、クリッカーやWebClass、DESS演習等を活用し、知識の定着度および理解度を逐次確認することがある。
・DESS演習を通じて、断片的な知識を国家試験の出題形式（必修・総論・各論）に即して定着させる。

知識の確実な定着を担保するため、講義当日に復習試験を実施し、その結果をもって学習の到達度を確認する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

４学部合同セミナー

ナンバリング：M6-S1-A03 / D6-S1-A03 / P6-S1-A03 / N4-S1-A03

責任者 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	全学教育推進機構長　髙田亮教授　　医学教育学講座地域医療学分野　伊藤智範教授				
担当講座	（医学部）内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野、循環器内科分野、呼吸器内科分野、リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、脳神経内科・老年科分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科学講座、形成外科学講座、産婦人科学講座、小児科学講座、耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座、眼科学講座、皮膚科学講座、泌尿器科学講座、神経精神科学講座、麻酔学講座、臨床検査医学・感染症学講座、救急・災害医学講座、総合診療医学講座、病理診断学講座、医学教育学講座医学教育学分野/地域医療学分野　（歯学部）生理学講座病態生理学分野、歯科保存学講座う蝕治療学分野、歯周療法学分野、歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野、有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、歯科麻酔学分野、歯科放射線学分野、口腔保健育成学講座歯科矯正学分野、関連医学分野　（薬学部）薬科学講座創薬有機化学分野、天然物化学分野、構造生物薬学分野、分析化学分野、生物薬学講座機能生化学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床医化学分野、薬剤治療学分野、医療薬科学講座創剤学分野、薬物代謝動態学分野、衛生化学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、情報薬科学分野、地域医療薬学分野、薬学教育学分野　（看護学部）共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座、看護専門基礎講座				
担当教員	（医学部）高橋義彦准教授、肥田頼彦講師、内海裕特任講師、大河原知治保助教、高橋真講師、佐々木教之助教、石垣大哉助教、小泉淳一准教授、出口博之特任教授、及川龍之介助教、三橋伸行助教、羽場巌助教、外舘玄一朗准教授、鈴木万達講師、今泉利康講師、井上剛講師、小笠原慶太専門研修医、吉岡靖史助教、熊谷基特任教授、髙橋敬太助教、佐藤寿穂助教、山田哲也助教、杉本亮助教、髙田亮教授、伊藤智範教授　（歯学部）黒瀬雅之教授、浅野明子准教授、大塚泰寛助教、村井治講師、深澤翔太准教授、八戸勇樹助教、島田崇史助教、伊藤凌助教、川又慎介、矢菅絵理加助教、太田藍理助教、佐藤健一教授、髙橋徳明講師、菅野江美助教、菊池恵美子助教、浅沼莞奈助教、千葉俊美教授　（薬学部）辻原哲也准教授、稲垣祥助教、田浦太志教授、阪本泰光教授、藤本康之准教授、關谷瑞樹教授、奈良場博昭教授、髙橋巌特任講師、野口拓也教授、杉山育美准教授、幅野渉教授、寺島潤講師、杉山晶規教授、朝賀純一准教授、高橋宏彰講師、西谷直之教授、氏家悠貴助教、松浦誠特任教授、白石博久特任教授（看護学部）佐藤奈美枝教授、柏木ゆきえ准教授、伊藤奈央准教授、小林由美子講師、小坂未来講師、三上邦子講師、松田悠史講師、畑中るり子助教、遠藤太教授、岩渕光子教授、野里同教授、熊地美枝准教授、高崎邦子講師、舘向真紀講師、菊池佑弥助教、赤井純子助教、藤澤純子助教、五日市瑠美子助教、髙橋亮教授、蛎﨑奈津子教授、遊田由希子特任教授、伊東佐由美講師、西里真澄講師、髙橋淳美講師、遠藤龍人教授、塚本恭正准教授、一ノ渡学講師				
対象学年	６（医歯薬）４（看護）	期　間	前期	区分・時間数	演習４時間（実時間）

■　学修方針（講義概要等）

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、修得した医学・歯学・薬学・看護学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多角的に検討する。

■　教育成果（アウトカム）

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、患者と家族、あるいは職種間での適切なコミュニケーションを行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。
（医 DP 2,4,5,6　歯 DP 1,2,3,4　薬 DP 1,2,3,4,5,6,7,8　看 DP 2,3,4,5,7）

■　到達目標（SBOs）

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を説明できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点の抽出・解決法の提示により、チームに貢献できる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスに積極的に参加し、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチームに配慮し、情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒になって病の克服に向けた活動をするためのｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄや生活指導を模擬患者に実施できる。

■　成績評価方法

ルーブリックでチーム作業評価（75%）し、発表会評価・成果物評価等（25%）により評価する。発表後、指導教員よりフィードバックを行う。欠席者については別途課題を指定するものとする。

到達目標	DP				ルーブリック	発表	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1,5	2,4,5	1,4,5	1,2,3,4,7	2,3,4,5		20	5	25
2	2,6	1,2,3	5,6,8	3,4,5,7	25			25
3	2,6	1,2,3	3,5,6	3,7	25			25
4	2,6	1,2,3	3,5,6	7	25			25
合計					75	20	5	100

■　事前学修時間・内容

指定された症例の事前課題について、各学部の専門分野に基づき教科書や参考書等を利用して調べ、**学部内で討議し治療方針の根拠や注意点等について他学部に説明できるよう準備すること。同作業には、41 時間以上を要する。**

■　特記事項・その他

開催日：令和 8 年 4 月 18 日（土）8:30～12:30 または 14:00～18:00　会場：矢巾キャンパス
※新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、Zoom 等を使用した非対面式で実施する。
※実施方法、評価表等は別紙概要を確認すること。
当該科目に関連する実務経験の有無　有　　大学病院等における医師・歯科医師・薬剤師・看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な指導を行う。

自　由　科　目

(海外外国語研修)

(地域医療課題解決演習)

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野　柳谷　千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担　当　教　員	柳谷　千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、 松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期　間	後期		

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性を涵養する一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。

（ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9）

・到達目標（SBO）

(1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
(2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
(3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
(4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・成績評価方法

【総括的評価】　研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。
*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：
「その他」（70%）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研 修 先 ：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）
期　　間：3 月（約 2 週間）の予定
宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各 1 時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無　無

（令和８年度）地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座　下沖 収 教授		
担当講座・学科（分野）	（医学部）総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 （歯学部）歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 （薬学部）臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 （看護学部）地域包括ケア講座		
担当教員	（医学部）下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、髙橋 智弘 講師、前田　哲也 教授、 赤坂　博 助教 （歯学部）小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 （薬学部）松浦 誠 特任教授、白石　博久 特任教授 （看護学部）岩渕 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年（全学部）	期　間	通期
区分・時間数	演習　　16.0 時間（全８回） （1 コマ 2 時間換算）	単位数	１単位

■　学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■　教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
（ディプロマ・ポリシー）
医学部：1，2，4，6，8　歯学部：1，2，3，5，9　薬学部：1，2，3　看護学部：1，2，3，7，8

■　到達目標（SBOs）

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■　成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1,2,3,4	1，2，4，6，8	1，2，3，5，9	1，2，3	1，2，3，7，8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

■　事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後 4 時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■　特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定　　対　象：全学年（全学部）　　会　場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30 分以上の遅刻は欠席とする。 当該科目に関する実務経験の有無　有 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第 1 回 6 月 予定	5 限 予定	オリエンテーションと概要講義 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	大間々 真一 准教授 髙橋 智弘 講師 前田　哲也 教授 赤坂　博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 特任教授 白石　博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第 2 回 6 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 3 回 7 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 4 回 8 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 5 回 9-10 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 6 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 7 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

第8回 12月 予定	5限 予定	検討発表会・まとめ 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則

第１章　目的及び使命

第１条　本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、充分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

２　各学部における教育研究上の目的は別に定める。

３　本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

４　前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

第２章　組織及び修業年限

第２条　本学に次の学部学科を置く。

医学部　医学科

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

看護学部　看護学科

２　医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は６年とし、看護学部は４年とする。

３　各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の２倍を超えることができない。

第３章　学年・学期及び休業日

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第４条　学年は、前期、後期の２期に分ける。

前期　４月１日から９月 30 日まで

後期　10 月１日から３月 31 日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第５条　定期休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

（３）　春期休業　３月 16 日から４月 15 日まで

（４）　夏期休業　７月 16 日から８月 31 日まで

（５）　冬期休業　12 月 23 日から１月 15 日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。
２　臨時休業日は、その都度学長が定める。

第４章　授業科目、授業時間数及び単位

第６条　各学部の授業科目等は別表１のとおりとする。

第５章　授業科目の履修及び課程修了の認定

第１節　医学部、歯学部

第７条　医学部、歯学部においては、第６条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。
２　履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。
３　履修した科目に単位を付与する場合は、45 時間の学修を必要とする内容を１単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。
第８条　所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。
２　試験に関する実施規程は別に定める。
第９条　試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

第２節　薬学部、看護学部

第 10 条　薬学部、看護学部においては、第６条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。
２　履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。
３　単位の計算は、第７条第３項を準用する。
第 11 条　履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。
第 12 条　試験の成績は、第９条を準用する。

第３節　全学部共通

第 13 条　特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。
第 14 条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを標準とする。
第 14 条の２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。
第 15 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 16 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 17 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30 単位を超えないものとし、かつ、第 15 条第１項（同条第２項において準用する場合を含む。）及び前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第６章　卒業及び学位

第 18 条　医学部、歯学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

２　薬学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習 20 単位以上を含む 186 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

３　看護学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

第７章　入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条　入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条　本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

（1） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
（2） 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む)。
（3） 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
（4） 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
（5） 文部科学大臣の指定した者。
（6） 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
（7） その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者。

第 21 条　入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

第 22 条　本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

２　本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条　入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人２名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条　保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち１名は学費負担者でなければならない。

２　保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第１項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条　学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条　病気、その他やむを得ない事由により３ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

２　休学の期間は、１年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に１年以内の休学を許可することができる。

３　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

４　休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条　休学期間であっても事故止みとなり復学を願い出た場合は、教授会の議を経て許可することがある。

第 28 条　他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

２　本学の第１学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第２学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。
３　転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。
第 29 条　本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第８章　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第 30 条　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表２に定める。
第 31 条　授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。
（１）　入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。
（２）　入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。
（３）　入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年４月 25 日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の２回目の納入期限日は９月 25 日までとする。
（４）　薬学部第５学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。
第 32 条　授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30 日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。
第 33 条　納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。
２　前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

第９章　職員組織

第 34 条　本学に次の職員を置く。
学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。
２　職員の定員に関しては、別にこれを定める。

第 10 章　教授会

第 35 条　本学に教授会を置く。
２　教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。

３　教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第 11 章　学生収容定員

第 36 条　各学部の学生定員は次のとおりとする。
医学部医学科　入学定員　95 名　収容定員　570 名
歯学部歯学科　入学定員　73 名　収容定員　438 名
薬学部薬学科　入学定員　50 名　収容定員　300 名
看護学部看護学科　入学定員　90 名　3 年次編入学定員　5 名　収容定員　370 名

第 12 章　研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条　本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。
２　研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。
第 38 条　本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。
２　聴講生の規程は、別に定める。
第 38 条の２　本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。
２　科目等履修生の規程は、別にこれを定める。
第 38 条の３　研究生、研修生、研究員、聴講生には、第８条、第９条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。
第 39 条　外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

第 13 章　賞罰

第 40 条　人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。
第 41 条　学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。
２　懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の４種とする。

第 42 条　次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（2）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（3）　正当の理由がなく欠席が多い者

（4）　本学の秩序を乱す者

第 14 章　附属施設

第 43 条　本学に次の附属施設を置く。

（1）　附属図書館

（2）　附属病院

（3）　附属薬用植物園

２　附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

第 15 章　学生の厚生補導等

第 44 条　学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

２　学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条　本学に学生寮を置くことができる。

第 16 章　学生心得

第 46 条　学生心得は、別に定める。

第 17 章　改廃

第 47 条　この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附　則

この学則は、昭和 22 年６月 18 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 27 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 29 年９月 15 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 40 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 41 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 43 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 44 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 46 年１月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 48 年４月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 50 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 52 年１月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 53 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 54 年２月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 55 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 57 年１月５日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 59 年１月２日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 61 年１月６日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成元年４月１日から施行する。
2　第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の（）書は昭和 63 年度以降歯学部に入学した者に適用する。
3　この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第３項の規定は適用しない。

附　則

1　この学則は、平成２年１月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第２項、第３項および第 27 条第２項の規定は、平成２年４月１日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条２項、第３項および第 27 条第２項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成２年 10 月 19 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成３年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成３年５月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附　則

1　この学則は、平成５年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成７年９月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年９月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 11 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 13 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 14 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成 17 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 18 年 11 月 30 日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

この学則は、平成 20 年８月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

1　この学則は、平成 21 年４月１日から施行する。

2　学生定員の取扱については、平成 20 年８月５日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成 20 年４月１日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成 21 年４月１日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附　則

1　この学則は、平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 22 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～29年度	平成30年度
入学定員	125人	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人	110 人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人

	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

4　第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 22 年６月 28 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

3　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 23 年２月 28 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 23 年６月１日から施行する。（平成 23 年５月 30 日一部改正）

附　則

1　この学則は、平成 24 年７月１日から施行する。（平成 24 年６月 25 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。（平成 24 年 10 月 29 日一部改正）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123 人	123 人	123 人	123 人	108 人	108 人
編入学定員	7人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人

	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人

3　第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。（平成 27 年３月 23 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年８月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 30 年４月１日から施行する。（平成 29 年７月 31 日一部改正、平成 30 年３月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人

	平成37年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附　則

この学則は、平成 31 年４月１日から施行する。(平成 30 年４月 23 日一部改正（別表１第６条関係の変更)、平成 31 年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。（令和元年７月 29 日一部改正、令和２年３月 30 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和２年度から令和９年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人

	令和９年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

附　則

1　この学則は、令和３年４月１日から施行する。（令和２年６月 29 日一部改正、令和３年３月 29 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附　則

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。（令和３年４月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)、令和３年７月 26 日一部改正、令和４年３月 28 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和４年度から令和 10 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
入学定員	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。（令和４年９月６日一部改正、令和５年３月 27 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和５年度から令和 11 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。（令和５年 10 月 26 日一部改正、令和５年 12 月 18 日一部改正、令和６年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更、第７条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 12 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 11 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度
入学定員	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名
収容定員	530 名	460 名	390 名	360 名	330 名	300 名

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。（令和６年 12 月 16 日一部改正、令和７年３月 24 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和７年度から令和 13 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附　則

1　この学則は、令和７年８月１日から施行する。（令和７年６月 30 日一部改正（別表２第 30 条関係の変更））

附　則

1　この学則は、令和８年４月１日から施行する。（令和７年 12 月 15 日一部改正、令和８年３月 30 日一部改正（第２条第３項関係の変更、別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和８年度から令和 14 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1（第6条関係：歯学部）

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	16.0 16.0	2	講義 演習	必修
	医療倫理学	1	28.0	1	講義	必修
	法学	1	28.0	1	講義	必修
	心理学	1	16.0	1	講義	必修
	医療における社会・行動科学	1	16.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	28.0	1	講義	必修
	情報リテラシー	1	14.0 14.0	1	講義 演習	必修
	物理学	1	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	28.0	1	講義	必修
	化学実習	1	42.0	1	実験	必修
	エッセンシャル生物	1	16.0	1	講義	必修
	専門課程への生物学	1	28.0	1	講義	必修
	生物学実習	1	42.0	1	実験	必修
	English Reading & WritingⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Reading & WritingⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	16.0 16.0	1	講義 実技	必修
	ベーシック生物	1	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	18.0 10.0	1	講義 実技	選択
	医療とコミュニケーション	1	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	28.0	1	講義	選択
	実践英語	1	28.0	1	講義	選択
	医療と福祉	1	28.0	1	講義	選択
	科学英語	1	20.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	20.0	1	講義	選択
	医学統計学	2	26.0	1	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	歯科医学概論	1	48.0	講義	必修
	（看護・介護体験実習、病院案内実習）	1	58.0	実習	必修
	解剖学Ⅰ	1	42.0	講義	必修
	組織学基礎	1	28.0	講義	必修
	生理学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	生化学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	臨床歯科学入門	1	44.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ	2	84.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ実習	2	140.0	実習	必修
	組織学・発生学	2	56.0	講義	必修
	組織学・発生学実習	2	56.0	実習	必修
	生理学Ⅱ	2	76.0	講義	必修
	生理学Ⅱ実習	2	8.0	実習	必修
	生化学Ⅱ	2	56.0	講義	必修
	生化学Ⅱ実習	2	28.0	実習	必修
	微生物学・免疫学Ⅰ	2	56.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ	2	40.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ実習	2	30.0	実習	必修
	薬理学Ⅰ	2	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅰ実習	2	6.0	実習	必修
	病理学総論	2	24.0	講義	必修
	病理学総論実習	2	32.0	実習	必修
	衛生学・公衆衛生学	2	34.0	講義	必修
	衛生学・公衆衛生学実習	2	8.0	実習	必修
	歯科専門体験実習（講義）	2	4.0	講義	必修
	歯科専門体験実習	2	28.0	実習	必修
	専門英語（2年）	2	36.0	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	微生物学・免疫学Ⅱ	3	36.0	講義	必修
	微生物学・免疫学Ⅱ実習	3	20.0	実習	必修
	歯科理工学Ⅱ	3	38.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅱ実習	3	32.0	実習	必修
	薬理学Ⅱ	3	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅱ実習	3	6.0	実習	必修
	口腔病理学	3	32.0	講義	必修
	口腔病理学実習	3	52.0	実習	必修
	予防歯科学	3	20.0	講義	必修
	予防歯科学実習	3	8.0	実習	必修
	保存修復学	3	42.0	講義	必修
	保存修復学実習	3	42.0	実習	必修
	補綴学総論	3	14.0	講義	必修
	補綴学総論実習	3	14.0	実習	必修
	歯科放射線学	3	46.0	講義	必修
	歯科放射線学実習	3	10.0	実習	必修
	医科学（3年）	3	56.0	講義	必修
	歯周病学	3	52.0	講義	必修
	歯周病学実習	3	32.0	実習	必修
	臨床薬理学	3	12.0	講義	必修
	臨床薬理学実習	3	16.0	実習	必修
	社会と歯学	3	28.0	講義	必修
	歯内療法学	3	56.0	講義	必修
	歯内療法学実習	3	42.0	実習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	3	10.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	3	18.0	実習	必修
	冠橋義歯学	3	44.0	講義	必修
	冠橋義歯学実習	3	68.0	実習	必修
	基礎科学演習	3	6.0	演習	必修
	基礎科学演習実習	3	28.0	実習	必修
	医療リベラルアーツ	3	24.0	演習	必修
	歯科総合演習（3年）	3	68.0	演習	必修
	チーム医療リテラシー	3	24.0	演習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	4	16.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	4	54.0	実習	必修
	部分床義歯補綴学	4	32.0	講義	必修
	部分床義歯補綴学実習	4	52.0	実習	必修
	歯科麻酔学	4	56.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学	4	14.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学実習	4	14.0	実習	必修
	医科学（4年）	4	98.0	講義	必修
	口腔外科学	4	138.0	講義	必修
	口腔外科学実習	4	16.0	実習	必修
	口腔インプラント学	4	20.0	講義	必修
	口腔インプラント学実習	4	8.0	実習	必修
	歯科矯正学	4	70.0	講義	必修
	歯科矯正学実習	4	42.0	実習	必修
	小児歯科学	4	40.0	講義	必修
	小児歯科学実習	4	30.0	実習	必修
	障害者歯科学	4	28.0	講義	必修
	専門英語（4年）	4	14.0	講義	必修
	高齢者歯科医学	4	46.0	講義	必修
	歯科総合演習（4年）	4	126.0	演習	必修
	コミュニケーション学	4	12.0	講義	必修
	コミュニケーション学実習	4	38.0	実習	必修
	総合講義（Ⅰ）	5	276.7	講義	必修
	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	5	1212.0	実習	必修
	総合講義（Ⅱ）	6	851.5	講義	必修
	4学部合同セミナー	6	4.0	演習	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
自由科目	海外英語演習	1～6	約2週間	2	演習	自由
	地域医療課題解決演習	1～6	16.0	1	演習	自由

別表２（第30条関係）

１．入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。（転部入学含む）

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度（年額）	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

２．再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年(年額)	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年(年額)	－	－	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

３．転入学（歯学部に限る。）に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

４．編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費（年額）		500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	－	－
	次年度以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

５．留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1)　第１学年において留年した者

留年年度における第１学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2)　第２学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考　第１項から第５項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程

第１条　本規程は、岩手医科大学学則第２条第３項に定める在学年限について、歯学部における取扱いを定めるものである。

第２条　歯学部の学生の在学年限は、同一学年につき２年とする。ただし、次の学生は、所定の期限までに在学年限延長願（別紙様式１）を歯学部長に提出した上で、歯学部教授会の議を経て学長が決定した場合に限り、１年間当該学年の在学年限の延長が認められることがある。なお、通算して修業年限の２倍を超える場合は在学年限の延長は認めない。

（１）　第４学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。または、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する臨床実習前全国統一試験（CBT、OSCE）を受験し不合格となった者。

（２）　第６学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。

（３）　前各号における在学年数には、休学した期間は含めない。

第３条　この規程の改廃は、歯学部教授会及び教学運営会議の議を経て学長が決定する。

第４条　この規程に関する事務は、歯学部教務課が行う。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

別紙様式１（第２条関連）

在学年限延長願

岩手医科大学学長　殿
岩手医科大学歯学部長　殿

年　　月　　日

歯学部＿＿＿＿年＿＿＿＿番

学 生 氏 名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

保証人氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

このたび、当該学年における在学年数が２年目であること、並びに所定の試験に不合格となったことから、「岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程」第２条に定める在学年限の延長をお願いいたしたく、保証人連署の上、願書を提出いたします。

※大学使用欄

年　　月　　日受付

学　長	歯学部長	歯学部 教務委員長	歯学部 学生部長	事務局長	学務部長	歯学部教務課 総括課長	歯学部教務課 係長	担当者

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

（趣旨）

第１条　大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第２条に則り、学則第１条第２項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

（各学部等の目的と使命）

第２条　医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

（１）　医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

（２）　歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

（３）　薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成する。

（４）　看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

（５）　全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う人としての教養を高め、豊かな人間性を涵養する。そのため、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

（改廃）

第３条　この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年９月 26 日　から施行し、改正後の規定は、平成 22 年６月 15 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月１日から施行する。（薬学部における目的の変更）

附　則

この規程は、平成 29 年　４月１日から施行する。（看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更）

附　則

この規程は、令和２年２月 12 日から施行する。（教養教育センターの目的の追加）

附　則

この規程は、令和８年２月１日から施行する。（医学部および教養教育センターの目的と使命の追記）

学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1．本学学生としての心構え

（1）医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。

（2）学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。

（3）学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。

（4）講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

〇アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

（1）不適切な態度･行動の繰り返し

- 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- 時間管理ができない
- 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- 患者や同僚などへの無礼
- 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- 学修環境や臨床現場を混乱させる
- 教員へ挑戦的行動をとる
- 教員からの指摘を受け入れない

（2）不正行為

- 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- 講義、実習での出席届の不正
- 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

（３）職務上の役割以外の不正行為または詐欺

- 研究でのデータ捏造
- 金銭的詐欺
- 経歴詐欺、書類偽造
- 資格詐称
- ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
- 不正行為や健康問題の大学への未申告
- 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽

（４）医療人を目指す者としての不適切な行動

- ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
- 守秘義務の不履行
- ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
- 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
- 性的、人種的およびその他のハラスメント
- 不適切な診察や一線を越えた行動
- 不当な差別

（５）攻撃的な暴力や脅し

- 暴行、身体的暴力
- いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
- ハラスメント
- ストーカー行為

（６）薬物またはアルコールの誤用や濫用

- 飲酒運転
- 処方薬の乱用
- 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
- 薬物の不適切使用
- 不適切な過度の飲酒

（７）その他の不適切行動または犯罪行為

- 違法薬物の所持、取り扱い、提供
- 窃盗
- 無賃乗車
- 金融詐欺
- 児童ポルノ
- 児童虐待またはその他の虐待
- 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

２．伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないよう必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

３．学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続をする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

４．ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

５．ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

６．授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

７．自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合にのみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円（年間）
有効期限	申請年度内に限り有効　　※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	①　自動車通学許可申請書　②登録料　③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、 許可された場合のみ発行

８．自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク　1,000 円　自転車　500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	②　登録申請書　②登録料　③免許証（バイクのみ）
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

９．自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

１０．トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は 1 人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのＷＥＢサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品を売り込む	クーリング・オフ制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

１１．注意事項

（１）飲酒

20 歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいっき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

（２）拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

（３）盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

１）多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。

２）ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。

３）自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。

４）学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届出てください。

５）学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を経由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

（4）校舎内､講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

（5）喫煙

20 歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

（6）薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

１２．受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

（1）私語　（2）居眠り　（3）途中入退室　（4）携帯電話・スマートフォンの私的利用　（5）食事や飲酒　（6）受講中の化粧

（7）服装の乱れ

１３．日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

（1）ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方のことを考えましょう。

（2）タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

（３）言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

（４）駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない停め方はやめましょう。

岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第１条　この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第２条　欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第３条　学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第４条　次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することがある。

（１）　近親者の死亡の場合であって、１親等にあっては連続１週間、２親等にあっては連続３日、３親等にあっては１日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）

（２）　学校保健安全法施行規則（昭和 33 年文部省令第 18 号）第 18 条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第 19 条に定める期間の欠席

（３）　授業中の事故による入院又は加療のための欠席

（４）　交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席

（５）　大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席

（６）　学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席

（７）　その他学部長が特に認める欠席

第５条　前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
（１）	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から２週間以内
（２）	医師の診断書	登校後１週間以内
（３）		
（４）	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から１週間以内
（５）	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から１週間以内
（６）		
（７）	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第６条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第７条　この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第８条　この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

平成 20 年８月 18 日一部改正

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する（関係法令の名称変更）。

附　則

この規程は、平成 31 年４月１日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに 該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。

（1）午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報（ 以下「暴風警報等」という。）が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。

（2）登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（3）岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（4）暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。

（1）前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。

（2）前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。

（3）前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。

（4）学内外からの照会には各教務課があたる。

3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。

4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。

5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の審議を得るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】（ⅰ）警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。

（ⅱ）警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。

（ⅲ）学外の実習棟の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和２年１月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

昭和 42 年 10 月 1 日　制定
昭和 45 年 12 月 28 日　改正
昭和 48 年 5 月 16 日　改正
昭和 54 年 6 月 6 日　改正
昭和 55 年 6 月 10 日　改正
平成 4 年 2 月 20 日　改正
平成 8 年 5 月 15 日　改正
平成 9 年 3 月 17 日　改正
平成 9 年 8 月 6 日　改正
平成 10 年 3 月 4 日　改正
平成 11 年 3 月 24 日　改正
平成 13 年 2 月 21 日　改正
平成 15 年 1 月 24 日　改正
平成 16 年 3 月 3 日　改正
平成 18 年 3 月 15 日　改正
平成 18 年 11 月 15 日　改正
平成 21 年 3 月 18 日　改正
平成 26 年 3 月 13 日　改正
平成 30 年 3 月 7 日　改正
令和 5 年 2 月 16 日　改正
令和 7 年 3 月 5 日　改正
令和 8 年 3 月 4 日　改正

岩手医科大学歯学部試験規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、学則第 8 条第 2 項の規定に基づき、歯学部の試験に関し定めるものである。

（試験科目等）

第２条　試験科目及び試験の実施については、教授会の議を経てこれを定める。

（試験の種類）

第３条　試験は、次のとおりとする。

（１）本試験　履修した授業科目について行う試験をいう。

（２）再試験　本試験において不合格となった科目について改めて行う試験をいう。

（３）追試験　病気又は止むを得ない理由により試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により当該試験科目について行う試験をいう。

（４）科目認定試験　第 2 学年、第 3 学年で不合格となった授業科目について進級後の学年で行う試験をいう。

（試験方法）

第４条　試験は、筆答、口答、レポート提出、製作品提出、実地試問、その他の中から、担当教員が適当と認めた方法により実施する。

（試験日程）

第５条　本試験は、前期及び後期の授業終了時に行うものとする。

２　本試験及び再試験の日程及び時間割等は、その実施の 2 週前までに発表する。

３　追試験は、学業成績判定までに行うものとする。

４　科目認定試験は、当該科目の責任者・コーディネーターが指定した時期に行う。

（受験資格）

第６条　各授業科目の所定履修時間の原則３分の２以上出席しなければ、本試験を受験することができない。ただし、その取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（再・追試験受験手続）

第７条　再試験及び追試験の該当者は、所定の手続きをとらなければならない。

２　追試験該当者は、追試験願及び試験欠席届に理由書（病気の場合は診断書、その他は明確な理由書）を添えて提出し、当該科目責任者及び学部長の承認を得なければならない。

３　再試験料は１科目 3,000 円、追試験料は１科目 1,000 円とし、その都度前納しなければならない。

（評　　点）

第８条　各学年で履修する科目の評点は、次のとおりとする。

（１）第１学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

（２）第２学年～第５学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、65 点以上を合格とする。

（３）第６学年で履修する科目の評点に関し必要な事項は、別に定める。

（４）再試験、追試験及び科目認定試験の取り扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（進　　級）

第９条　各学年で履修した全科目の試験に合格した者は、教授会の議を経て進級とする。

２　前項以外の者で、別に定める要件を満たした者は、教授会の議を経て進級とする。

３　進級不可と判定された者は留年とし、当該学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（卒　　業）

第 10 条　所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て学長が卒業の認定をする。

２　卒業不可と判定された者は留年とし、第 6 学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（成績評価の開示）

第 11 条　個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

（成績評価の異議申し立て）

第 12 条　成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行う場合には、別に定める「成績評価に対する異議申し立てに関する内規」の手続きにより「成績評価に対する異議申立書」（所定の様式による）を、歯学部教務課に提出するものとする。

（罰　　則）

第 13 条　試験に関して不正行為があった場合は、学則第 41 条により懲戒する。

（規程の改廃）

第 14 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第 15 条　この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
2　この規程は、平成 8 年 5 月 15 日から施行する。
3　この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
4　この規程は、平成 9 年 8 月 6 日から施行する。
5　この規程は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
6　この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
7　この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
8　この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
9　この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
10　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
11　この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
12　この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
13　この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
14　この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（学則第 18 条第 1 項との整合性を図る修正）
15　この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
16　この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
17　この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）

2026年度岩手医科大学歯学部 試験規程の取扱内規

１．この内規は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第６条及び第８条の取扱いに関して定めるものである。

２．第６条（受験資格）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）別に受験資格を規定された科目及び試験については、それぞれ規定された要件を満たさなければならない。

（２）半期10回未満の科目で、出席が所定の割合未満の科目がある場合でも、当該学期における全科目の出席状況を勘案し、受験を認めることがある。

（３）第１学年において次のいずれかに該当する者は、再試験を受けることができない。

①履修科目の３分の１を超えて60点未満の評価を得た者

②総平均点が60点未満の者（小数点以下切り捨て）

（４）第２学年から第４学年においては、各授業科目の所定履修時間の５分の４以上出席しなければならない。

（５）第２学年において履修科目の総平均点が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（６）第３学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（３年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（７）歯科総合演習（３年）については、追試験を実施しない。

（８）第４学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（４年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（９）歯科総合演習（４年）については、追試験を実施しない。

(10) 第５学年前期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。

①前期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。

②前期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。

③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(11) 第５学年後期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。

①後期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。

②後期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。

③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(12) 第５学年総合講義（Ⅰ）については、追試験を実施しない。

(13) 第６学年第１回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。

①前期の講義（基盤形成講義II、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。

②前期の復習試験を５分の４以上受験していること。

③選抜講義①に選出されている者は、その講義に５分の４以上出席していること。

④選抜講義①の受講対象者は、前年度の成績及び実力確認試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする。

⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(14) 第６学年第２回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。

①後期の講義（臨実特化講義、必修特化講義、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。

②後期の復習試験を５分の４以上受験していること。

③選抜講義②及び知識統合講義に選出されている者は、それぞれの講義に５分の４以上出席していること。

④選抜講義②の受講対象者は、大学主催の模擬試験、到達度評価試験、第１回総合試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする（追加する場合がある）。

⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(15) 第６学年卒業判定保留解除試験（再試験）における受験資格の要件は次のとおりとする。

①２．(13)、(14) に定める要件を全て満たしていること。

②判定基準点（必修問題75%以上、一般問題65%以上、臨床実地問題65%以上、総合得点70%以上）がいずれも合格基準に到達していない場合は、受験することができない。

③総合得点が63%未満の者は、受験することができない。

(16) 第６学年総合講義（Ⅱ）については、追試験を実施しない。

３．第８条（評点）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）追試験の点数は、その得点より１割を減じたものとする。

（２）再試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（３）科目認定試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（４）歯科総合演習（３年）は、前期試験を30%、３年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（５）歯科総合演習（４年）は、前期試験を30%、４年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（６）第５学年総合講義（Ⅰ）は、実力確認試験及び復習試験（週間と月間）を 10%、前期総合試験を 40%、後期総合試験を 50%として評価する。
（７）第６学年総合講義（Ⅱ）は、実力確認試験及び到達度評価試験を５％、第１回総合試験を 40%、第２回総合試験を 55%として評価する。
（８）第６学年総合講義（Ⅱ）の判定基準点、判定基準及び評点は、次のとおりとする。
判 定 基 準 点：必修問題 75%以上、一般問題 65%以上、臨床実地問題 65%以上、総合得点 70%以上（小数点以下切り捨て）。
判　定　基　準：必修問題、一般問題、臨床実地問題、総合得点いずれも基準点を満たしていること。
評　　点：100 点満点とし、総合得点を評点に用いる。
（９）第６学年で履修する４学部合同セミナーの評点は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

付　則
この内規は、2026 年３月 27 日から施行する。

2026年度岩手医科大学歯学部 進級・卒業に関する申し合わせ事項

１．この申し合わせ事項は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第９条及び第10条の取扱いに関して定めるものである。

２．第９条（進級）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第１学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

（２）第２学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 履修科目の平均点が65点以上
b. 再試験を受験している
c. 55点未満の科目がない
d. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（３）第３学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 歯科総合演習（３年）に合格している
b. 履修科目の平均点が65点以上
c. 再試験を受験している
d. 55点未満の科目がない
e. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（４）第４学年における修了要件は、履修した全科目の試験及び歯学生共用試験（CBT・OSCE）に合格していることとする。

（５）第５学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していること及び臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）を修了していることとする。

（６）臨床実習の修了要件は、次のとおりとする。

①全科目のリクアイアメントを100％以上所定の期日までに達成していること。
②臨床実習の全日程において、５分の４以上出席していること。
③臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験及び臨床実地試験）に合格していること。
④学外連携プログラムに係る実習（介護体験実習、地域医療体験実習）を修了していること。
⑤岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

（７）第２学年及び第３学年の修了要件を満たさずに進級した者は、進級後の学年で不合格となった授業科目の科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（８）カリキュラムの変更等により留年時に再履修できない授業科目が発生した場合は、不合格となった授業科目に限り、科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（９）科目認定試験に不合格となった者は留年とし、改めて不合格となった科目認定試験を受けなければならない。

３．第10条（卒業）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第６学年における卒業要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

付　則

この申し合わせ事項は、2026年３月27日から施行する。

岩手医科大学歯学部 成績評価に対する異議申し立てに関する内規

制定　令和８年３月４日

（趣　　旨）

第１条　この内規は、岩手医科大学歯学部の学生（以下「学生」という。）が、履修した授業科目に係る成績評価に対して疑義が生じ、科目責任者からの説明をもってしても疑義の解消に至らなかった場合に行う異議申し立てに関して、必要な事項を定める。

（成績評価方法等の明示）

第２条　責任者・コーディネーター（以下「科目責任者」という。）は、成績評価に関連する事項を教育要項等に明示し、学生に説明しなければならない。

（成績評価結果の説明）

第３条　科目責任者は、学生に対して成績評価結果の基となる試験結果等の説明に努めるものとする。

（成績評価に関する質問・疑問等の受付）

第４条　科目責任者は、成績開示後に一定期間を設けて学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付けるとともに、これに真摯に対応するものとする。

（異議申し立て手続き）

第５条　学生は、次に掲げる事項に該当する場合、成績評価に対する異議申し立てをすることができるものとする。

（１）成績の誤記入等、明らかに科目責任者等の誤りであると思われる場合。

（２）教育要項等により学生に明示している成績評価方法・基準・配点割合等から明らかに逸脱していると思われる場合。

２　学生は、異議申し立てを行う場合、成績開示後５日以内に成績評価に対する異議申立書（別記様式１）を、歯学部教務課に提出するものとする。ただし、同一の成績評価に対する異議申し立ては１回限りとする。

（異議申し立ての審査）

第６条　歯学部長は、異議申し立てを受けた場合、歯学部教務委員会へ回答書（別記様式２）の作成を指示するものとする。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てを受理する場合、歯学部教務委員長を長とする成績評価に対する異議申し立て審査委員会（以下「成績異議申立審査委員会」という。）を設置する。

３　成績異議申立審査委員会は、成績評価に対する異議申立書に基づき、審査を行う。

４　成績異議申立審査委員会は、審査に際し、当該学生及び科目責任者等への聴取調査を行うことができる。また、必要に応じて、科目責任者等に対して成績判定に用いた資料の提出を求めることができる。

（審査結果の取り扱い）

第７条　成績異議申立審査委員会は、審査結果を歯学部教務委員会に報告する。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てへの対応を決定し、歯学部長に報告する。

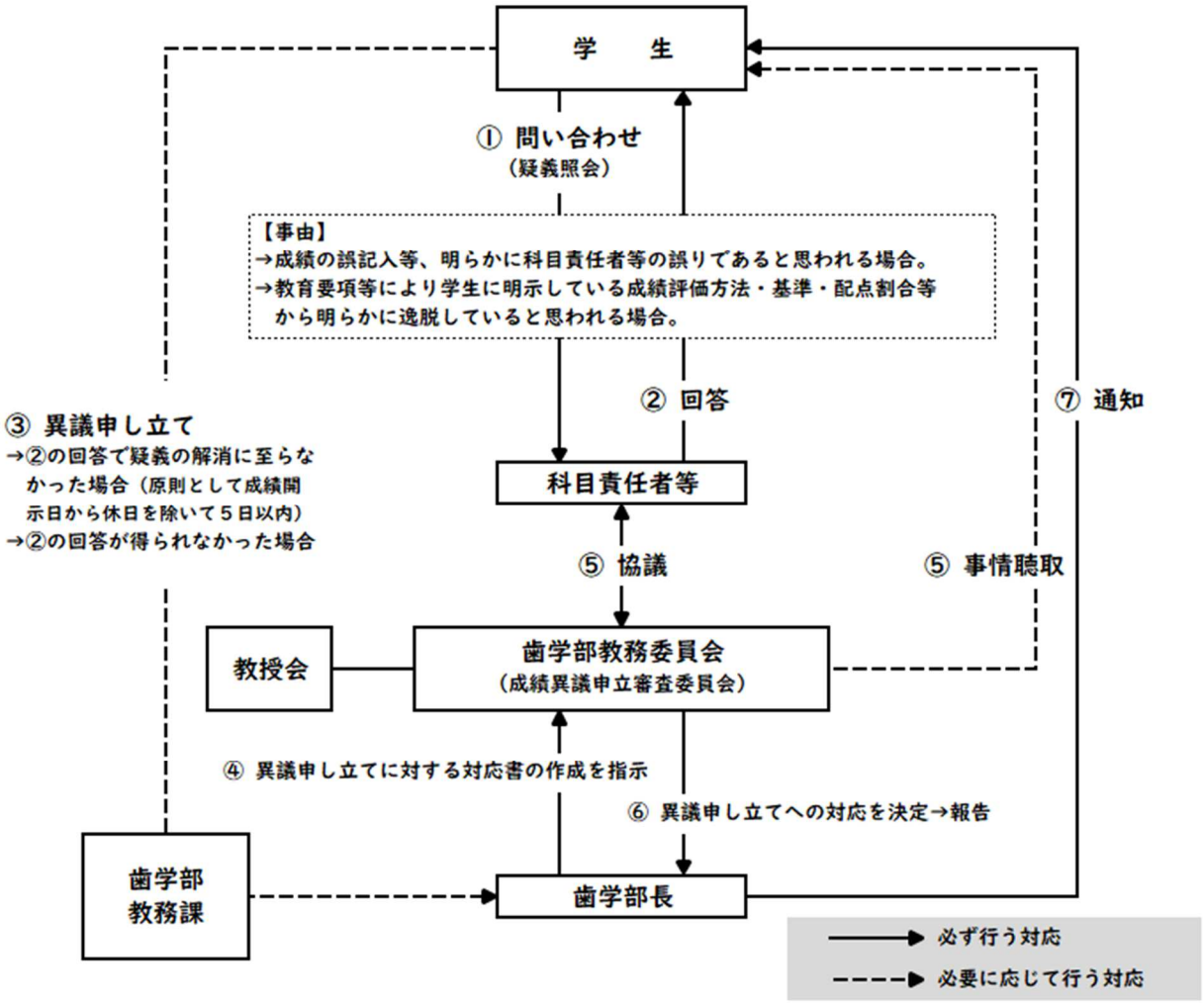
３　歯学部長は、審査結果を当該学生へ回答書（別記様式２）にて通知するものとする。

（内規の改廃）

第８条　この内規の改廃は、歯学部教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第９条　この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。



（様式１）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立書

歯学部長　様

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名　　㊞

以下の理由のとおり、当該授業科目の成績評価に対して異議を申し立てます。

授業科目名		開示された 成績評価	点
科目責任者名			
異議を申し立てる 具体的理由			

提出先：歯学部教務課

（様式２）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立への回答書

歯 学 部　　年　　番
学籍番号
氏　　名

歯学部長

令和　　年　　月　　日付、提出のありました成績評価に対する異議申し立てについて、歯学部教務委員会の決定に基づき、以下のとおり回答いたします。

授業科目名	
科目責任者名	
異議申立への対応	１．成績評価の変更を行います。　**【変更後の成績評価：　　点】** ２．成績評価の変更を行いません。
具体的理由	

岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和６年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、「障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　障害のある学生等　障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)第２条第１号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。

（２）　合理的配慮　障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないよう必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

（教職員の責務）

第３条　本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないよう、合理的配慮の提供に努めなければならない。

（支援体制）

第４条　本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

２　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第５条及び第６条の手続きを経ることとする。

３　学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　学事課

（４）　その他学生部長が必要と認めた者

（面談）

第５条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口に相談後、面談を実施することとする。

２　面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　教務委員長

（４）　クラス担任

（５）　当該学部教務課

（６）　健康管理センター

（７）　学事課

（８）　その他学生部長が必要と認めた者

３　前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

（申請）

第６条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式１の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

２　新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。

３　更新申請は、年度ごとに行うものとする。

（合理的配慮の検討）

第７条　学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

２　前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたると判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

（１）　本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度（その目的、内容、機能等）

（２）　実現可能性の程度（物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約）

（３）　費用及び負担の程度

（４）　本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

（合理的配慮の提供）

第８条　本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

２　合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

（情報保護）

第９条　合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報を共有することができるものとする。

（事務）

第 10 条　本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

（改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

様式第１号(第６条関係)

学生支援室　御中

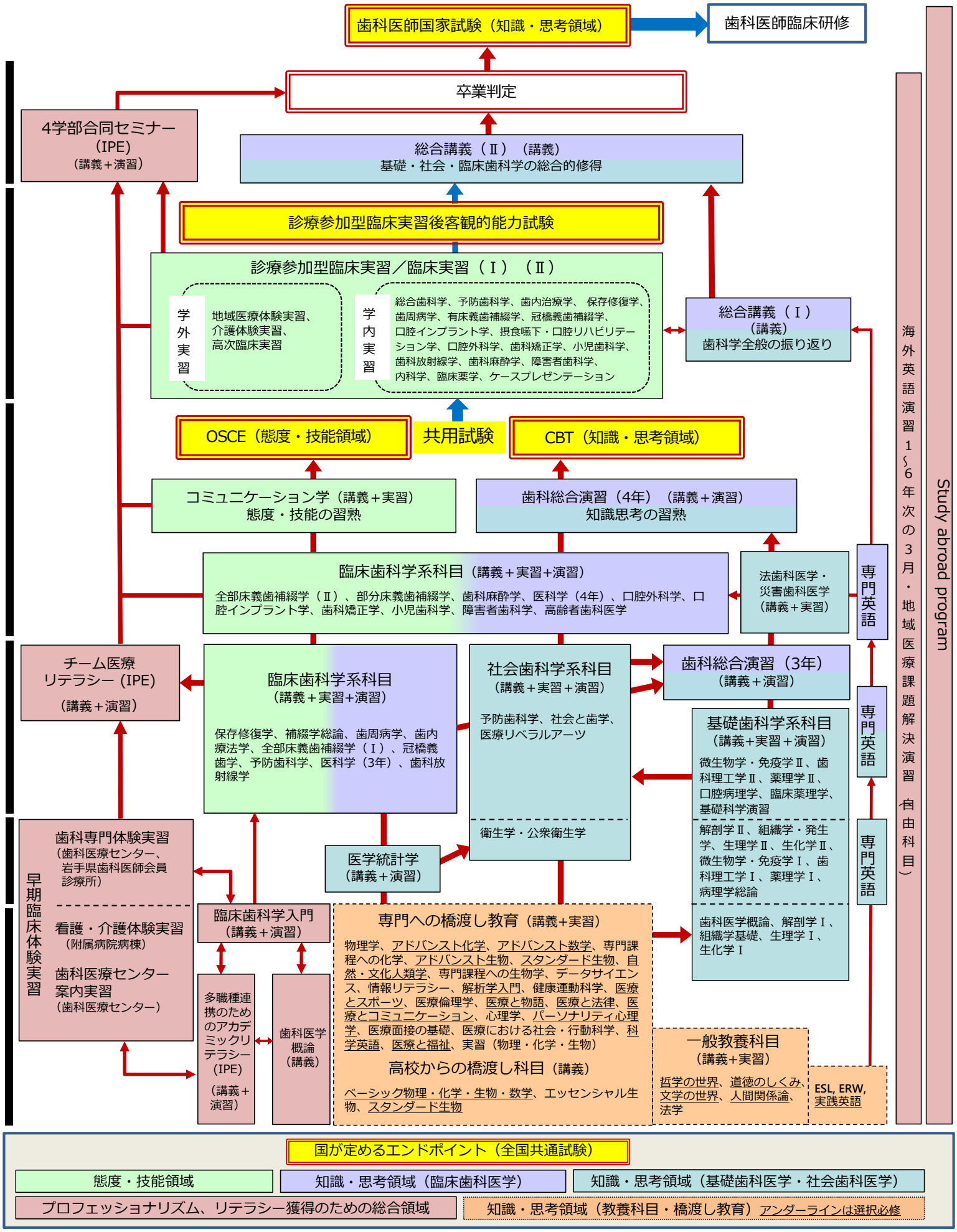
修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、＿＿＿年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

<table>
<tr><td>申請日</td><td colspan="4">＿＿＿＿ 年 ＿＿ 月 ＿＿ 日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(ふりがな)
氏名※自筆</td><td colspan="2" rowspan="2">(　　)
※自筆 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td><td>入学年度</td><td>＿＿＿＿＿年度</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td>＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>学部学年等</td><td colspan="4">＿＿＿学部 ＿＿＿年 出席番号 ＿＿＿番</td></tr>
<tr><td>連絡先・現住所</td><td colspan="4">携帯電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
E-mail ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
現 住 所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>緊急連絡先
(保護者等)</td><td colspan="4">氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
住　　所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　本人との関係：＿＿＿</td></tr>
<tr><td rowspan="3">障がい等の名称
障がいの種類
根拠書類</td><td colspan="4">＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと</td></tr>
<tr><td colspan="4">障がいの種類(該当箇所にチェックのこと)
□身体障がい □知的障がい □精神障がい □その他心身の機能の障がい</td></tr>
<tr><td>障害者手帳
□有(　　手帳　　種　　級)
□無</td><td>診断書
□有
□無</td><td colspan="2">その他
□有
(内容：　　)</td></tr>
<tr><td>申し出理由
及び
希望する配慮内容</td><td colspan="4">配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など)

希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="4">□規程第９条　関係者間における個人情報の共有に同意します。</td></tr>
</table>

歯学部歯学科カリキュラムマップ　2026



GPA（Grade　Point　Average）制度について

●定　義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値で表したものである。

●目　的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

●評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

※歯学部における第 6 学年総合講義Ⅱ及び 4 学部合同セミナーの評価については別に定める。

●対　象：各年度による

●単位算出方法：

$$\frac{\text{1 コマ 2 時間（1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分）×回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

（例）

●GPA 計算方法：

$$\frac{\text{（評価「A」単位数×3 点）+（評価「B」単位数×2 点）+（評価「C」単位数×1 点）}}{\text{総単位数（不合格科目を含める）}}$$

●GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

●対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

CAP 制度の導入について

●目　的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が 1 年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対　象：全学部・全学年

●制度内容について【歯学部】

本学歯学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必用な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1 年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3.0 単位

大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

> 第二十一条　各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
> 2　前項の単位数を定めるに当たっては、**一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する**ことを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1 単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて 45 時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる**事前・事後学修が必要になります。**

例えば以下の例を考えてみます。

例）講義・実習 14 コマで 1 単位の科目の場合
　　講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間（90 分を 2 時間として計算） ＝ 28 時間
　　45 時間 － 28 時間 ＝ 17 時間
　　計 17 時間分（1 コマあたり 72 分以上）の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間（90 分＝2 単位時間）ではなく実時間（実際の授業時間）に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。

2．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。

3．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。

4．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。

5．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

（平成 26 年 3 月 11 日制定）

岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因解明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット（含、Social Network Service）に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報（姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等）を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(ミクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

教育成果物の利用に関して

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

学生健康診断規程

（趣旨）

第１条　この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

（健康診断の実施）

第２条　大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年１回、健康診断を実施しなければならない。

２　健康診断は健康管理センターが実施する。

（健康診断の種類）

第３条　健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

２　定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

３　臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

（受診の義務）

第４条　学生は健康診断を受けなければならない。

２　学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

３　前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

（健康診断の総合評価及び通知）

第５条　健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

（事後措置）

第６条　学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者があるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

２　学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

３　健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

（復学時の健康診断）

第７条　疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

（証明書の発行）

第８条　第３条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

令和8年度　学生健康診断等実施要領

１．学生健康診断

＊M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

健　診　日　時		対象学生	個人票配付時間・場所		健診会場	健診項目
4月20日(月)	9：30～11：30	3M	9:20	キャンパスモール 階段下 (Yショップ前) ・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。	**＜矢巾キャンパス １階＞** ■北側入口(胸部検診車) ・胸部X線撮影 ■キャンパスモール 正面入口付近 ・視力検査 ■キャンパスモール ヤマザキショップ向かい側 ・血圧測定 ■東研究棟 SGL ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診 ■西講義実習棟 キャンパスモール側トイレ ・尿検査 ■西研究棟 ラウンジ ・ 血液検査	■必須項目 ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影 ■学年別追加項目 【1年】 ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 【4年】 ・血液検査 ・尿検査 ■B型肝炎接種前検査 (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50			
	13：30～15：30	4P	13:20			
		4N	13:50			
		6M	14:20			
		3DH	14:50			
4月21日(火)	9：30～11：30	1M	9:20			
		1D	10:50			
	13：30～16：00	1P	13:20			
		6P	13:50			
		1N 3N編入生	14:30			
		1DH	15:20			
4月22日(水)	9：30～12：00	4M	9:20			
		2N	10:50			
	13：30～16：00	2M	13:20			
		2D	14:50			
		2P	15:10			
		2DH	15:30			
4月23日(木)	9：30～12：00	5M	9:20			
		3D	10:50			
		3P	11:20			
	13：30～15：30	5D	13:20			
		6D	13:40			
		5P	14:10			
		3N	14:40			

※　変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

２．心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日　　時	会　　場	内　　容
1N	4月20日(月)5限　16:20～17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限　14:40～16:10		
1P	4月22日(水)5限　16:20～17:50		
1M	4月24日(金)1限　8:50～10:20		
2～6年(M・D・P) 2～4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

３．健康講話

対　　象	日　　時	会　　場	内　　容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限　16:20～17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限　10:30～12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

４．ワクチン接種日程について

（１）Ｂ型肝炎ワクチン　　対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区　　分	日　　時		対象学生	会　　場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30～11:30	3M、4D	矢巾キャンパス 西研究棟1階 ラウンジ
		13:30～15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30～16:00	1N･1DH･3N編入生	
ワクチン接種 １回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ２回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ３回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

（２）インフルエンザワクチン　　対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日　　時		対象学生	会　　場
内　丸	10月13日(火)	15:30	6D	内丸 創立60周年記念館 8階　研修室
	10月14日(水)	14:30	1DH	
		15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢　巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス 西講義実習棟2階 西2･C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P･3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
	10月23日(金)	13:30	5P	
		14:00	2D	
		14:30	5M	
		15:00	2P	
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

１．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

２．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学　　長	小笠原　邦昭	水	10：00～12：00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ること
解剖学講座 機能形態学分野	藤原　尚樹	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡　望	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生生物・再生医学分野	原田　英光	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津　圭史	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎　晶二郎	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬　雅之	月・木	16：30～17：30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤　哲也	火・水	16：30～17：30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎　明	月	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐　直幸	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田　聖司	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河　太知	月～金	16：00-17：00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦　利貴	月～金	12:00～13:00 16:00～17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303　内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村　正帆	月	16：00～16：30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村　晴希	月	12：00～13：00 16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田　ありさ	月	16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江　太朗	木	16：00～18：00	病理学講座病態解析学分野　教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤　泰生	木	16：00～17：30	病理学講座病態解析学分野　461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷　章子	木	18：00～19：00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム　内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本　真治	木	16：30～17：30	医療工学講座教授室西 317 （内線 5760） takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木　かおり	月・木	16：30～17：30	医療工学講座スタッフルーム西 316 （内線 5763） sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田　守	木	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野　明子	月	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田　弥栄子	火	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東　兼司	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上　雄亮	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚　泰寛	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水　彩恵子	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木　大平	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木　大輔	月	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井　治	火・木	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） osamurai@iwate-med.ac.jp
	鈴木　啓太	水	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原　恵子	火	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） kaihara@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林　琢也	金	17：00～18：00	教授室（441号室）　内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤　宏明	木	17：30～18：30	義歯外来、医局、研究室　内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤　悠	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤　紗織	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原　総一朗	火	17：00～18：00	医局、研究室（406号室）　内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田　崇史	木	17：00～18：00	医局、研究室（406号室）　内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤　凌	木	17：00～18：00	医局、研究室（404号室）　内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今　一裕	火	17：00～18：00	医局、研究室　453号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤　翔太	水	17：30～18：30	医局、研究室　447号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田　潤	火	17：00～18：00	医局、研究室　445号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福徳　暁宏	水	17：00～18：00	医局、研究室　447号室　内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤　裕美子	月	16：00～17：00	医局、研究室　433号室　内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木　渓斗	水	17：00～18：00	医局、研究室　407号室　内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸　勇樹	水	17：00～18：00	医局、研究室　407号室　内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星　美貴	水	17：30～18：30	医局、研究室　445号室　内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田　浩之	月	18：00～19：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野　教授室　内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井　忠	木	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋　祐生	月・火・ 木・金	18：00～20：00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局　内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城　慎太郎	金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kshinta@iwate-med.ac.jp
	平野　大輔	月・木・金	16：00～17：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋　美香子	水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮　孝之	月・水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本　祐基	火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又　慎介	月・火・ 木・金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅　絵里加	月・火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤　健一	火	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田　真未	月	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤　州	金	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上　和奏	水	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町　晴香	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤　五月	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤　充	火・木・土	12：00～13：00	歯科放射線学分野・特任教授室(134 号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	髙橋　徳明	火・木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤　仁	木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室 (135 号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野　正行	水・金	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星　勲	水	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森　尚城	月・火・水	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野　江美	火・木・金	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤　和朗	木	17：00～18：00	歯科矯正学分野・教授室 (456 号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島　幸紀	木	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚　康之	月	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池　恵美子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼　莞奈	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤　慶子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田　茜	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田　弘法	月	17：00～18：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷　美保	月～木	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71557） mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤　桂子	月～金	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71587） ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部　可奈子	月・水・木・金	16：00～17：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71485） kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉　俊美	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室440号室　内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王　挺	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室444号室　内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤　俊郎	火・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐　美歩	月～金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） mibi@iwate-med.ac.jp
	大石　泰子	火・木・金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤　華子	月・金	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山　由紀子	月・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

教養教育センター　オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備　考
人間科学科	哲学分野	林　研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦　康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野　研究室
	法学分野	廣瀬　清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野　研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤　美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川　由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
	体育学分野	佐々木　亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野　研究室
情報科学科	数学分野	江尻　正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川　大	月～金	16:30～17:30	225数学分野　研究室
	医学統計 情報学分野	髙橋　史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野　保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科		奥村　健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室
		小松　真	月～金	17:00～18:00	254物理学科　研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp
		小田　泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科　研究室2
化学科		中島　理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室
		東尾　浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科　研究室
		吉田　潤	月・水	16:30～17:30	255化学科　研究室
生物学科		三枝　聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		菅　孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		内藤　雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科　研究室
外国語学科	英語分野	柳谷　千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田　竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野　研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野　研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野　研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	髙田　亮	月・火・水・金	16:00～18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤　純	月	月：12:00～13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤　智範	月・金	12:00～13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢　千早	月・水	10:00～12:00、13:00～16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平　進士	火・木	17:00～18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴﨑　晶彦	月・火	16:00～17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村　英二	火	12:00～13:00	人体発生学分野　スタッフルーム	内線：5831
	中野　真人	月～金	17:00～18:00		
	足立　礼孝	月～金	16:00～18:00		
	勝本　恵一	月～金	16:00～18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野　朝幸	火～金	12:00～13:00、16:00～19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田　啓之	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	ｱﾌﾞﾀﾞﾘ ｻｲﾄﾞ ｼｬﾘﾌ	月～金	12:00～13:00、16:00～19:00		
	阿久津　仁美	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	平川　正人	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中嶋　克己	月～金	16:30～19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村　眞吾	月～金	16:30～19:00		
	鈴木　喜郎	月～金	16:30～18:45		
	望月　圭	月～金	18:00～20:30		
	駒切　洋	月・水・金	16:30～19:00		
	鈴木　享	月～金	16:30～19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子　桐子	月・火・水・木	16:00～18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木　亘	月・火・木	16:00～18:00		
	髙橋　隼一郎	月・火・水・木	16:00～18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木　靖	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　教授室（308）	内線：5792
	海部　知則	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（307）	
	小田切　崇	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（306）	
	石川　静麻	月・火・水・木・金	12:00～13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平　英一	火・水	16:30～17:30	薬理学講座　スタッフルーム（365）	内線：5821
	ﾊｻﾝ ｱﾘﾌ ｳﾙ	月・火・水・木・金	16:00～17:00		
	小原　真美	月・水・金	16:00～17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡　竜貴	火・水	12:00～13:00	病理学講座　教授室（455）	内線：5920
	中村　啓哉	木・金	12:00～13:00	研究室	
	伊藤　謙	水・木	12:00～13:00		
	松﨑　駿	月・水	12:00～13:00		
法科学講座 法医学分野	髙宮　正隆	火	12:00～12:20	医局	内線：5682
	森川　剛	火	12:00～12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野　高三	月～金	16:15～18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂　憲	月～金	16:15～18:00		
	田鎖　愛理	月～金	16:15～18:00		
	事崎　由佳	月～金	16:15～18:00		
	下田　陽樹	月～金	16:15～18:00		
	高梨　信之	月・火・水・金	16:15～18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本　主之	水	17:00～18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田　英克	水	17:30～18:30		
	宮坂　昭生	水	17:30～18:30		
	梁井　俊一	水	17:00～18:00		
	柿坂　啓介	火・木	16:00～18:00		
	鳥谷　洋右	水	17:00～18:00		
	永塚　真	水	17:00～18:00		
	佐々木　裕	水	17:00～18:00		
	遠藤　啓	水	16:30～17:00		
	吉田　雄一	水	16:00～16:30		
	阿部　珠美	水	18:00～18:30		
	鈴木　彰子	水	12:30～13:30		
	星　綾乃	水	17:00～18:00		
	大友　康司	水	17:00～18:00		
	佐々木　登希夫	水	16:30～17:00		
	今成　慧祐	水	16:30～17:30		
	本多　俊介	水	16:30～17:30		
	藤原　裕大	水	16:30～17:00		
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣　泰	火	15:00～16:00	医局	内線：6271
	高橋　義彦	金	16:00～17:00		
	瀬川　利恵	木	12:00～13:00		
	武部　典子	月	16:00～17:00		
	長谷川　豊	金	9:30～10:30		
	小田　知靖	火	12:00～13:00		
	冨樫　弘文	水	16:00～17:00		
	千田　愛	水	12:00～13:00		
	千葉　拓	月	9:00～10:00		
	川島　智美	水	12:00～13:00		
	吉田　絵里子	水	15:00～16:00		
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭　浩一	火	12:15～13:15	教授室	内線：6416
	吉川　和寛	火	12:15～13:15	医局	
	河嶋　英里	火	12:15～13:15		
	野田　晴也	火	12:15～13:15		
	岡本　好生	火	12:15～13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野　禎浩	月～金	12:00～13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田　大	月～金	12:00～13:30		
	大和田　真玄	月～金	12:00～13:30		
	房崎　哲也	月～金	12:00～13:30		
	肥田　頼彦	月～金	12:00～13:30		
	二宮　亮	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　礼佑	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　美知子	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　航	月～金	12:00～13:30		
	二宮　開	月～金	12:00～13:30		
	澤　陽平	月～金	12:00～13:30		
	浅野　峻見	月～金	12:00～13:30		
	登坂　憲吾	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　健太	月～金	12:00～13:30		
内科学講座 呼吸器内科分野	川田　一郎	火・木・金	14:30～17:00	医局	内線：6251
	長島　広相	月・水・金	16:30～17:00		
	秋山　真親	火	16:30～17:00		
	内海　裕	月・水・金	16:30～17:00		
	堀井　洋祐	火・水・木	16:30～17:00		
	片桐　紘	月・木・金	16:30～17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本　穣	木（第4除く）	9:00～12:00	医局	内線：6471
	村田　興則	木	9:00～17:00		
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00		
	駒ヶ嶺　正嗣	金	9:00～12:30		
	大河原　知治	水	9:00～12:00		
	舟嶋　英志	金	9:00～17:00		
	昆　康弘	水（第1.3）	14:00～17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤　薫樹	火	16:30～17:00	教授室	内線：6401
	小宅　達郎	火・木	17:00～18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田　周吾	月・火・木	17:00～18:00		
	岡野　良昭	火・水	17:00～18:00		
	佐藤　剛	火・水	17:00～18:00		
	西谷　真来	月・火・水	12:00～15:00		
	前田　峻大	火・水	17:00～18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田　哲也	木	16:00～17:00	脳神経内科・老年科　医局	内線：6431,6432
	板橋　亮	水	16:00～17:00		
	工藤　雅子	月・火	16:00～17:00		
	石塚　直樹	金	16:00～17:00		
	赤坂　博	水	16:00～17:00		
	鈴木　真紗子	木	16:00～17:00		
	岩岡　和博	水	16:00～17:00		
	高橋　真	水	16:00～17:00		
	高橋　健太	水	16:00～17:00		
	津田　圭介	水	16:00～17:00		
	大井　清貴	水	16:00～17:00		
	田口　啓太	水	16:00～17:00		
	寺内　貴廣	水	16:00～17:00		
外科学講座	佐々木　章	火	15:00～17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田　浩幸	火	14:00～17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木　信	火	14:00～17:00	外科学講座　医局	
	梅邑　晃	火	14:00～17:00		
	井原　欣幸	火	14:00～17:00		
	藤野　順子	火	10:00～11:00		
	馬場　誠朗	水	14:00～17:00		
	石田　和茂	火	14:00～17:00		
	八重樫　瑞典	木	9:00～11:00		
	武田　大樹	火	14:00～17:00		
	二階　春香	水	14:00～17:00		
	安藤　太郎	火	14:00～17:00		
	佐々木　教之	火	14:00～17:00		
	天野　総	火	14:00～17:00		
	瀬川　武紀	火	14:00～17:00		
	天野　怜	火	14:00～17:00		
	川島　到真	火	14:00～17:00		
	熊谷　秀基	水	14:00～17:00		
	棚橋　洋太	火	14:00～17:00		
	菊地　晃司	火	14:00～17:00		
脳神経外科学講座	赤松　洋祐	月～金	17:00～18:00	脳神経外科学講座　医局	会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。 （9：00～16：00） 内線：6422,6421
	別府　高明	火	17:00～18:00		
	石垣　大哉	月～金	17:00～18:00		
	佐藤　雄一	月・水・木	17:00～18:00		
	佐浦　宏明	月～金	17:00～18:00		
	吉田　純	月～金	17:00～18:00		
	大志田　創太郎	月～金	17:00～18:00		
	筒井　章太	月～金	12:00～13:00		
	柳原　普	月～金	17:00～18:00		

心臓血管外科学講座	金　一	水・金	17:00～18:00	西5階心臓血管外科　医局	内線：6411
	小泉　淳一	水・木	17:00～18:00		
	枝木　大治	月～金	17:00～18:00		
	齋藤　大樹	月～金	17:00～18:00		
	塩屋　雅人	月～金	17:00～18:00		
	田林　東	月～金	17:00～18:00		
	正木　直樹	月～金	17:00～18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤　元	月～金	8:30～17:00	呼吸器外科学講座　医局	内線：6505
	出口　博之	月～金	8:30～17:00		
	友安　信	月～金	8:30～17:00		
	重枝　弥	月～金	8:30～17:00		
	兼古　由香	月～金	8:30～17:00		
	岩井　英頌	月～金	8:30～17:00		
整形外科学講座	田島　吾郎	水	9:00～12:00	整形外科学講座　医局	内線：6562
	佐藤　光太朗	木	10:00～11:00		
	丸山　盛貴	木	17:00～18:00		
	大竹　伸平	木	16:00～17:00		
	三又　義訓	月	14:00～17:00		
	及川　伸也	金	9:00～10:00		
	及川　龍之介	火	16:00～17:00		
	鈴木　忠	金	9:00～10:00		
	村上　賢也	火	15:00～17:00		
	山部　大輔	水	17:00～18:00		
	楊　寛隆	金	17:00～18:00		
	千葉　佑介	金	9:00～10:00		
	和田　俊太郎	金	16:00～17:00		
	松浦　真典	水	8:30～9:30		
	髙橋　裕孝	水	8:30～9:30		
	月村　悦子	水	8:30～9:30		
形成外科学講座	櫻庭　実	水・金	17:00～18:00	医局	内線：6571
	本多　孝之	水・金	16:00～17:00		
	小野寺　文	水・金	16:00～17:00		
	三橋　伸行	木・金	16:00～17:00		
	阿部　桃子	月～金	15:00～16:30		
	山﨑　友和	月・水	16:00～17:00		
産婦人科学講座	馬場　長	火	16:00～17:00	産婦人科学講座　医局	内線：3750
	小山　理恵	金	16:00～17:00		
	庄子　忠宏	金	16:00～17:00		
	利部　正裕	金	16:00～17:00		
	岩動　ちず子	金	16:00～16:30		
	永沢　崇幸	金	16:00～17:00		
	尾上　洋樹	火	16:00～17:00		
	羽場　厳	金	16:00～17:00		
	川村　花恵	金	16:00～17:00		
	佐々木　佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　翔	講義終了後に受け付ける			
	髙取　恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道　善隆	金	16:00～17:00		
	村上　一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木　南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川　絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵　実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田　有加	講義終了後に受け付ける			
	髙木　駿	講義終了後に受け付ける			

小児科学講座	赤坂　真奈美	月・木	17:00～18:00	医局	内線：3701
	石川　健	火	12:00～13:00		
	齋木　宏文	木	12:00～17:00		
	外舘　玄一朗	火・木	13:00～17:00		
	鳥谷　由貴子	火・水・木・金	15:00～17:00		
	中野　智	火	12:00～13:00		
	松本　敦	月・水	17:00～18:00		
	三浦　翔子	水・金	14:00～16:00		
	水間　加奈子	月・火・金	12:00～13:00		
	草野　修司	月・火・金	12:00～13:00		
	朝倉　賀子	月・火・木・金	14:00～18:00		
	八鍬　瑛子	火・木	11:00～12:00		
	谷藤　幸子	月・火	12:00～14:00		
	浅見　麻耶	月・火	9:00～17:00		
	佐藤　啓	水・木	12:00～14:00		
	小野寺　千夏	金	12:00～14:00		
	田金　星都	月～木	16:00～17:00		
	滝沢　友里恵	木・金	12:00～14:00		
	千田　悠太郎	火・水	16:00～17:00		
	吉田　太郎	月・木・金	14:00～16:00		
	阿部　志津香	月～金	11:00～17:00		
	齋藤　寛治	月・金	16:00～17:00		
	鈴木　幸之介	月・水・木	9:00～17:00		
	高橋　学	火・木	14:00～16:00		
	千葉　智子	月・火・木・金	9:00～11:00		
	豊島　浩志	月・水・木	14:00～17:00		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00～19:00	医局	内線：6302
	片桐　克則	木・金	17:00～19:00		
	及川　伸一	火	10：00～17：00		
	亀井　昌代	火・木	17:00～		
	阿部　俊彦	火・木・金	17:00～		
	桂　彩	火・水	17:00～		
	土田　宏大	月	18:00～18：30		
眼科学講座	黒坂　大次郎	月	17:00～18:00	眼科学講座　医局	内線：6582
	橋爪　公平	月	16:00～17:00		
	新田　順福	月	17:30～18:30		
	及川　誠	月	17:30～18:30		
	清野　太郎	月	17:30～18:30		
	橋浦　哲哉	月	14:00～16:00		
	伊藤　愉一胤	月	17:00～18:00		
	今泉　利康	月	17:00～18:30		
	大島　広之	月	17:00～18:00		
	福田　一央	月	17:00～18:00		
皮膚科学講座	天野　博雄	水	17:00～18:00	皮膚科学講座　医局	内線：6543
	角田　加奈子	月	10:00～12:00		
	渡部　大輔	木	17:00～18:00		
	三浦　慎平	火	17:00～18:00		
	渡辺　彩乃	水	16:00～17:00		
	井上　剛	水	17:00～18:00		

泌尿器科学講座	小原　航	水	9:00～10:00	泌尿器科学講座　医局	内線：6551
	阿部　貴弥	月	9:00～10:00		
	杉村　淳	水	18:00～19:00	内丸MC控室	
	兼平　貢	火	18:00～19:00	泌尿器科学講座　医局	
	加藤　廉平	月	18:00～19:00		
	前川　滋克	火	18:00～19:00		
	五十嵐　大樹	火	18:00～19:00		
	塩見　叡	火	18:00～19:00		
	井藤　綾人	火	18:00～19:00		
	阿部　正和	火	18:00～19:00		
	田村　大地	海外留学中	海外留学中		
	久野　瑞貴	火	18:00～19:00		
神経精神科学講座	大塚　耕太郎	火	16:30～18:00	矢巾附属病院10階 神経精神科学講座　医局	内線：2011
	八木　淳子	金	12:00～13:00		
	三條　克巳	水	17:00～18:00		
	福本　健太郎	火	16:00～17:00		
	山家　健仁	火	16:00～17:00		
	内出　希	金	10:00～12:00		
	三田　俊成	水	16:00～17:00		
	吉岡　靖史	月	16:00～17:00		
	本多　笑奈	木	9:00～10:00		
放射線医学講座	田中　良一	月・金	16:00～16:30	放射線科　医局	内線：6322
	加藤　健一	月・水・木・金	16:00～16:30		
	鈴木　智大	火・木	16:00～17:00	放射線科　読影室	内線：2121
	田村　明生	火～金	16:00～17:00	放射線科　医局	内線：6322
	鈴木　美知子	月・木・金	9:00～10:00	放射線科　読影室	内線：2121
	折居　誠	月・金	16:00～17:00		
	小原　牧子	水	12:00～13:00		
	川島　和哉	月・金	15:00～17:00		
	曽根　美都	月・金	15:00～17:00		
	向井田　瑛佑	水・木	16:00～17:00		
	藤原　純平	月・金	15:00～17:00		
麻酔学講座	熊谷　基	月～金	16:30～	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑　光彦	月～金	16:30～		
	脇本　将寛	月～金	16:30～		
	水間　謙三	月～金	16:30～		
	久慈　昭慶	月～金	16:30～		
	中野　雄介	月～金	16:30～		
	田村　雄一郎	月～金	16:30～		
	畠山　知規	月～金	16:30～		
	宮田　美智子	月～金	16:30～		
	小川　祥平	月～金	16:30～		
	髙橋　裕也	月～金	16:30～		
	栗原　寛人	月～金	16:30～		
	新居　正季子	月～金	16:30～		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村　究	火	14:00～17:00	臨床検査医学・感染症学講座　教授室	内線：6331
	藤原　亨	木	12:00～13:00	臨床検査医学・感染症学講座　医局	
	小野寺　直人	木	9:00～10:00		
	熊谷　亜希子	月	12:30～13:30		
	七崎　之利	月	13:00～14:00		
	髙橋　敬太	木	11:00～12:00		
	日比谷　健司	火	9:00～12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬　智彦	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	髙橋　学	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	藤田　友嗣	月～金	12:00～13:00		
	菅　重典	月～木	12:00～13:00		
	佐藤　寿穂	月～金	12:00～13:00		
	吉直　大佑	月～金	12:00～13:00		
	森野　豪太	月～金	12:00～13:00		
	野々口　マリア	月～金	12:00～13:00		
	横藤　壽	月～金	12:00～13:00		
	富永　綾	火・水	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	藤原　弘之	火・木	14:00～17:00		
	金子　拓	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	寺山　茉莉	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	星　眞太郎	月～金	12:00～13:00		
総合診療医学講座	下沖　収	月	17:00～18:00	医局	内線：#6304
	大間々　真一	月	17:00～18:00		
	髙橋　智弘	木	17:00～18:00		
	米田　真也	月・火・水	16:00～17:00		
	山田　哲也	月・火	17:00～18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野　靖久	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2683
	小鹿　雅博	月～金	12:00～13:00		
	千田　光平	月～金	12:00～13:00		
	三﨑　俊斉	月～金	12:00～13:00		
	丹田　実	月～金	12:00～13:00		
	石井　修平	月～金	12:00～13:00		
	佐々木　秀策	月～金	12:00～13:00		
	八鍬　一貴	月～金	12:00～13:00		
	藤本　健太郎	月～金	12:00～13:00		
	石田　馨	月～金	12:00～13:00		
	藤澤　良介	月～金	12:00～13:00		
	佐藤　貴紀	月～金	12:00～13:00		
病理診断学講座	柳川　直樹	月～金	17:00～	医局	内線：2393
	刑部　光正	月～金	17:00～		
	杉本　亮	月～金	17:00～		
	伊藤　一洋	月～金	17：00～		
臨床腫瘍学講座	板持　広明	月	15:00～17:00	医局	内線：2083
	岩谷　岳	水・木	17:00～19:00		
	遠藤　史隆	金	15:00～17:00		
医療安全学講座	肥田　圭介	木	12:00～14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島　嗣生	火・水	17:00～19:00	睡眠医療学科　医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川　敬輔	月・火・木	17:00～19:00		
	細川　里絵	水	9:00～12:00		
臨床遺伝学科	鈴森　伸宏	金	16:00～17:00	臨床遺伝学科　医局	内線：#3258
	山本　佳世乃	金	16:00～17:00		
	吉田　明子	水	16:00～17:00		
	小林　有美子	金	16:00～17:00		
	勝部　暢介	月	16:00～17:00		
緩和医療学科	木村　祐輔	月～水	17:00～18:00	緩和医療学科　医局	内線：3364
	鴻巣　正史	月・火・金	17:00～18:00		
	中村　聖華	月・火	17:00～18:00		
放射線腫瘍学科	有賀　久哲	火	17:00～18:30	医局	内線：6322
	菊池　光洋	月	17:00～18:00		
	及川　博文	火	17:00～18:00		
	家子　義朗	月	17:00～18:00		
	瀬川　昂史	月	12:00～13:00		
リハビリテーション医学講座	西村　行秀	月・火	月：14:00～17:00 火：10:00～12:00	教授室	内線：3733
	西山　一成	火・金	火：　9:00～12:00 金：10:00～12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平　美津子	火	17:00～18:00	神経精神科学講座　医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門	永井　雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門	須藤　洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山﨑　弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠　詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

医歯薬総合研究所　オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門	西塚　哲	火・木	火：16:00～17:00木：12:00～13:00	教授室	内線：5685
	世良田　聡	月・木	13:00～17:00	107室	内線：5635
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00	医局	内線：6471
	阿保　亜紀子	水・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳　平	月～金	16:00～17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開　勇人	火・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	寺崎　一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下　典生	月・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野　育子	月・火・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木　敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井　淳	水	12:00～13:00	動物研究センター	内線：5390
	松田　豪	火・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	森　太志	水・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。
有効に利用してください。
希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属		氏名	曜日	時間帯	備　考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野　富一	月・水・金	12:00~13:00	場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原　哲也	火・木・金	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣　祥	火・水・木	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦　太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00	場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野　孝	月～金	16:00~18:00	場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中　孝昌	金	16:20~17:00	場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本　泰光	月～金	16:30~17:30	場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
	分析化学分野	藤本　康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。
生物薬学講座	機能生化学分野	關谷　瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00	場所：機能生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	生体防御学分野	大橋　綾子	月～金	12:05~12:55	場　所：生体防御学分野にて（東研究棟3階 352-353） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
		錦織　健児	月～金	16:10~18:00	
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場　博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原　俊朗	月・火・木	16:10～18:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム（西研究棟356）等 左記以外でも在室時は可
			水・金	18:00～19:00	
		髙橋　巌	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口　拓也	月～金	16:00~19:00	場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
医療薬科学講座	創剤学分野	杉山　育美	月～金	16:10~17:30	場所：創剤学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬物代謝動態学分野	幅野　渉	月～金	16:00~18:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島　潤	月～金	9:00~17:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 在室時は随時対応
	衛生化学分野	杉山　晶規	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤　穂波	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤　賢三	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀　純一	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋　宏彰	月～金	16:30~18:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷　直之	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京　智子	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		氏家　悠貴	火～金	13:00~17:00	
	地域医療薬学分野	松浦　誠	月～金	16:10~18:00	場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石　博久	月～金	12:10~12:50	場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部　オフィスアワー　一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属		担当教員	曜日	時間帯	備　考
共通基盤看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	基礎	野里　同	火･水･木	16：30～17：30	研究室19　内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木　ゆきえ	水	16：00～17：00	研究室8　内線5401　事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林　由美子	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5402　事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田　悠史	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5406　メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤　奈美枝	月	16：00～17：00	研究室6　内線5419　事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤　奈央	火・木	16：00～17：00	研究室20　内線5358　事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂　未来	火・金	15：30～16：30	研究室13　内線5404　事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上　邦子	月・金	16：30～17：30	研究室13　内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中　るり子	木	16：00～17：00	研究室9　内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
地域包括ケア講座（マルチメディア教育研究棟４階）	地域	岩渕　光子	木	12：00～13：00	研究室5　内線5416　事前連絡があれば随時可 iwabuchi@iwate-med.ac.jp
		藤澤　純子	月・金	12：00～13：00	研究室9　内線5359　事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
		赤井　純子	火・木	12：00～13：00	研究室9　内線5426　メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
		五日市　瑠美子	水・木	12：00～13：00	研究室9　内線5202　事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
	老年	舘向　真紀	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5407　事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池　佑弥	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5405　事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
	精神	遠藤　太	木	16：30～18：00	研究室3　内線5417　事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地　美枝	水・木	16：00～17：00	研究室4　内線5201　事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		髙崎　邦子	火・木	16：30～17：30	研究室16　内線5418　事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
成育看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	小児	髙橋　亮	水	16：30～17：00	研究室17　内線5203　事前連絡があれば調整可 tryo@iwate-med.ac.jp
		伊東　佐由美	月～金	16：00～17：00	研究室14　内線5409　事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛎﨑　奈津子	月	15：00～17：00	研究室7　内線5353　事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田　由希子	水・木	12：00～14：00	研究室11　内線5355　事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里　真澄	月・水	15：00～17：00	研究室10　内線5354　事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		髙橋　淳美	火･木･金	16：00～17：00	研究室14　内線5427　事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座（東研究棟２階）		遠藤　龍人	水・木	14：00～16：00	研究室2　内線5420　メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp
		塚本　恭正	月～金	15：00～17：00	研究室3　内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp
		一ノ渡　学	水・木	15：00～17：00	研究室4　内線5422　事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp
看護学部		非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。		